

平成30年度
多摩区区民意識アンケート調査
報告書

平成31年3月



川崎市多摩区

目次

I. 調査概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査方法	3
3. 調査項目	3
4. 回収状況	3
5. 図表の見方	3
6. 数の表現	4
7. 標本誤差	4
II. 調査回答者の属性	5
問27 性別	7
問28 年齢	7
問29 職業	7
問29-1 業種・職務	8
問30 通勤先／通学先	8
問31 居住地	9
問32 住居形態	9
問33 世帯人数	10
問33 同居家族	10
問34 子どもの年代	11
問35 最寄り駅までの交通手段	11
問36 居住年数	11
問37 区の知らせや情報の入手手段	12
III. 調査結果	13
1. 多摩区の長所・魅力	15
2. 住みやすさ	17
3. 定住意向	19
4. 区外転居意向の理由	21
5. 多摩区に対する愛着や誇り	23
6. 多摩区的生活環境	29
7. 市政についてよくやっていると思うもの	42
8. 市政について今後特に力を入れてほしいもの	44
9. 市の施策や事業の総合満足度	46

10. 地域活動の状況	48
11. 行っている地域活動の分野	51
12. 地域活動をする上で支援を受けたいと思うもの	53
13. 地域活動を行っていない理由	55
14. 地域活動を始めるために必要な機会や場	57
15. 地域活動への取組意向	59
16. 地域活動への関心分野	61
17. 町内会・自治会への加入状況	63
18. 町内会・自治会に加入していない理由	66
19. 区民と行政が協働して取り組んだほうが効果的だと思うもの	69
20. 多摩区の見どころ	71
21. 「ピクニックタウン多摩区」の認知状況	73
22. 「ピクニックタウン多摩区」のロゴマークの認知状況	76
23. 大規模な災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組	78
24. 災害に対する備えに関する情報の効果的な提供手段	80
25. 「地域包括ケアシステム」の認知状況	82
26. 近所付き合いの程度	84
27. 近所に手助けを頼める人の有無	86
28. 手助けを頼まれた場合に自分にできると思うこと	88
29. 自分と背景が異なる人との付き合いの状況	90
30. 地域の健康づくり活動への参加経験と参加意向	92
31. 「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向	94
32. 認知症カフェやコミュニティカフェの認知度と参加経験	97
33. 知っている3大学関連イベント	99
34. 区役所が力をいれて取り組むべき施策	102

IV. 調査票	107
---------	-----

I . 調查概要

I. 調査概要

1. 調査実施の目的

区民が日頃多摩区について感じていることや、区民の地域活動に関する意識、多摩区役所が推進する主な取組に関する意識などを調査することで、多摩区役所が区民に身近な総合行政機関として、地域の課題解決や、地域の魅力を活かした取組を効果的に推進していくための参考とすることを目的とした。

2. 調査方法

- (1) 調査の対象者 …… 多摩区在住の18歳以上の男女個人（外国人を含む）
- (2) 標本数 …… 2,000サンプル
- (3) 標本抽出方法 …… 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
- (4) 調査方法 …… 郵送法（郵送配布・郵送回収）
- (5) 調査期間 …… 平成30年10月29日（月）～11月28日（水）
- (6) 調査委託機関 …… 株式会社サーベイリサーチセンター

3. 調査項目

- (1) 生活環境の足度について
- (2) 市政への参加、地域でのボランティア活動などについて
- (3) 区役所が推進する主な取組について

4. 回収状況

- (1) 標本数 : 2,000票
- (2) 無効回答数 : 5票
- (3) 有効回答数 : 1,012票
- (4) 有効回収率 : 50.6%

5. 図表の見方

- (1) 表中のnは回答者総数のことである。いくつでも○（複数回答）などの場合は回答が2つ以上ありうる。したがって、合計比は100%を超える。
- (2) 百分比はNを100%として算出し、図表中では原則として単純集計については小数第2位を四捨五入して第1位まで、その他のクロス集計については小数第1位を四捨五入して整数としたものを使用した。このため、百分比の合計が100%に満たない、又は上回る場合がある。

6. 数の表現

N = 調査対象者数

n = 各質問ごとの回答者数

7. 標本誤差

- (1) 各項目のはじめに質問項目と共に示してある単純集計のnは、回答者数のことである。質問に対する回答は、1つの場合や2つ以上、いくつでもよい場合（複数回答）などがあるが、複数回答の場合、合計比は100%を超えることがある。
- (2) 百分比はnを100%として算出し、本文及び図表中では原則として小数第2位を四捨五入して小数第1位まで示した（経年推移では、小数第1位を四捨五入して整数で表示）。図表中の「0」または「0.0」は四捨五入の結果を示し、「-」は皆無の結果を示している。このため、百分比の合計が100%に満たない、あるいは上回る場合がある。また、2つ以上の選択肢の合計値が、グラフと文中との間で誤差が生じる場合もある。
- (3) 標本誤差

この調査の標本誤差（サンプル誤差）はおよそ下表のとおりである。標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、①比率算出の基数（n）、及び②回答の比率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差（単純無作為抽出の場合）
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答の比率

50.6%

回答の比率 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,012	±1.9	±2.5	±2.9	±3.1	±3.1
851	±2.1	±2.7	±3.1	±3.4	±3.4
677	±2.3	±3.1	±3.5	±3.8	±3.8
561	±2.5	±3.4	±3.9	±4.1	±4.2
418	±2.9	±3.9	±4.5	±4.8	±4.9
377	±3.1	±4.1	±4.7	±5.1	±5.2
148	±4.9	±6.6	±7.5	±8.1	±8.2
93	±6.2	±8.3	±9.5	±10.2	±10.4

注) 1. 上表は $\frac{N - n}{N - 1} \div 1$ として算出した。

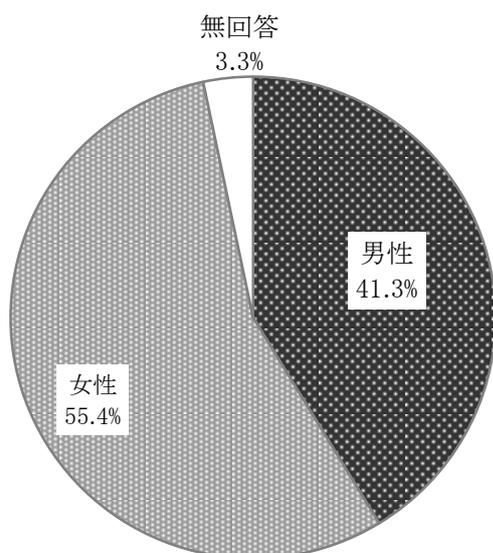
2. この表は、ある設問の回答者数が817人でありその設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも ±3.4%以内ということを表わす。

Ⅱ. 調査回答者の属性

Ⅱ. 調査回答者の属性

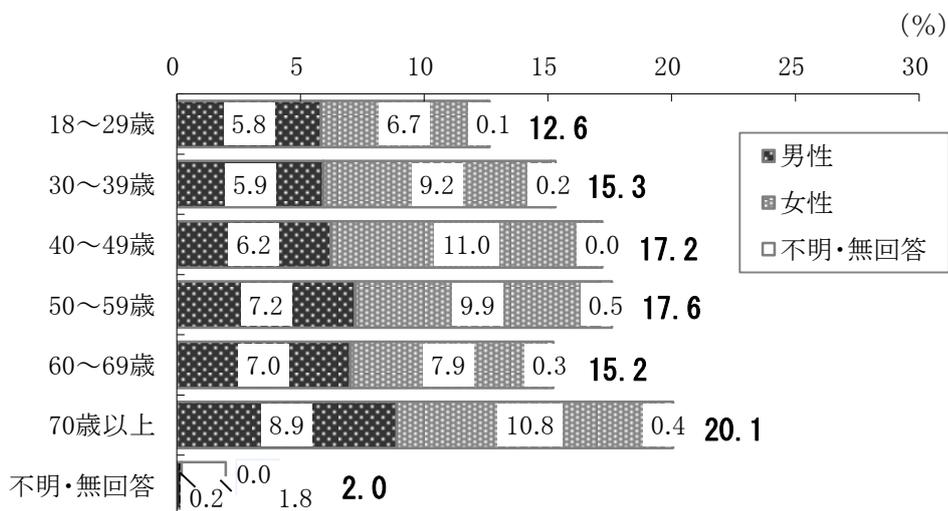
問27 性別

(N=1,012)



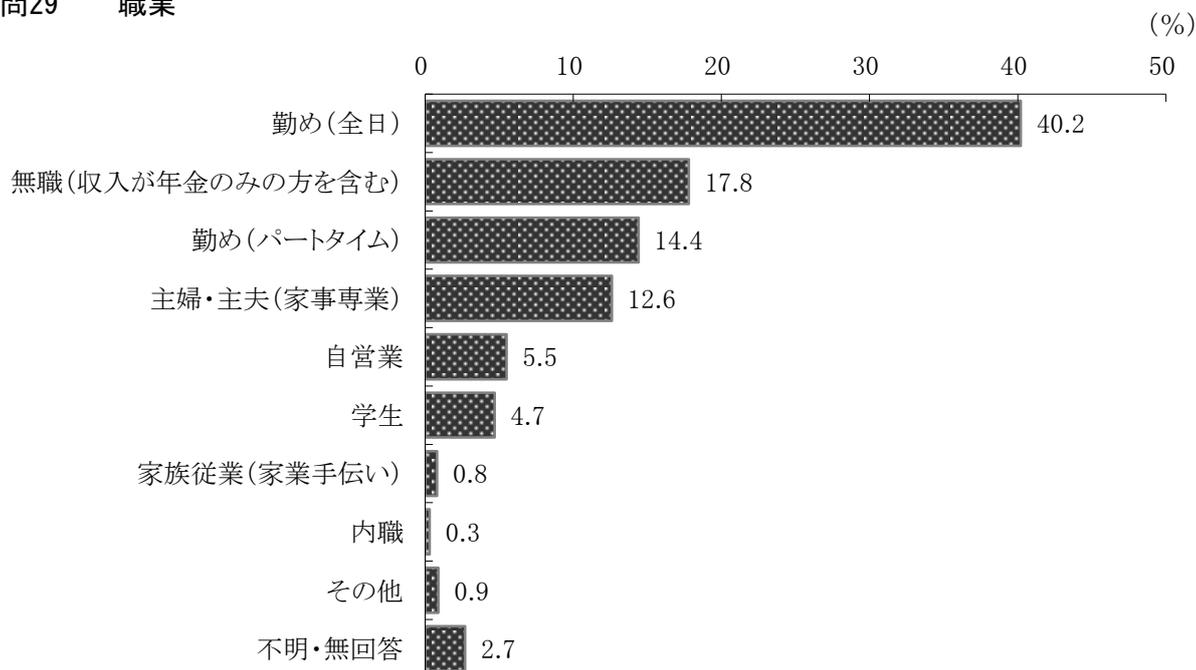
問28 年齢

(N=1,012)



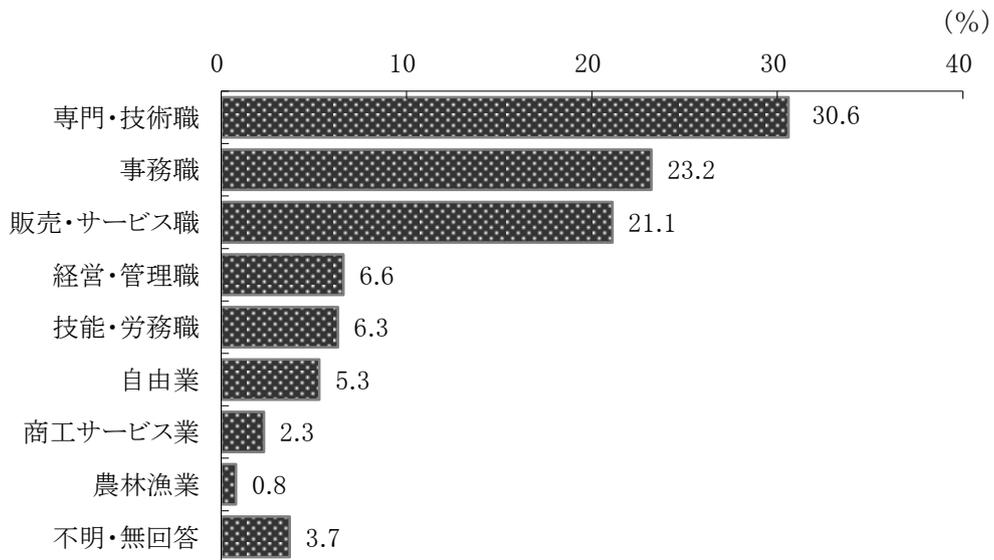
問29 職業

(N=1,012)



問29-1 業種・職務

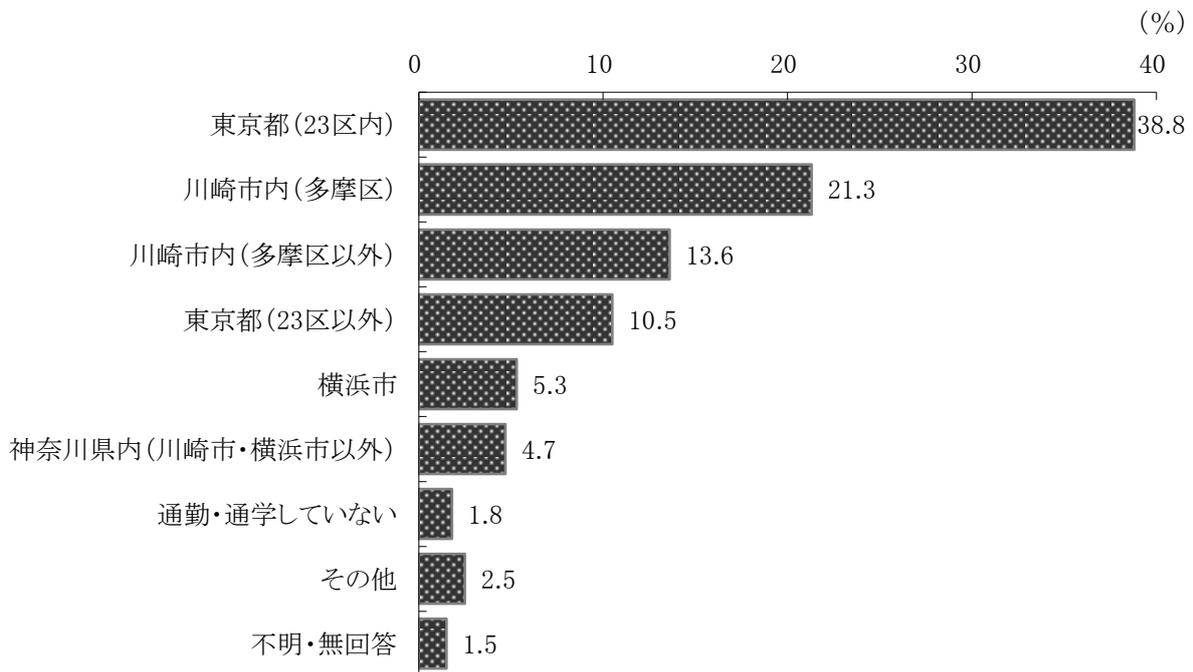
(N=617)



※ 問29で「1. 自営業」、「2. 家族従業（家業手伝い）」、「3. 勤め（全日）」、「4. 勤め（パートタイム）」と選択した人のみ回答。

問30 通勤先／通学先

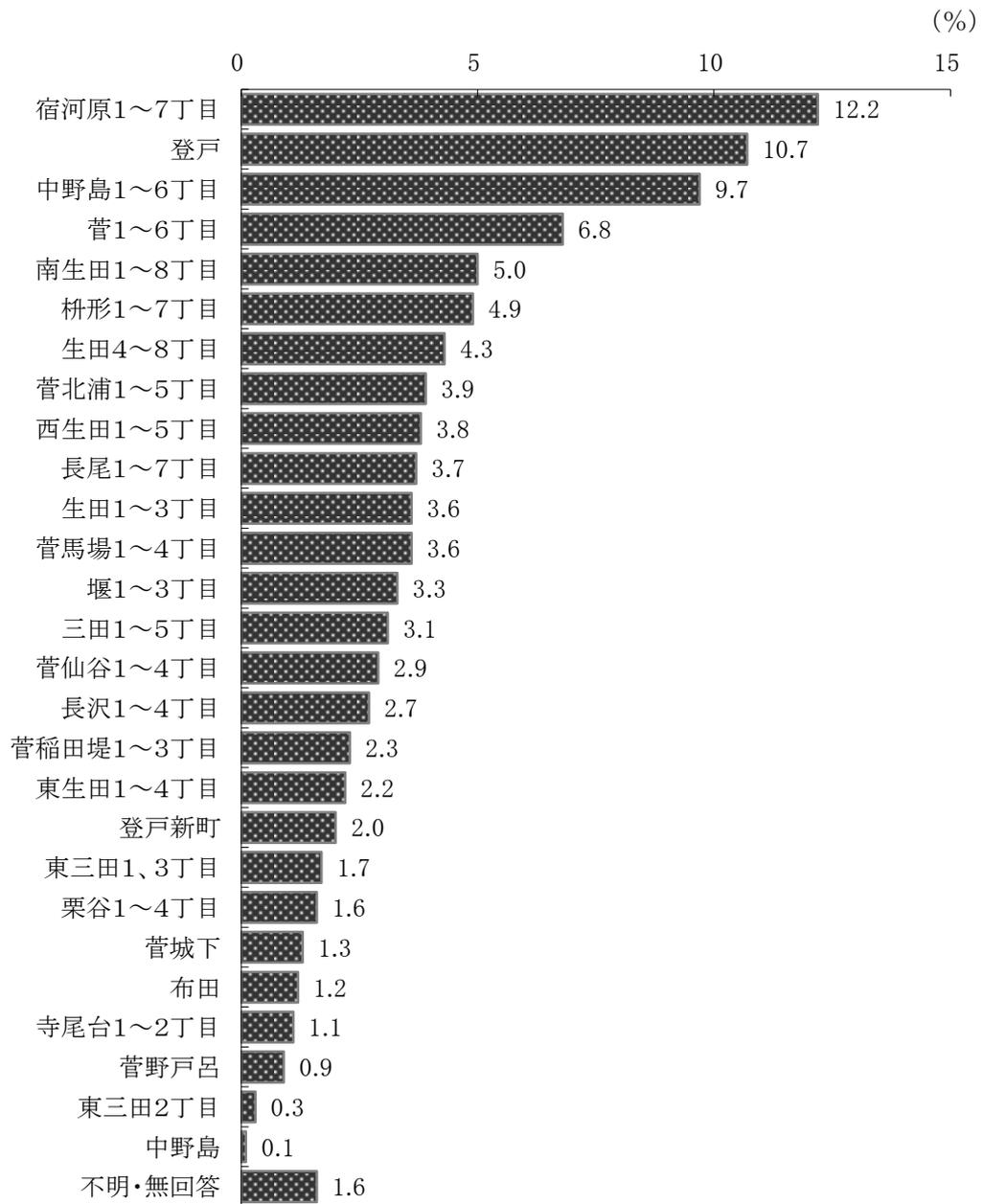
(N=677)



※ 問29で「6. 主婦・主夫（家業専業）」、「8. 無職（収入が年金のみの方を含む）」、「不明・無回答」であった人を除いて集計。

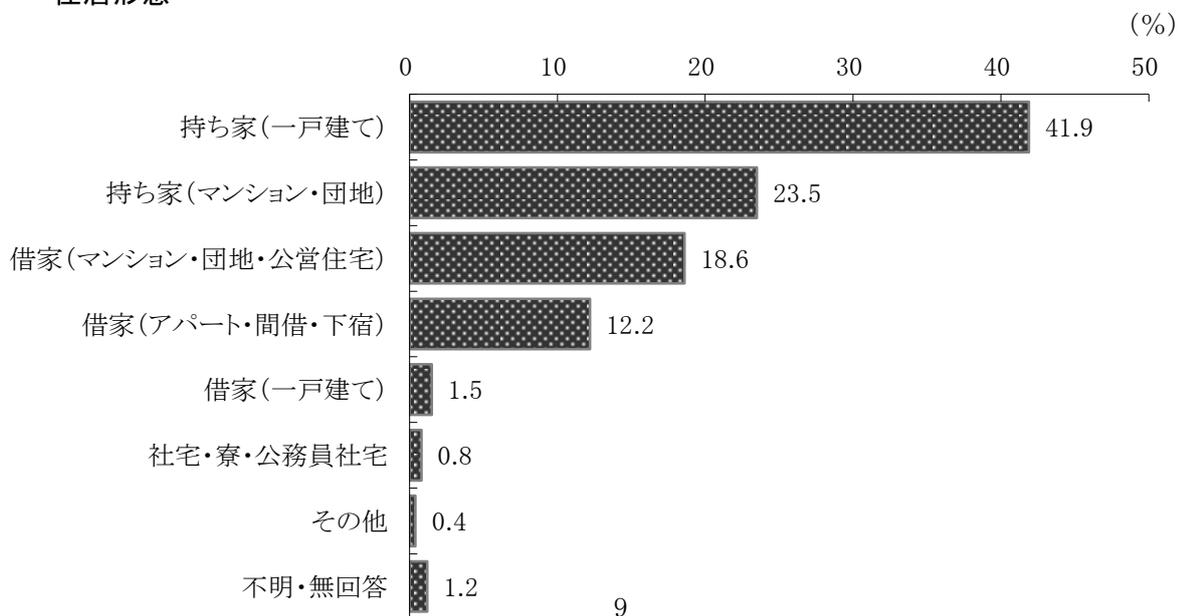
問 31 居住地

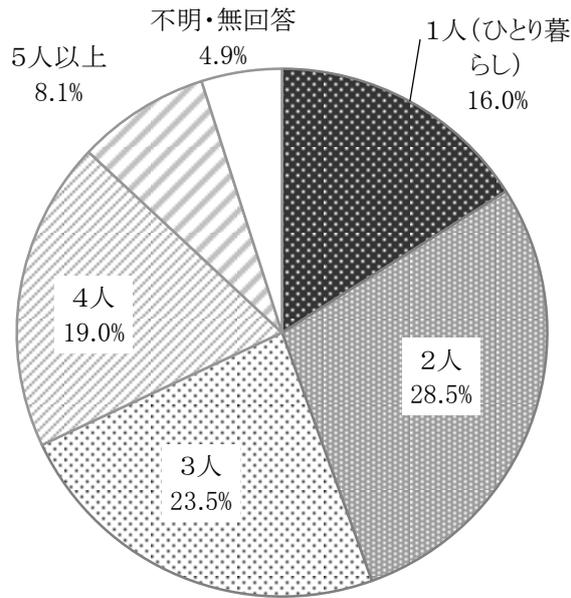
(N=1,012)



問 32 住居形態

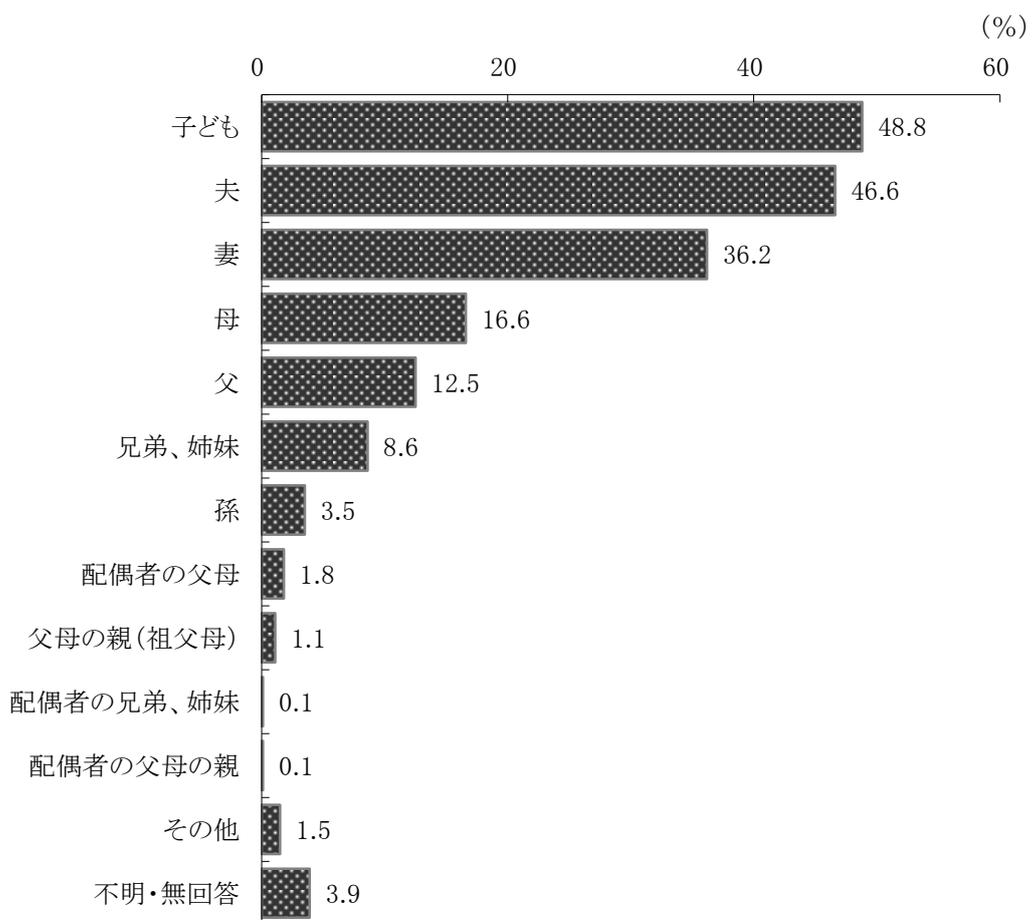
(N=1,012)





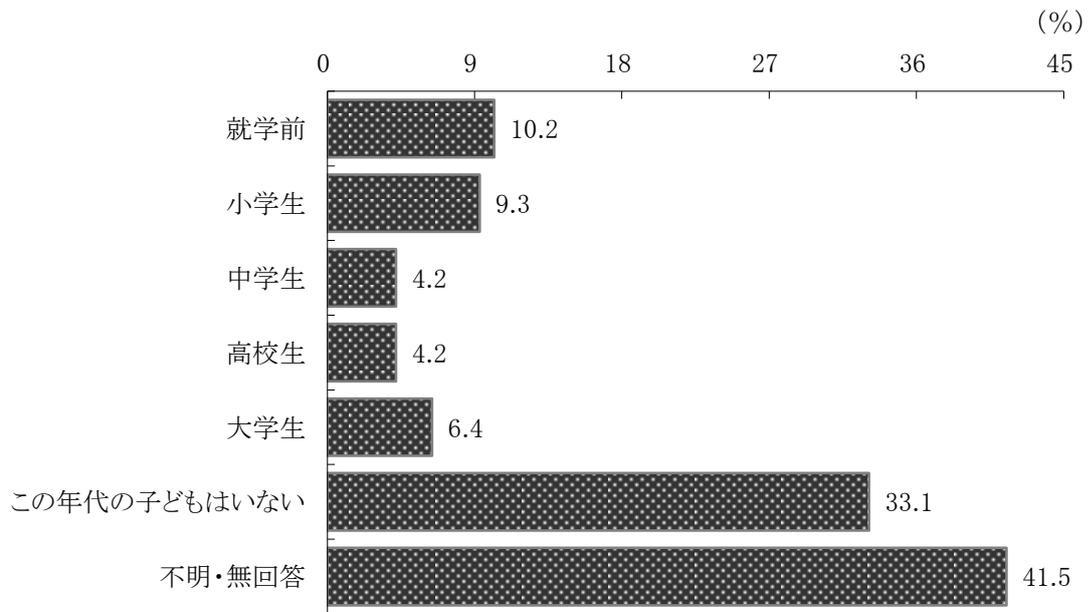
同居家族

(N=850)



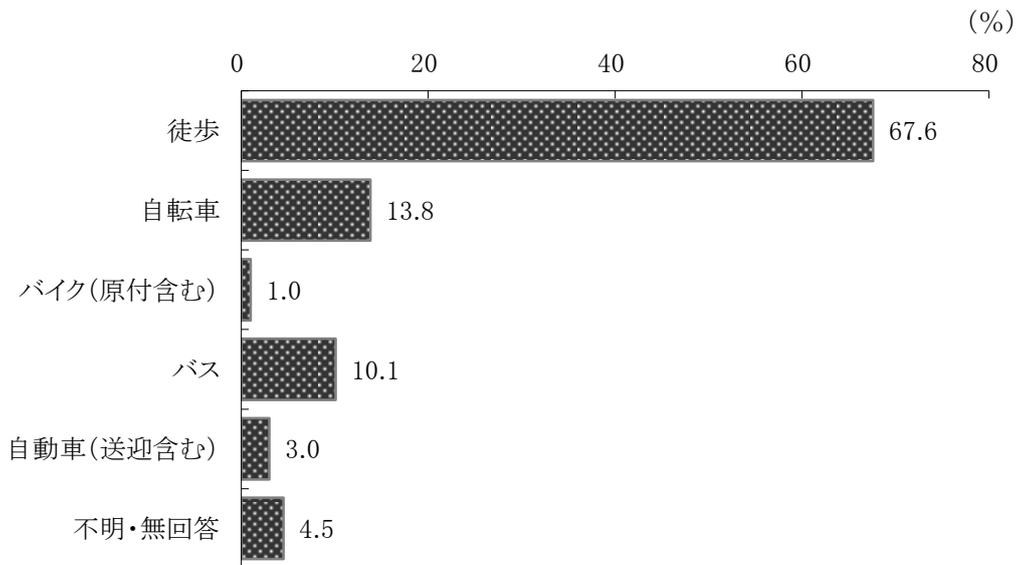
問 34 子どもの年代

(N=1,012)



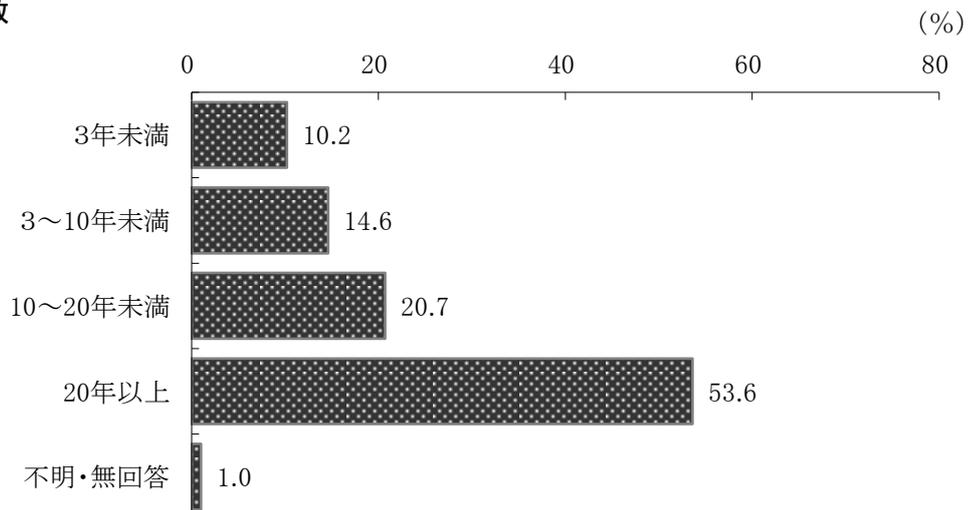
問 35 最寄り駅までの交通手段

(N=1,012)



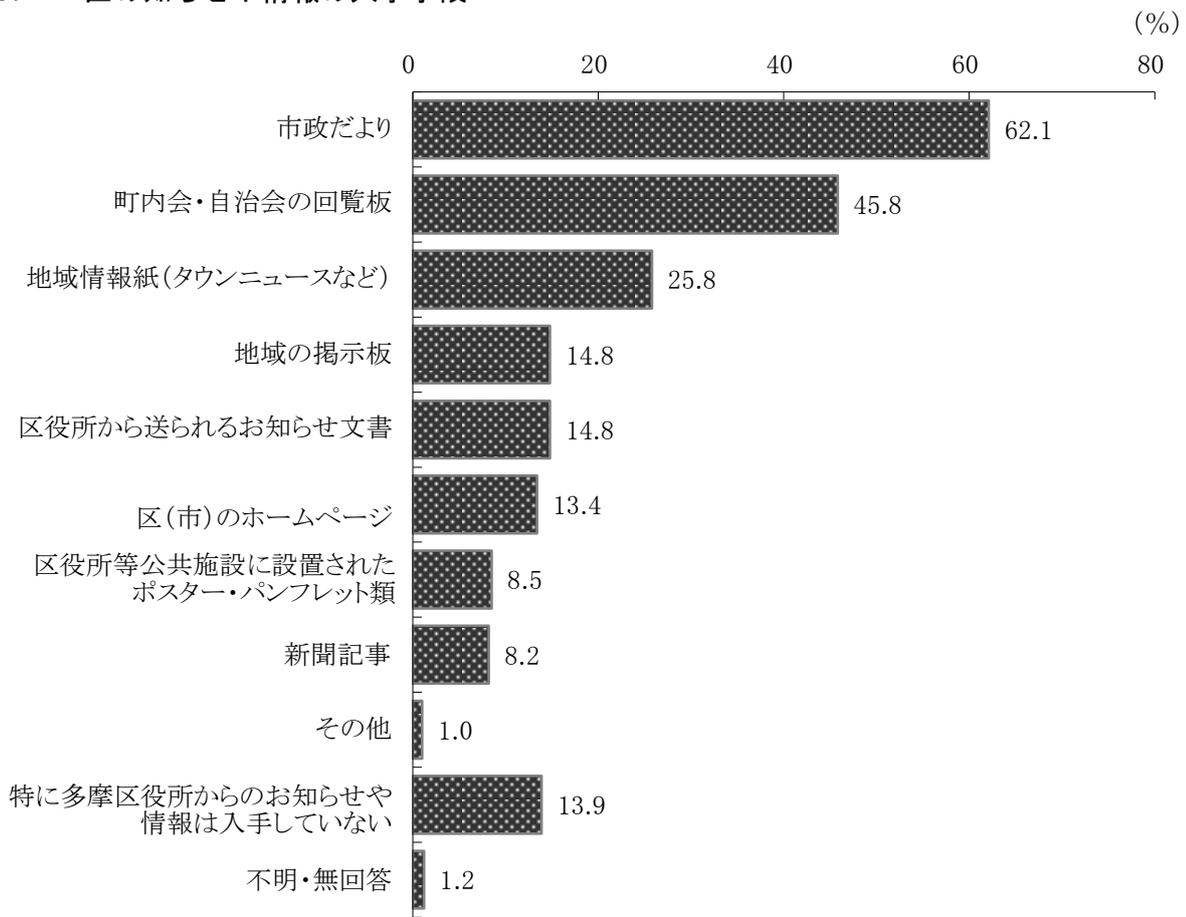
問 36 居住年数

(N=1,012)



問 37 区の知らせや情報の入手手段

(N=1,012)



Ⅲ. 調査結果

※設問によっては、回答者の居住地区別の集計を行っているが、各地区の範囲は次のとおりである。

登戸地区----- 登戸・登戸新町

菅地区----- 菅稲田堤1～3丁目・菅北浦1～5丁目・菅城下・菅仙谷1～4丁目・菅野戸呂・
菅馬場1～4丁目・菅1～6丁目

中野島地区----- 中野島・中野島1～6丁目・布田

稲田地区----- 宿河原1～7丁目・堰1～3丁目・長尾1～7丁目

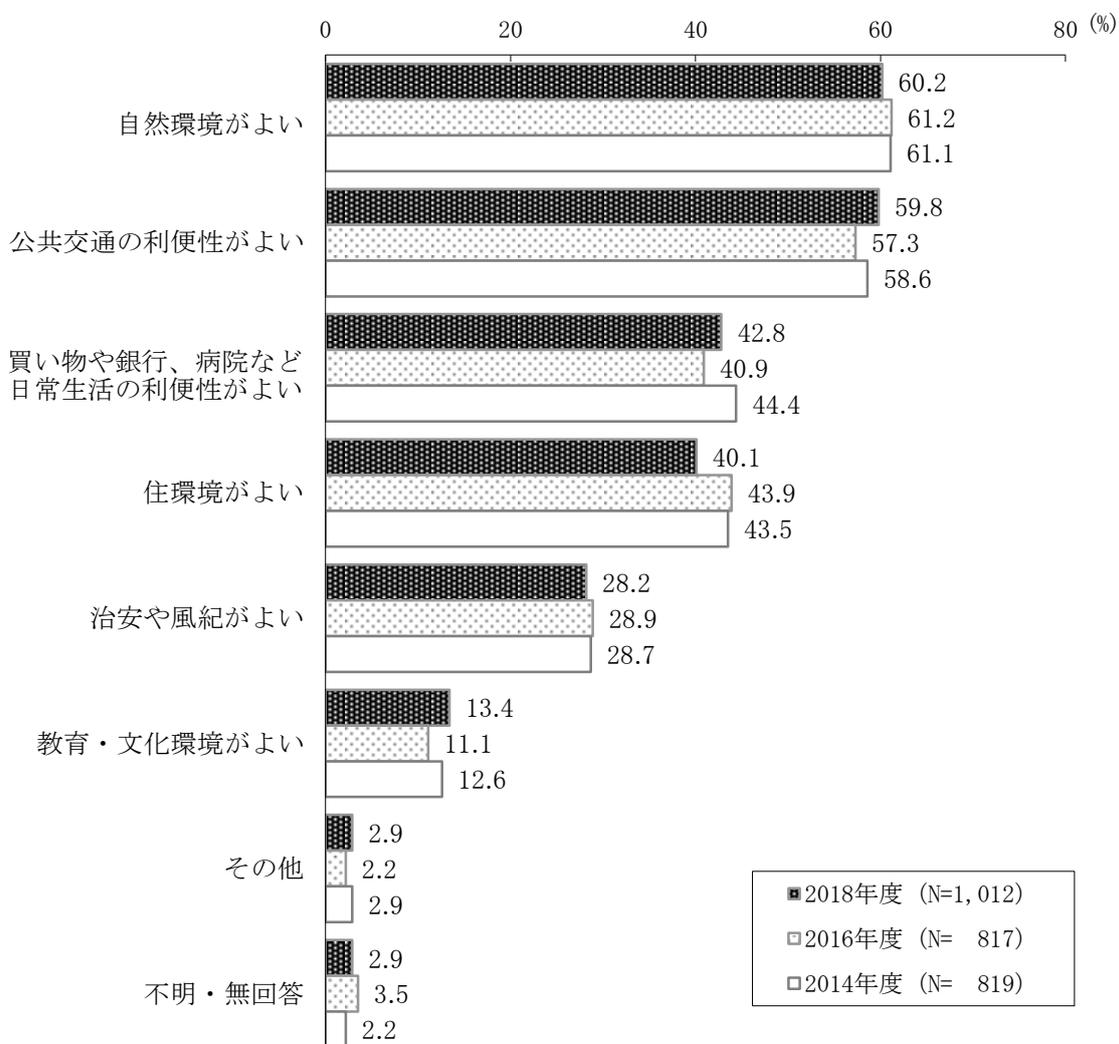
生田地区----- 生田1～3丁目・生田4～8丁目・東生田1～4丁目・東三田1、3丁目・東三田2丁目・
枅形1～7丁目・栗谷1～4丁目・寺尾台1～2丁目・長沢1～4丁目・
西生田1～5丁目・三田1～5丁目・南生田1～8丁目

Ⅲ 調査結果

1. 多摩区の長所・魅力

問1 多摩区の長所・魅力とされているものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

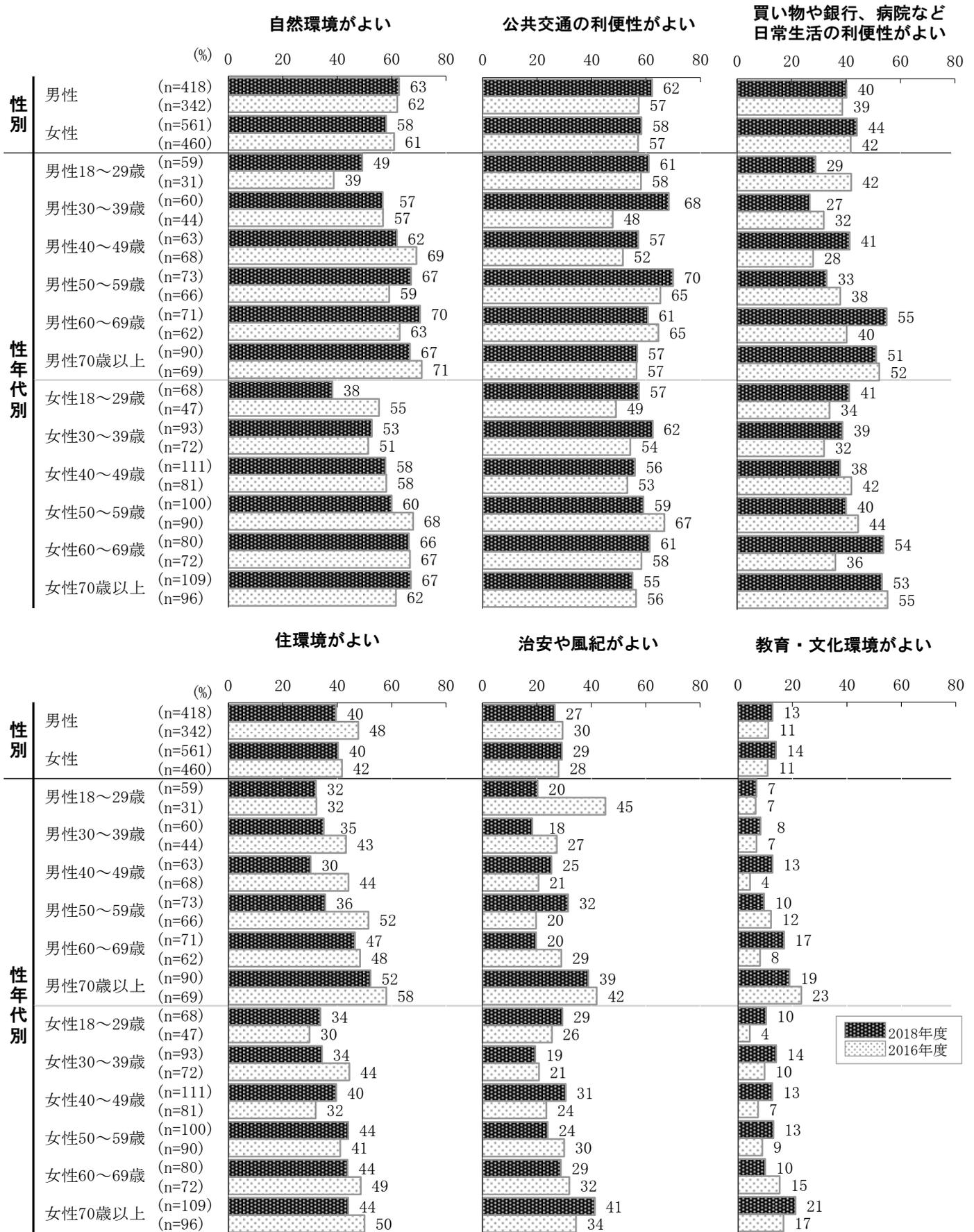
図1-1 多摩区の長所・魅力



「多摩区の長所・魅力」について聞いたところ、「自然環境がよい」(60.2%)が最も高い結果となり、次いで「公共交通の利便性がよい」(59.8%)と上位2項目が50%を超える高い結果となった。

2016年度も「自然環境がよい」、「公共交通の利便性がよい」が上位2項目となっており、ほぼ同じ傾向となった。

図 1-2 多摩区の長所・魅力（性別・性年代別）

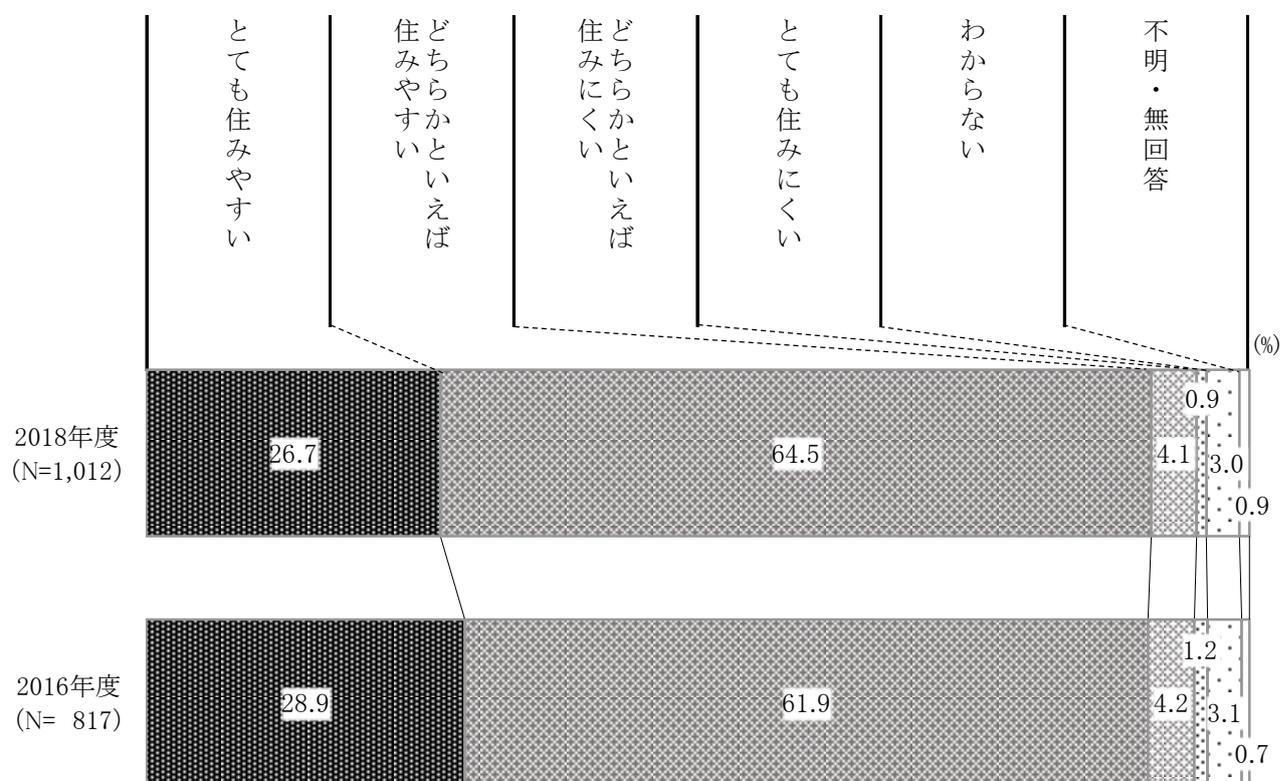


性年代別で見ると、「自然環境がよい」は、男性40歳以上、女性50歳以上で60%を超え高い結果となった。また「公共交通の利便性がよい」は、男性18～39歳と50～69歳、女性30～39歳と60～69歳で60%を超え高い結果となった。

2. 住みやすさ

問2 あなたにとって多摩区はどの程度住みやすいですか。(○は1つだけ)

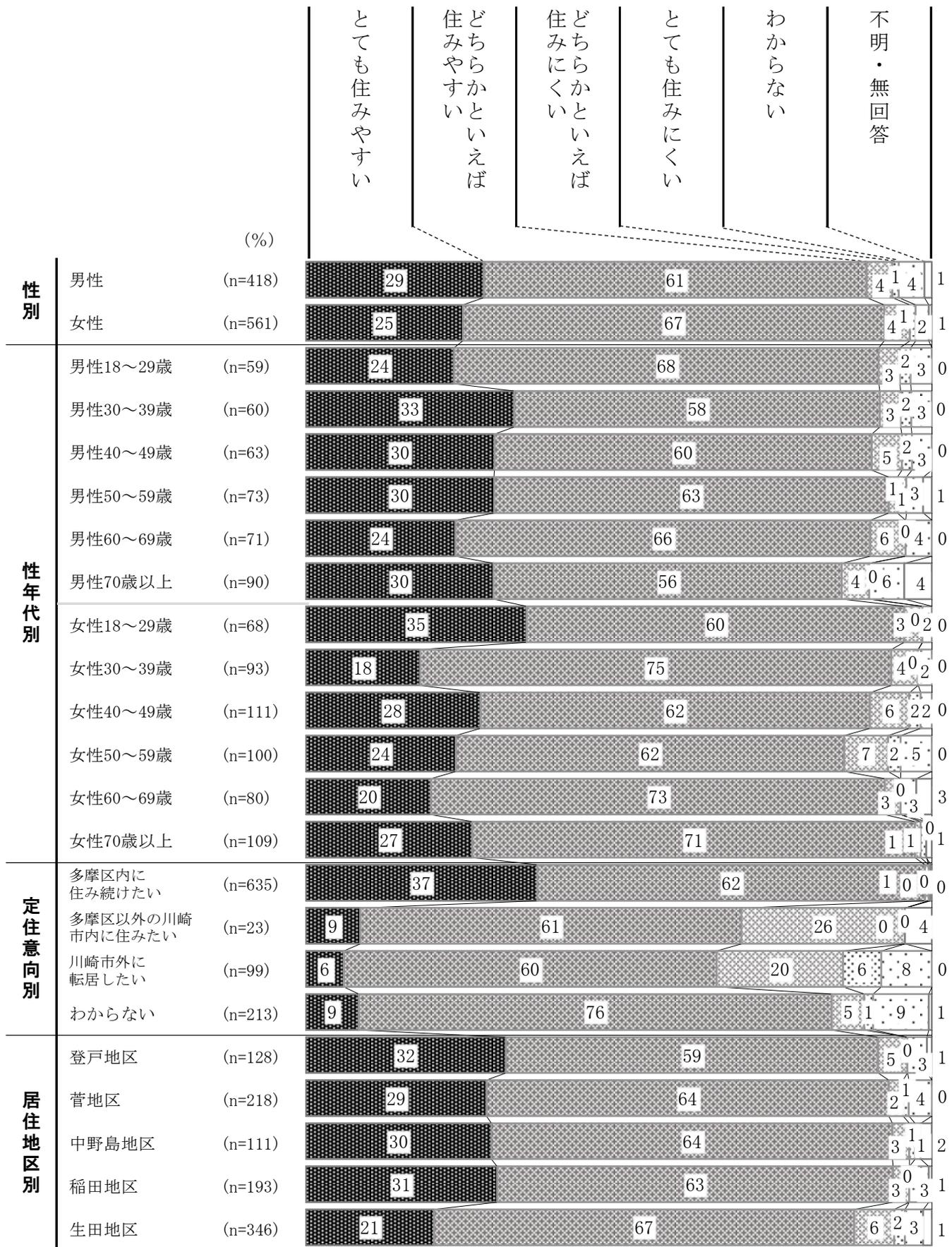
図 2-1 住みやすさ



「住みやすさ」について聞いたところ、「どちらかといえば住みやすい」(64.5%)、「とても住みやすい」(26.7%)の順となり、「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい計』(91.2%)が高い結果となった。

2016年度との比較では、『住みやすい計』だけでなく全体的にほぼ変わらない結果となった。

図 2-2 住みやすさ（性別・性年代別・定住意向別・居住地区別）

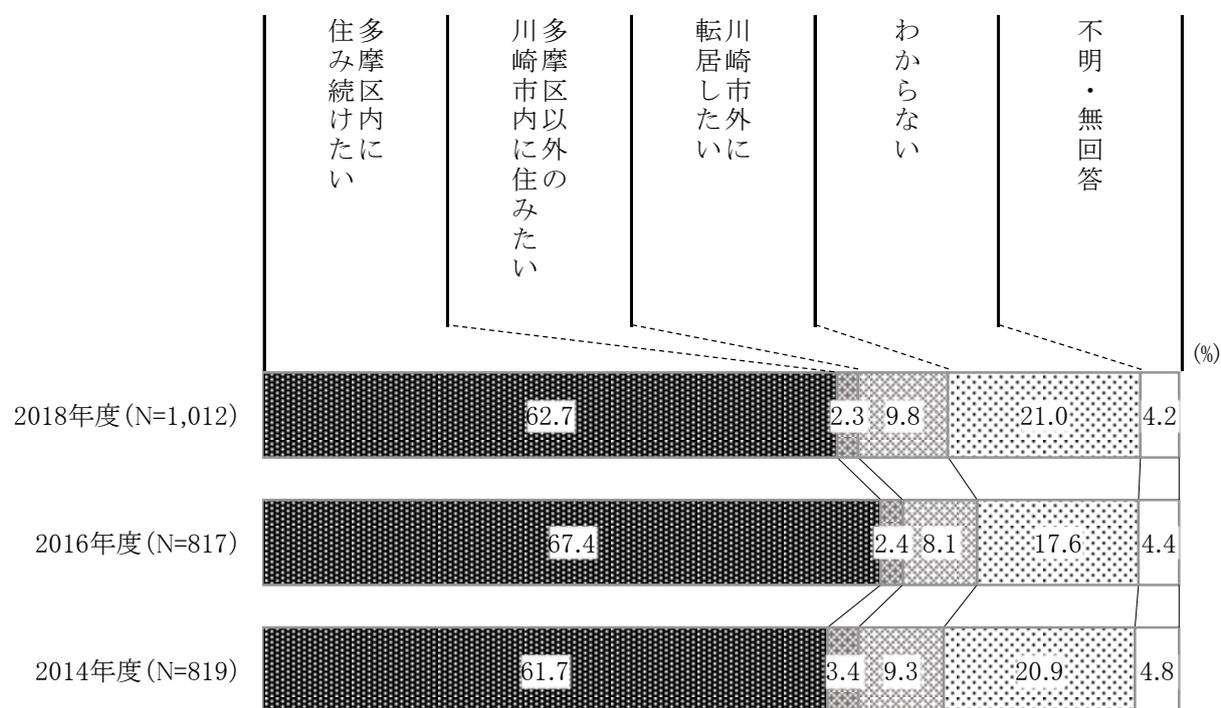


「とても住みやすい」と「どちらかといえは住みやすい」を合わせた『住みやすい計』では、性別、性年代別、定住意向別、居住地区別の全てで半数を超える高い結果となった。

3. 定住意向

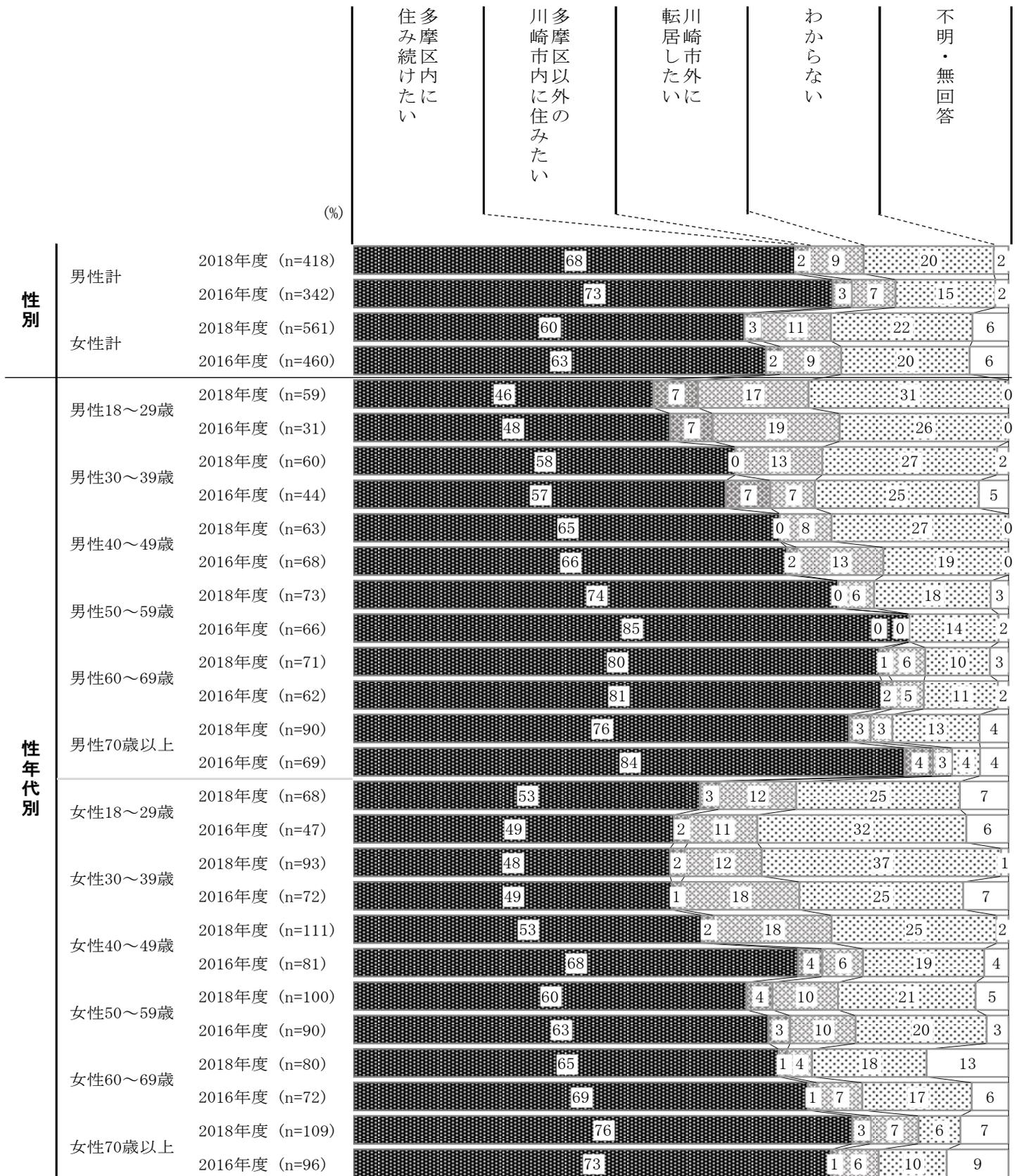
問3 多摩区に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

図3-1 定住意向



「定住意向」について聞いたところ、「多摩区内に住み続けたい」(62.7%)が最も高い結果となった。2016年度も、「多摩区内に住み続けたい」(67.4%)の割合が最も高かったが、2018年度は少し減少した。

図 3-2 定住意向（性別・性年代別）

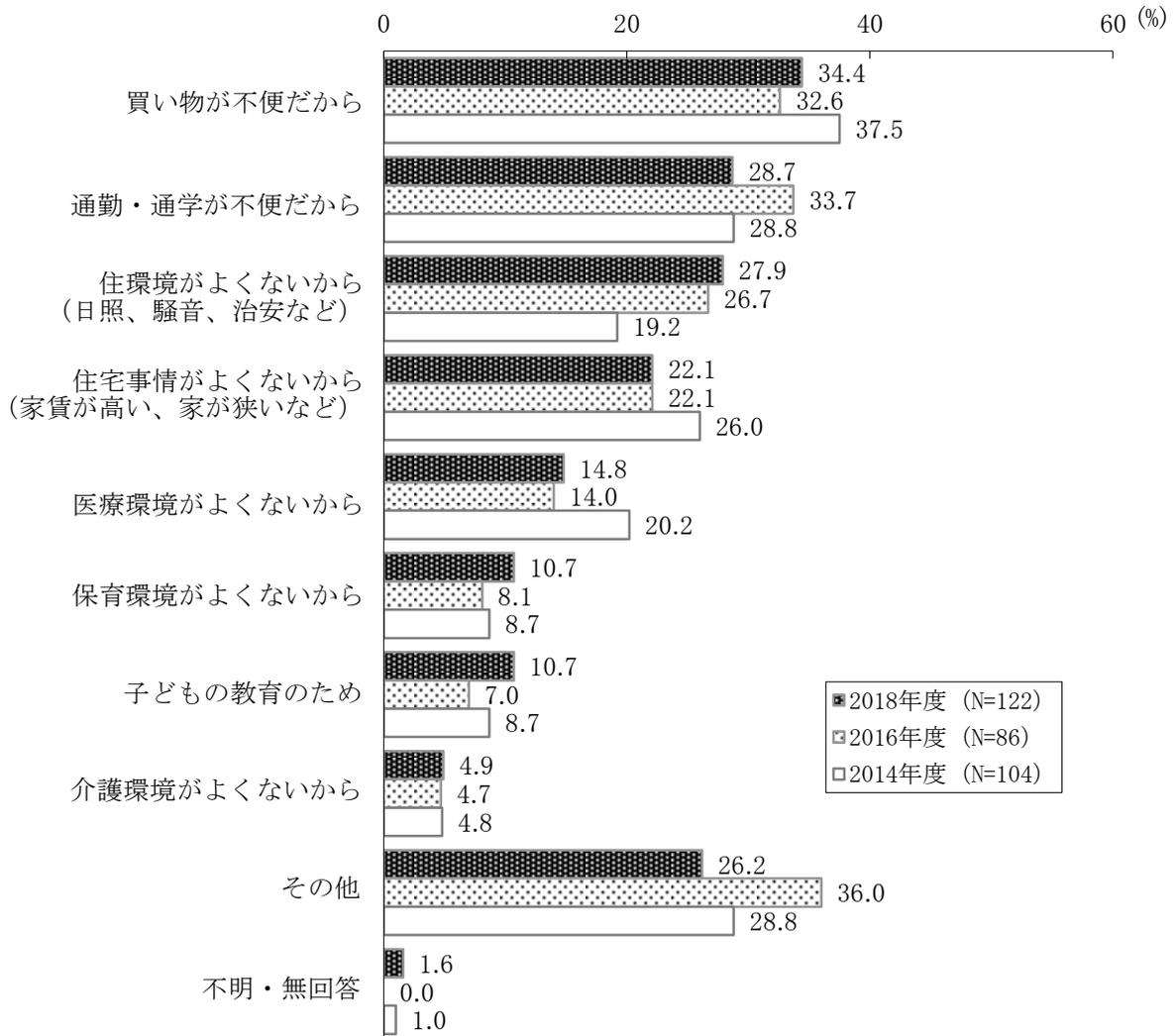


「多摩区内に住み続けたい」の割合は、性別で見ると、2016年度と同様に女性より男性の方が高い結果となった。また、性年代別で見ると、年代が上がるほどおおむね高くなる傾向となった。

4. 区外転居意向の理由

問3-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

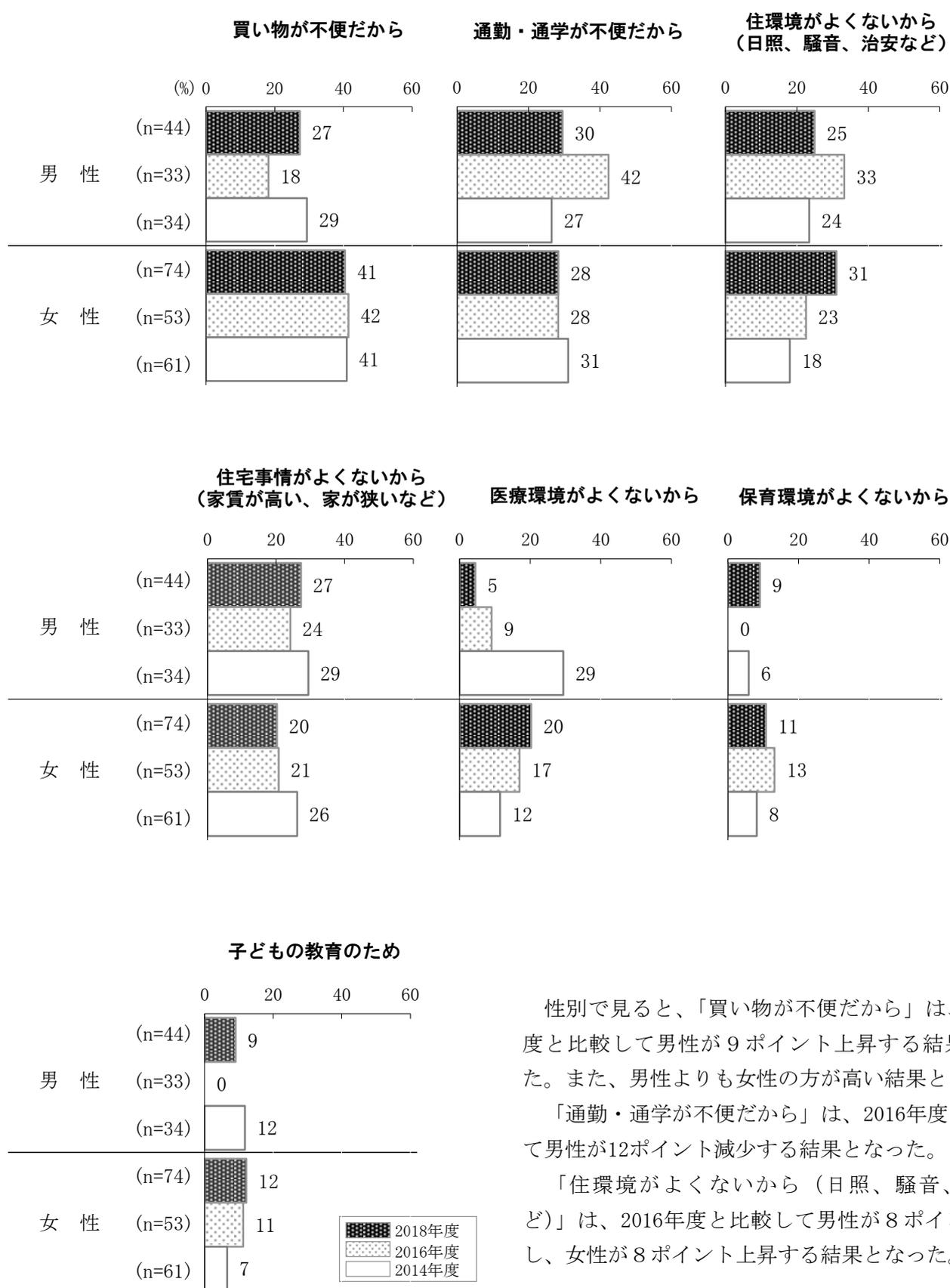
図 4-1 区外転居意向の理由



「3. 定住意向」で「多摩区以外の川崎市内に住みたい」、「川崎市外に転居したい」と回答した人に「区外転居意向の理由」について聞いたところ、「買い物が不便だから」(34.4%)が最も高く、次いで「通勤・通学が不便だから」(28.7%)、「住環境がよくないから(日照、騒音、治安など)」(27.9%)の順となり、上位2項目は2016年度から入れ替わっている。

その中で、「通勤・通学が不便だから」は、2016年度と比較して5ポイント減少する結果となった。

図 4-2 区外転居意向の理由（性別）＜上位 6 位＞



性別で見ると、「買い物が不便だから」は、2016年度と比較して男性が9ポイント上昇する結果となった。また、男性よりも女性の方が高い結果となった。

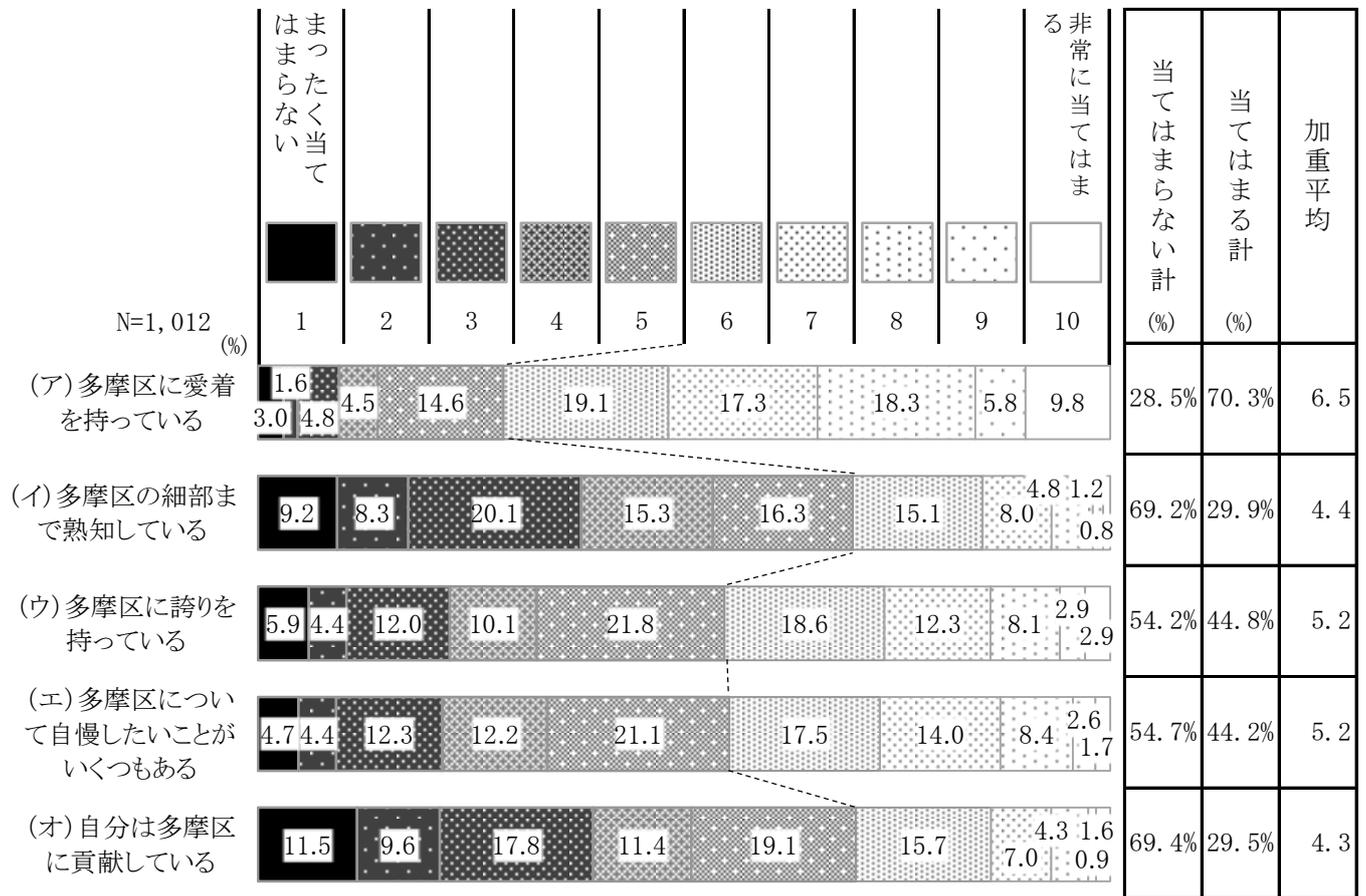
「通勤・通学が不便だから」は、2016年度と比較して男性が12ポイント減少する結果となった。

「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」は、2016年度と比較して男性が8ポイント減少し、女性が8ポイント上昇する結果となった。

5. 多摩区に対する愛着や誇り

問4 あなたにとって多摩区は、以下の項目に関してどの程度あてはまりますか。あてはまると感じるものをお選びください。(○は各項目で1つだけ) (「非常に当てはまる」を10、「まったく当てはまらない」を1として10段階)

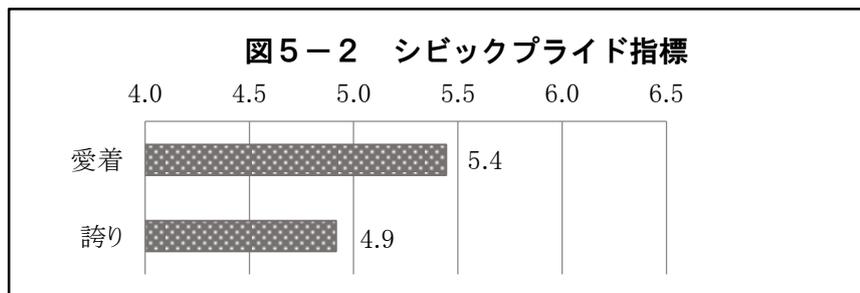
図5-1 多摩区に対する愛着や誇り



「1」から「5」までの合計を『当てはまらない計』、「6」から「10」までの合計を『当てはまる計』とする。

「6」から「10」までを『当てはまる計』とすると、他の項目に比べ、「(ア) 多摩区に愛着を持っている」(70.3%)が最も高かった。

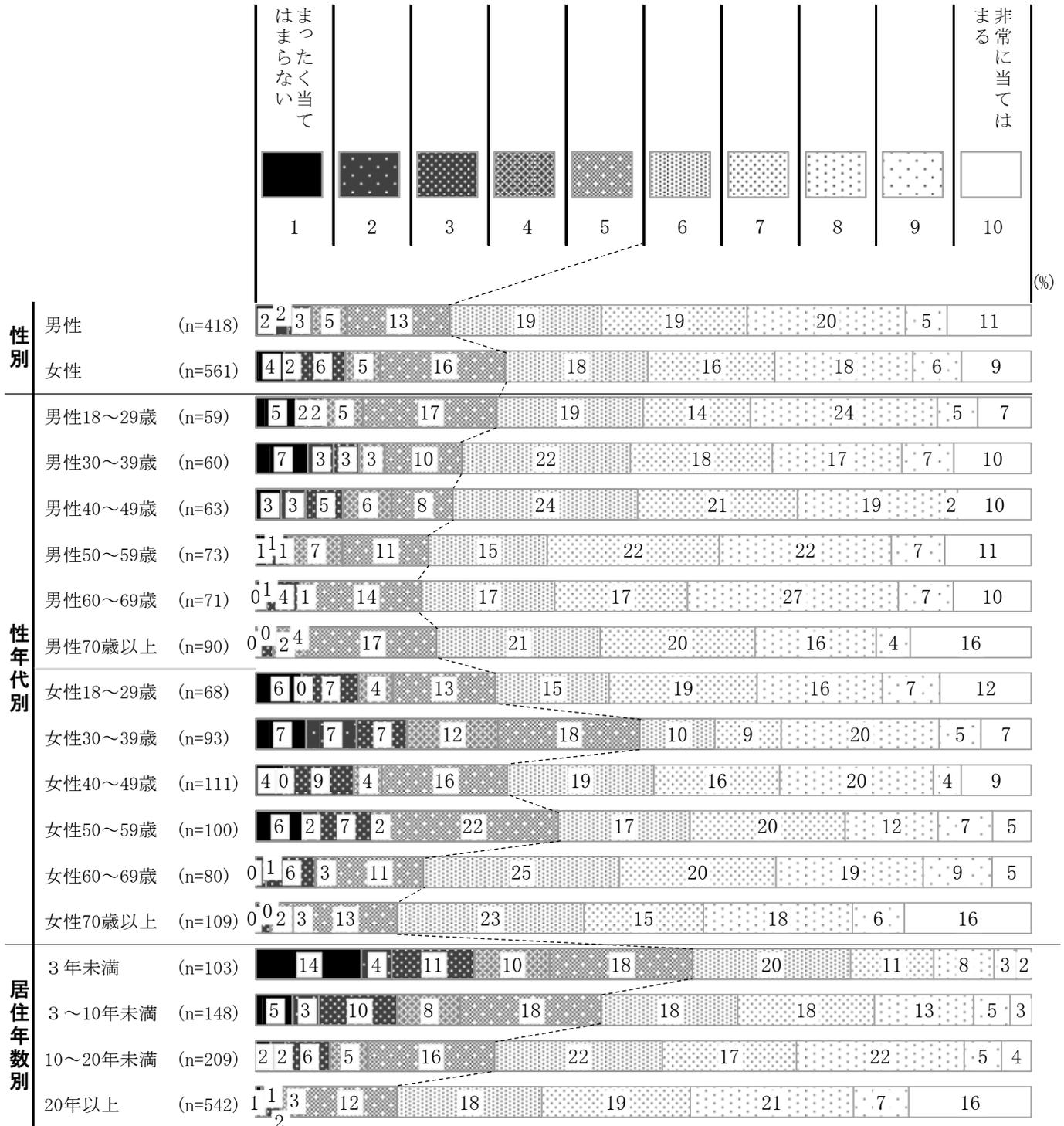
一方、『当てはまる計』が最も低かったのが、「(オ) 自分は多摩区に貢献している」(29.5%)となった。



シビックプライド指標とは、自分の住んでいるまちに対する愛着や誇りを表す概念のこと。多摩区では、質問(ア)、(イ)を「愛着」、質問(ウ)、(エ)、(オ)を「誇り」の指標として、それぞれの質問項目の平均値から算出した。

図 5-3 多摩区に対する愛着や誇り（性別・性年代別・居住年数別）

問4. (ア) 多摩区に愛着を持っている

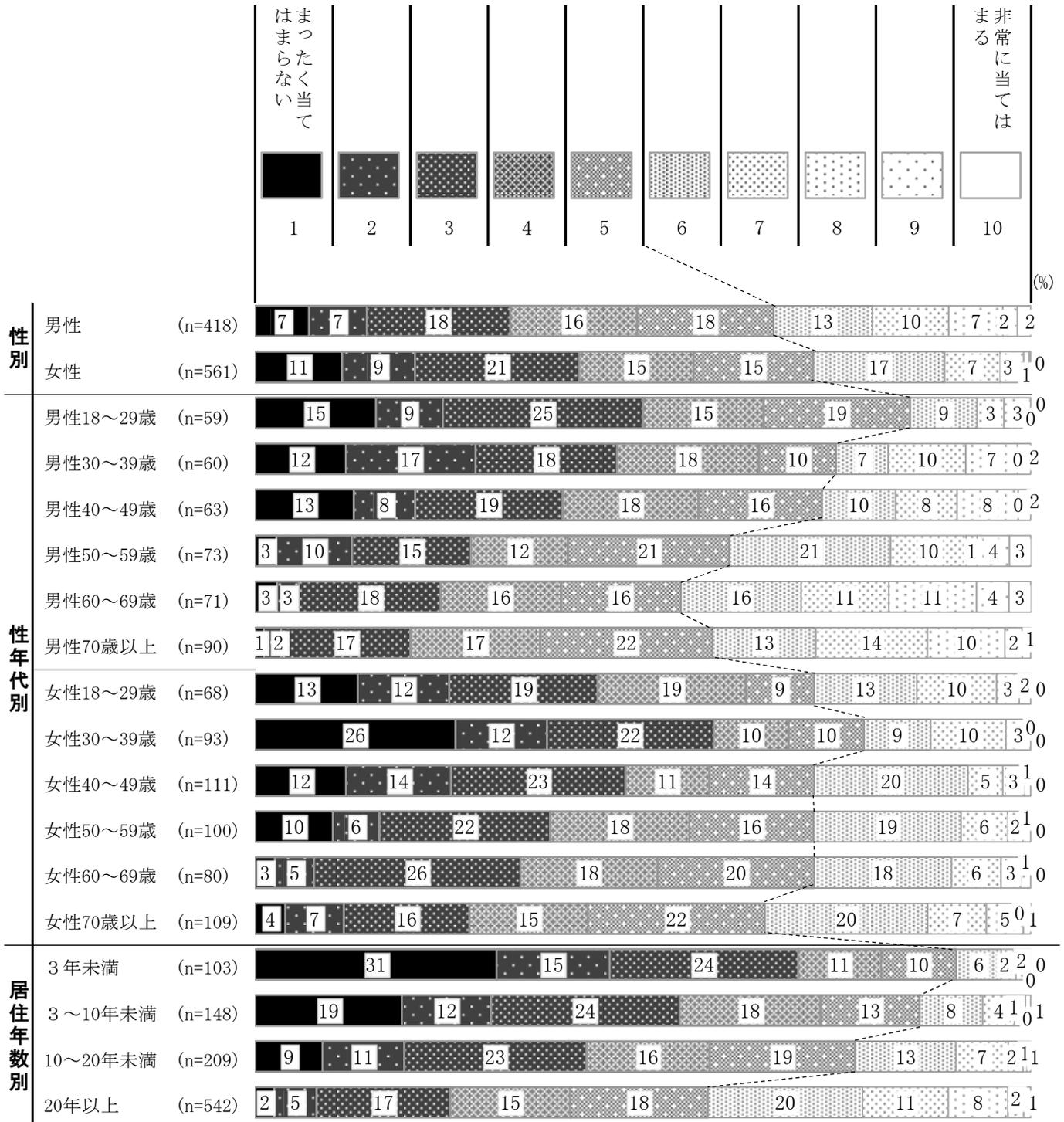


「多摩区に愛着を持っている」を性年代別で見ると、「6」から「10」までを合計とした『当てはまる計』の割合は、男女とも年代が上がるほどおおむね高くなる傾向となった。

同様に、『当てはまる計』の割合は、居住年数が長くなるほど高くなった。

図 5-4 多摩区に対する愛着や誇り（性別・性年代別・居住年数別）

問 4. (イ) 多摩区の細部まで熟知している

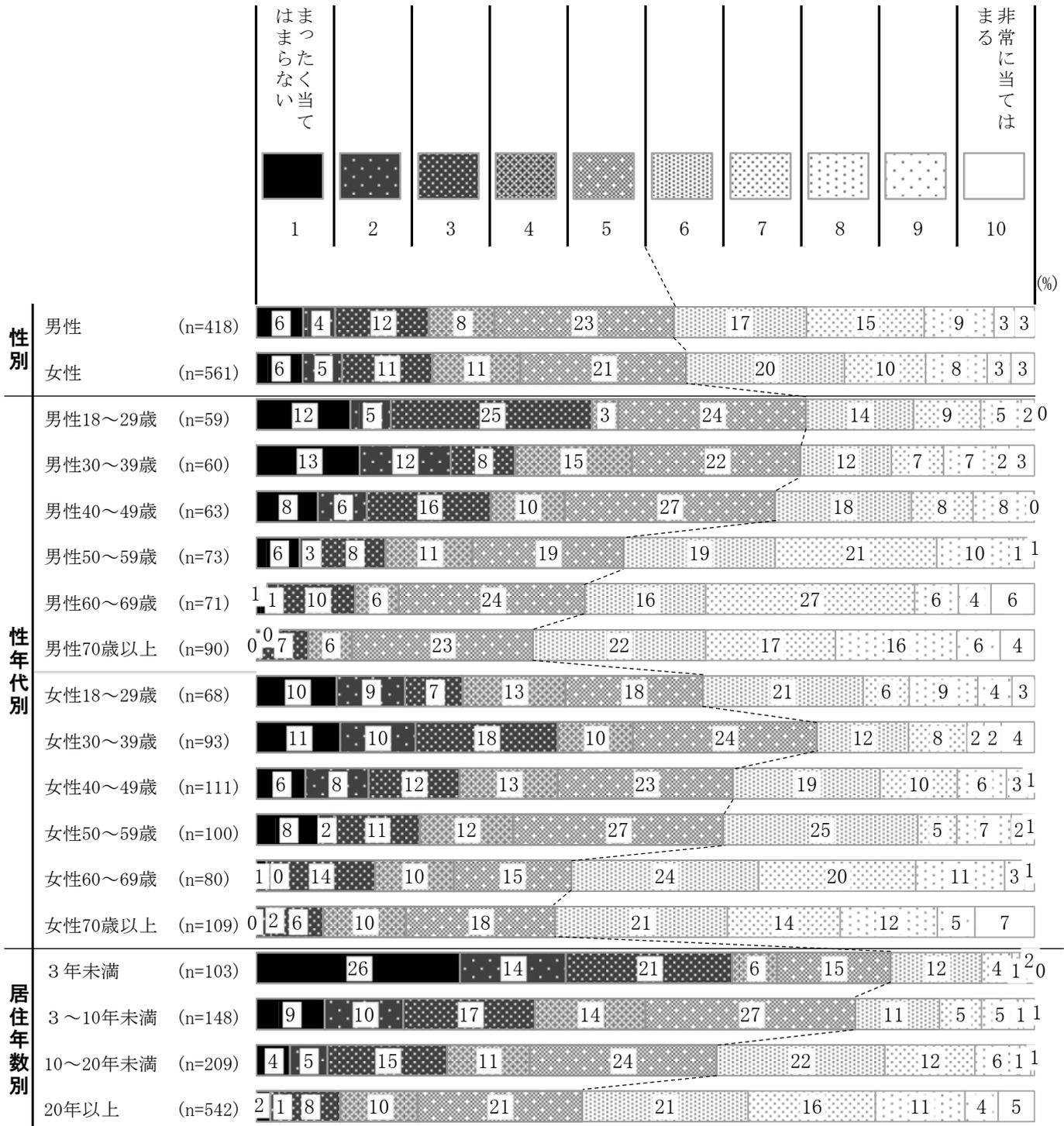


「多摩区の細部まで熟知している」を性年代別で見ると、『当てはまる計』の割合は、男女とも年代が上がるほどおおむね高くなる傾向となった。

同様に、『当てはまる計』の割合は、居住年数が長くなるほど高くなった。

図 5-5 多摩区に対する愛着や誇り（性別・性年代別・居住年数別）

問4. (ウ) 多摩区に誇りを持っている

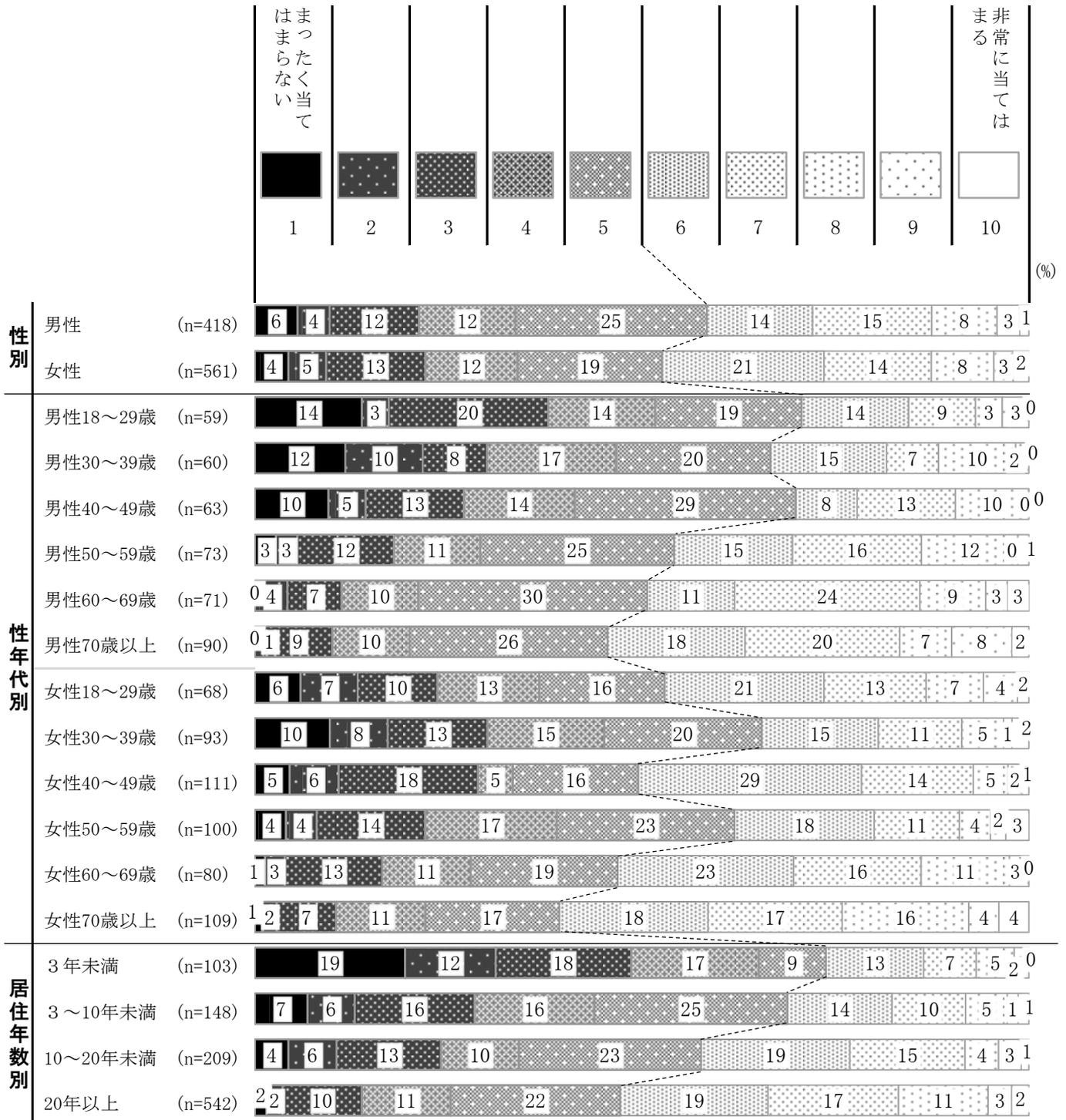


「多摩区に誇りを持っている」を性年代別で見ると、『当てはまる計』の割合は、男性は年代が上がるほど高くなる傾向となり、女性は60歳代以上で50%を超え高い結果となった。

同様に、『当てはまる計』の割合は、居住年数が長くなるほど高くなった。

図 5-6 多摩区に対する愛着や誇り（性別・性年代別・居住年数別）

問 4. (エ) 多摩区について自慢したいことがいくつもある

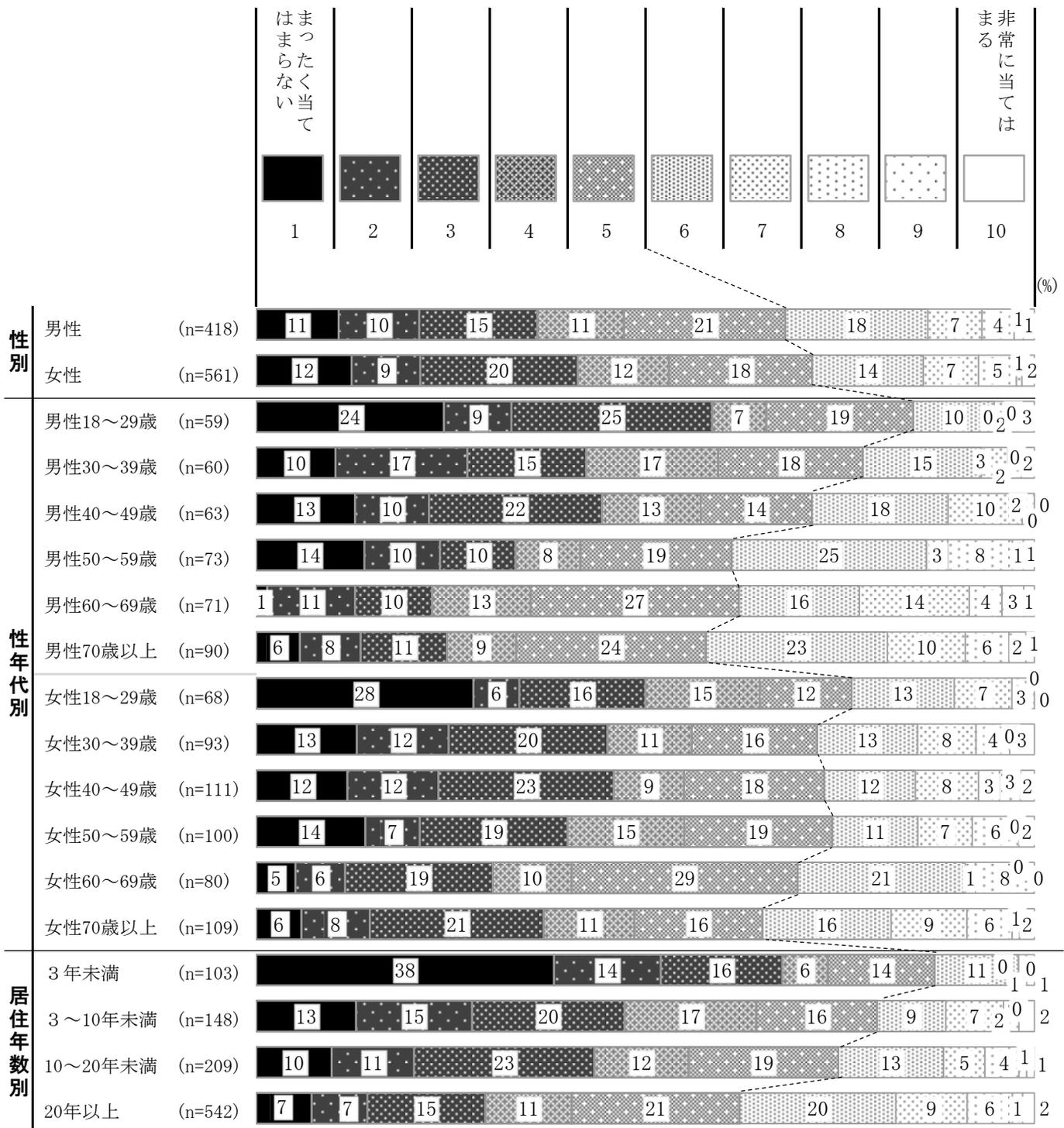


「多摩区について自慢したいことがある」を性年代別で見ると、『当てはまる計』の割合は、男女とも年代が上がるほどおおむね高くなる傾向となった。

同様に、『当てはまる計』の割合は、居住年数が長くなるほど高くなった。

図 5-7 多摩区に対する愛着や誇り（性別・性年代別・居住年数別）

問 4. (才) 自分は多摩区に貢献している



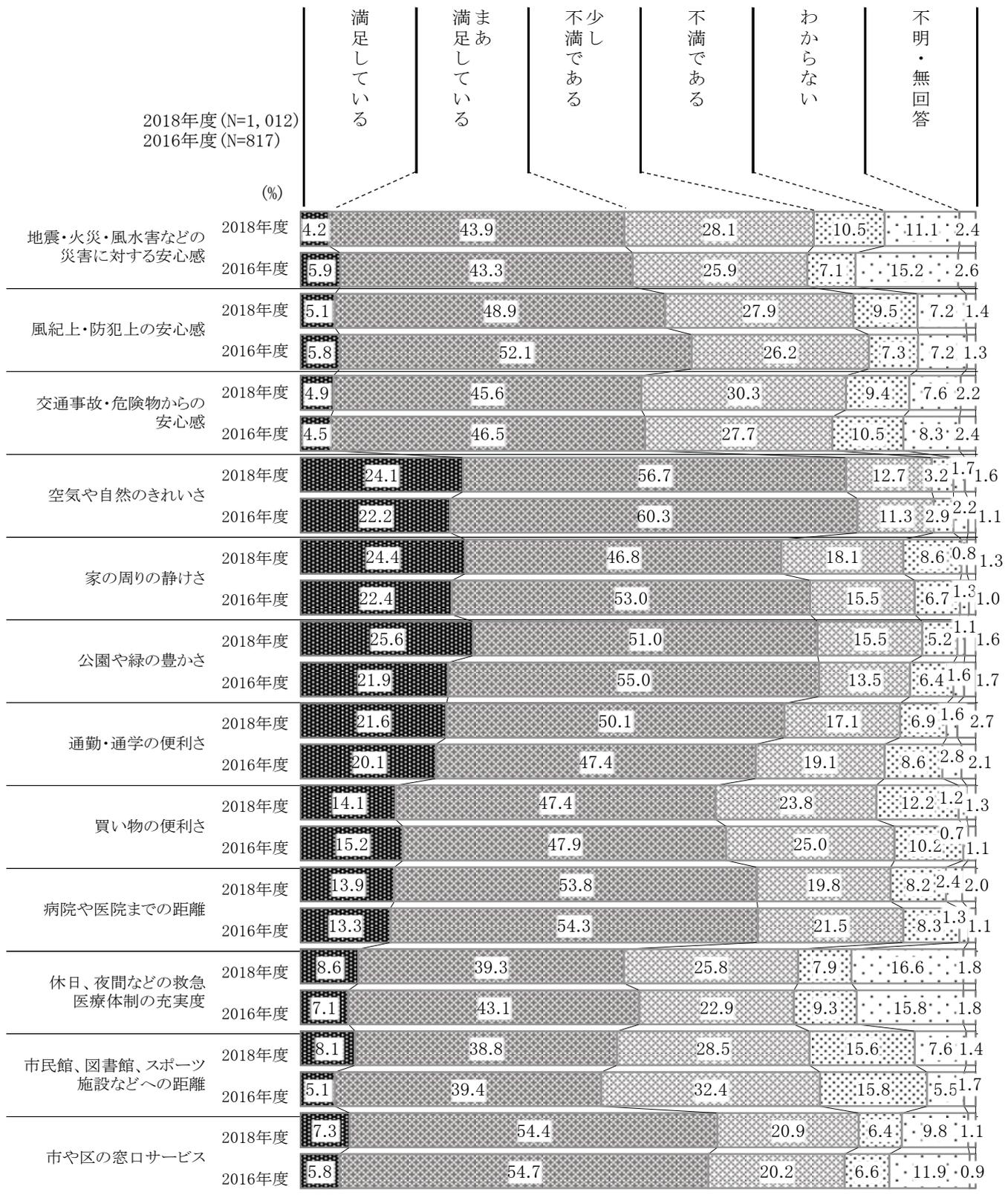
「自分は多摩区に貢献している」を性年代別で見ると、『当てはまる計』の割合は、男性は年代が上がるほどおおむね高くなる傾向となり、女性は60歳代以上で30%以上となった。

同様に、『当てはまる計』の割合は、居住年数が長くなるほど高くなった。

6. 多摩区の生活環境

問5 多摩区の生活環境についてお伺いします。次にあげる項目についてどの程度満足していますか。
(〇はそれぞれ1つずつ)

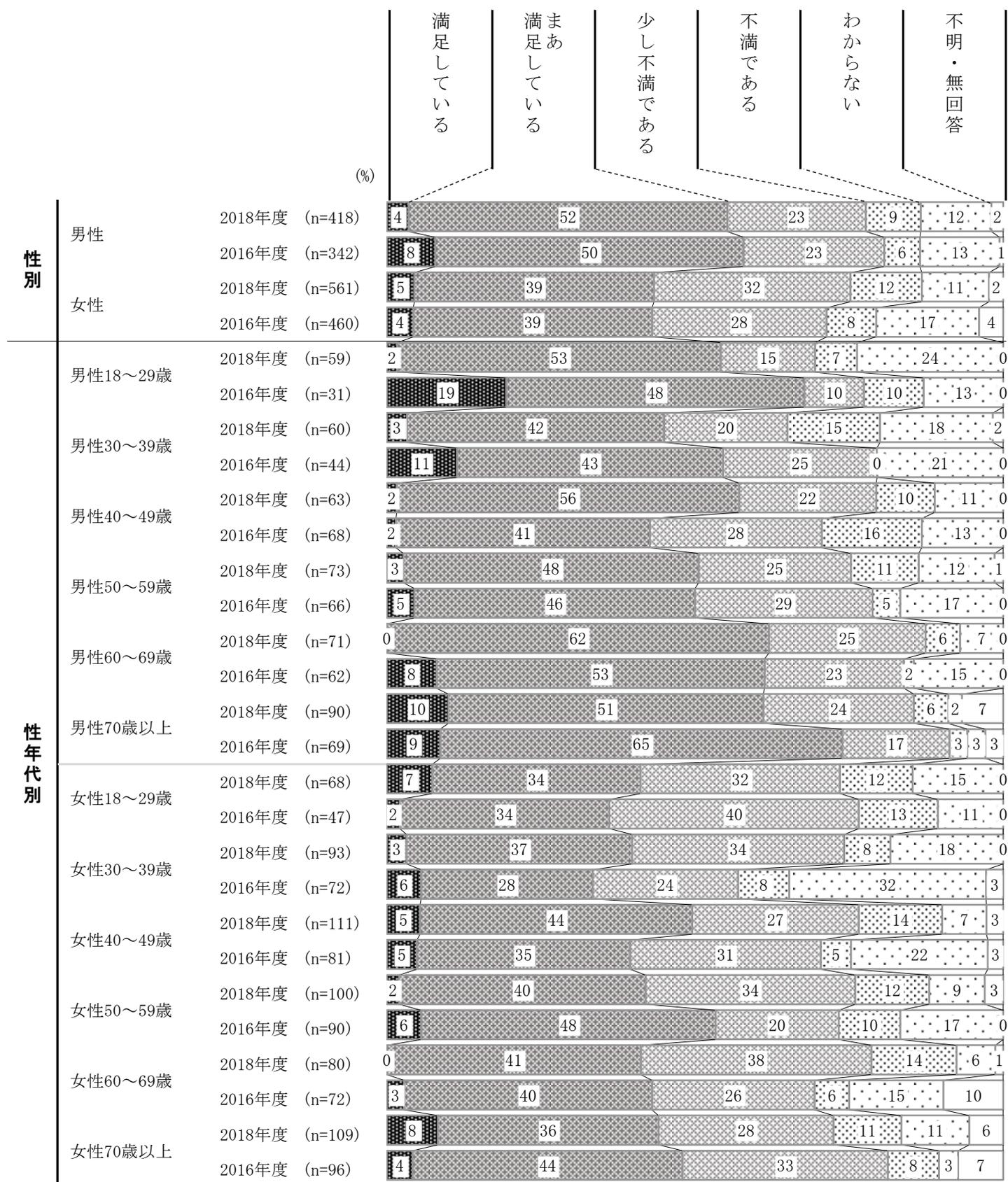
図6-1 多摩区の生活環境



「多摩区の生活環境」について聞いたところ、「満足している」「まあ満足している」を合わせた『満足している』で、「空気や自然のきれいさ」(80.8%)が最も高く、2016年度と同じ結果となった。

図 6-2 多摩区の生活環境（性別・性年代別）

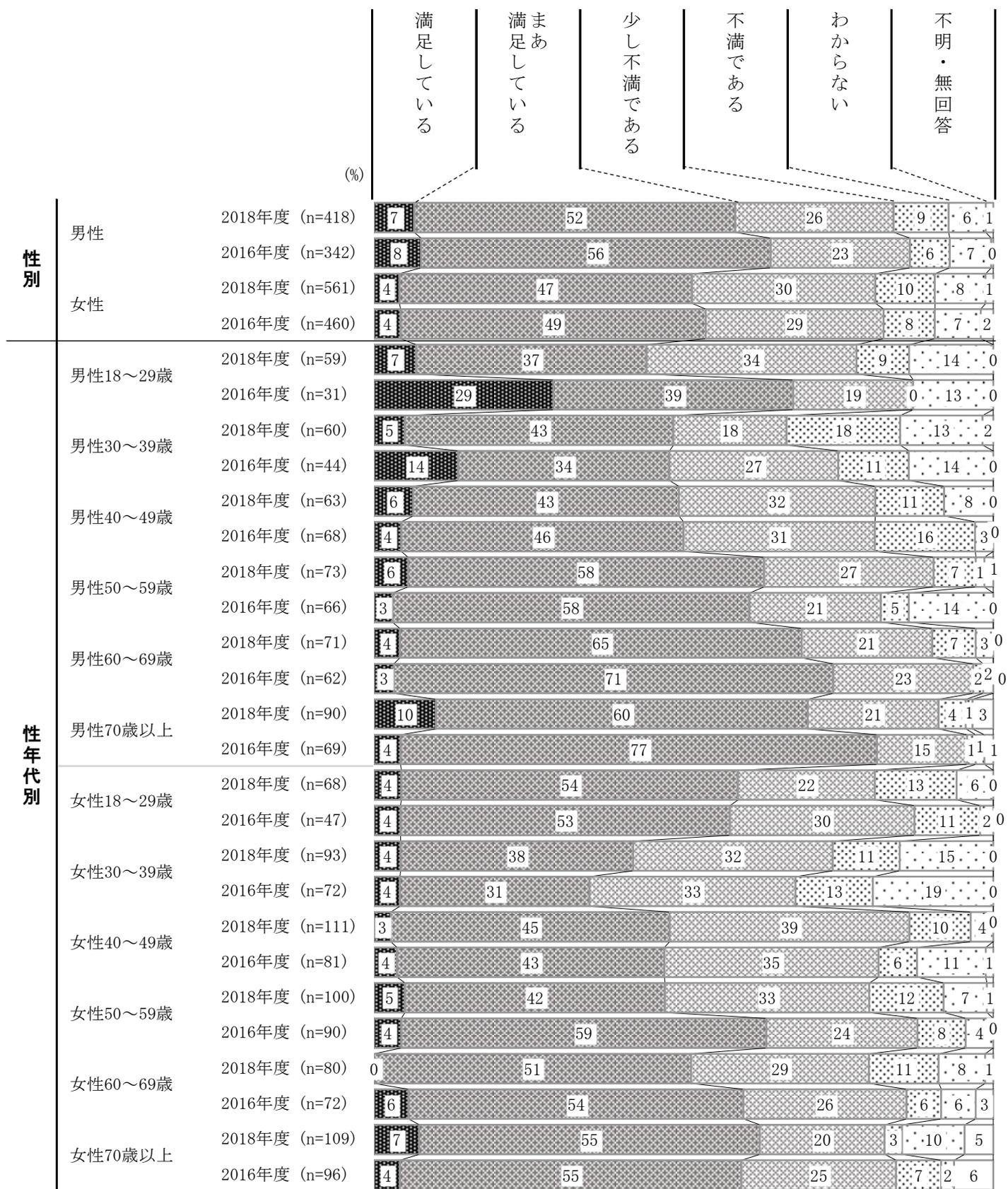
(ア) 地震・火災・風水害などの災害に対する安心感



「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」を性年代別で見ると、「満足している」「まあ満足している」を合わせた『満足している計』は、男性60歳代以上で60%以上と高い結果となった。

図 6-3 多摩区の生活環境（性別・性年代別）

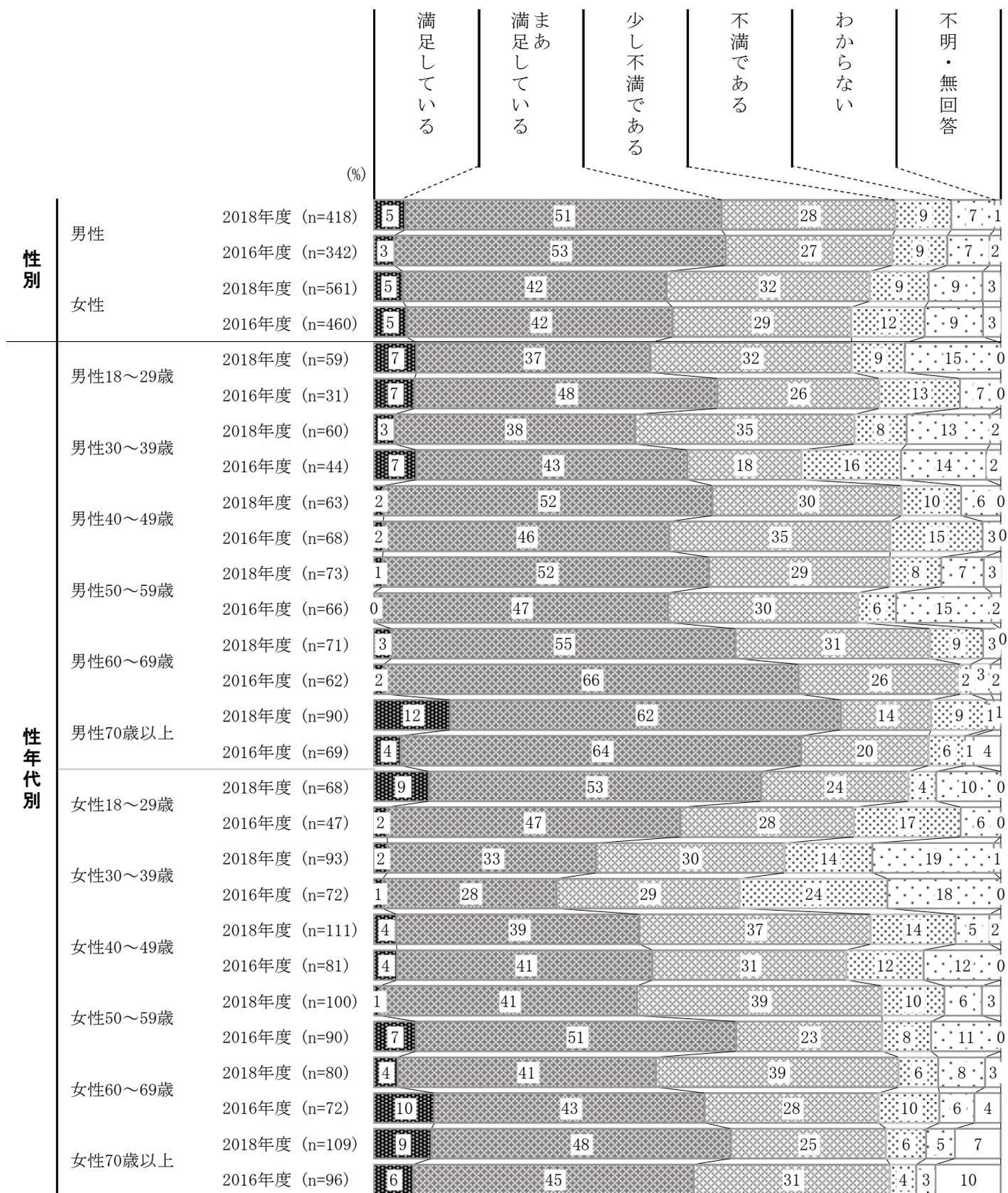
(イ) 風紀上・防犯上の安心感



「風紀上・防犯上の安心感」を性年代別で見ると、『満足している計』は、男性で年代が上がるほど高い結果となった。また女性50～59歳では、2016年度より16ポイント減少する結果となった。

図 6-4 多摩区の生活環境（性別・性年代別）

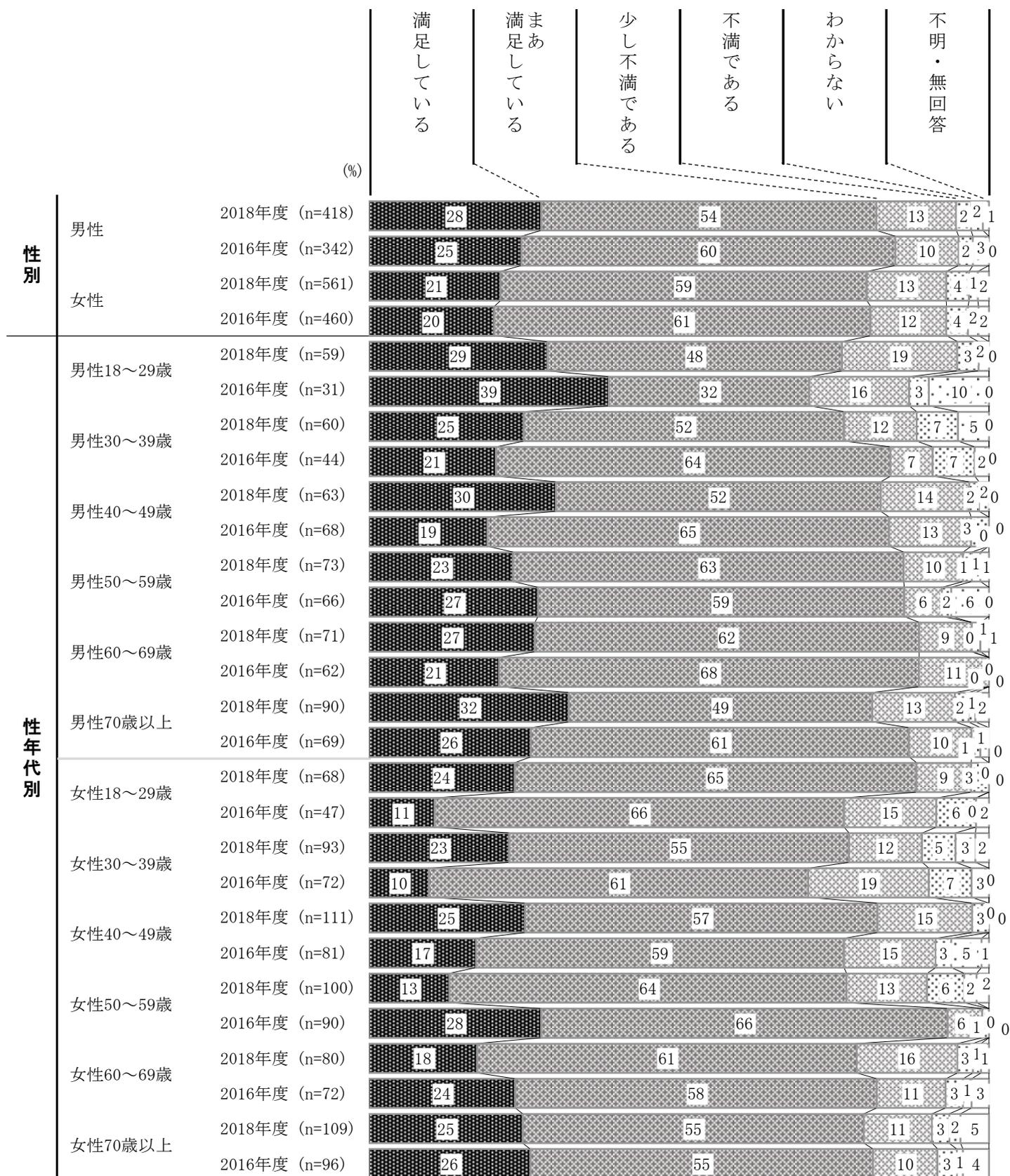
(ウ) 交通事故・危険物からの安心感



「交通事故・危険物からの安心感」を性年代別で見ると、『満足している計』は男性70歳以上で最も高い結果となった。

図 6-5 多摩区の生活環境（性別・性年代別）

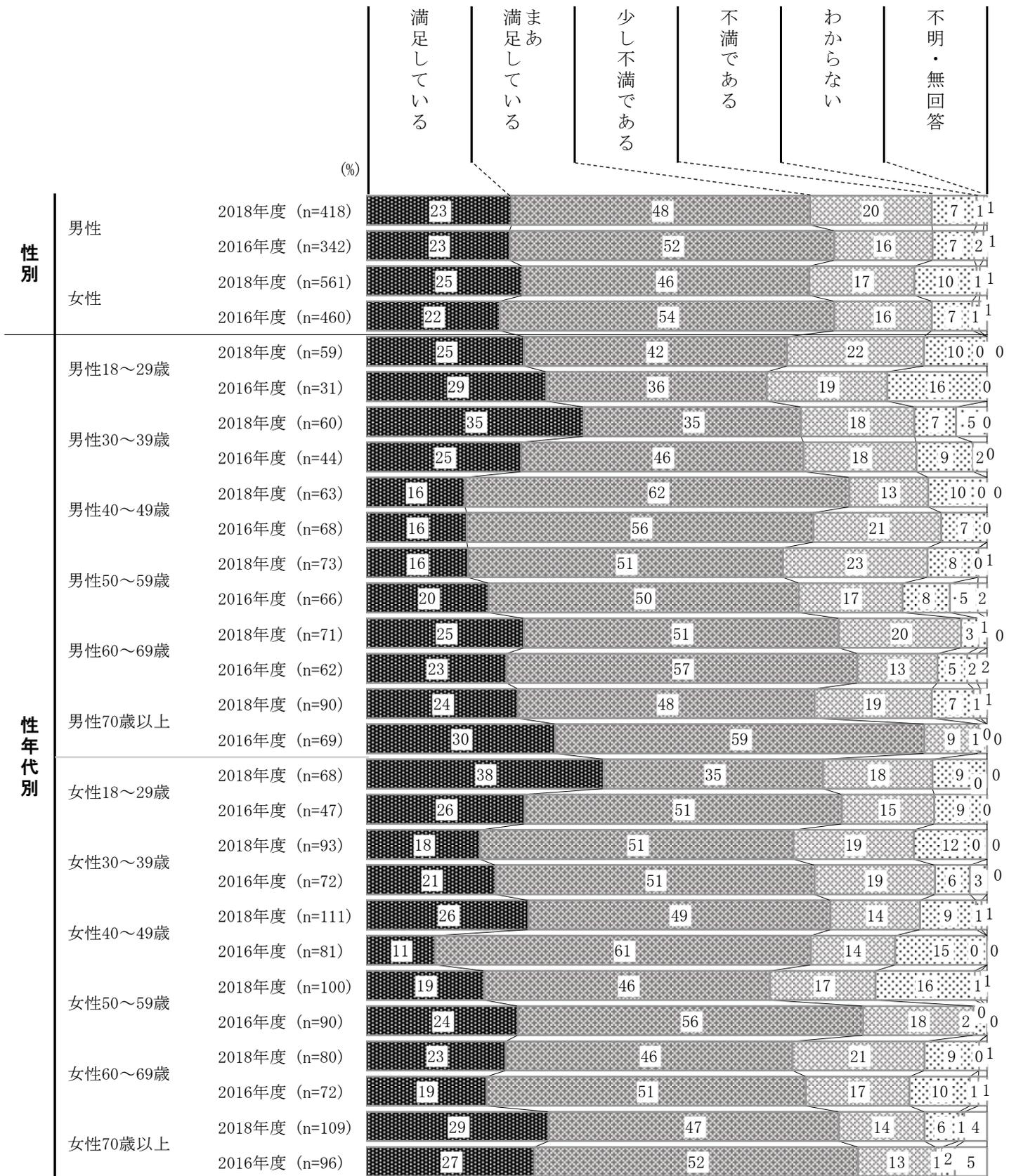
(エ) 空気や自然のきれいさ



「空気や自然のきれいさ」を性年代別で見ると、『満足している計』は、すべての性年代で70%を超える高い結果となった。また、2016年度と比較すると、女性50～59歳は17ポイント減少する結果となった。

図 6-6 多摩区の生活環境（性別・性年代別）

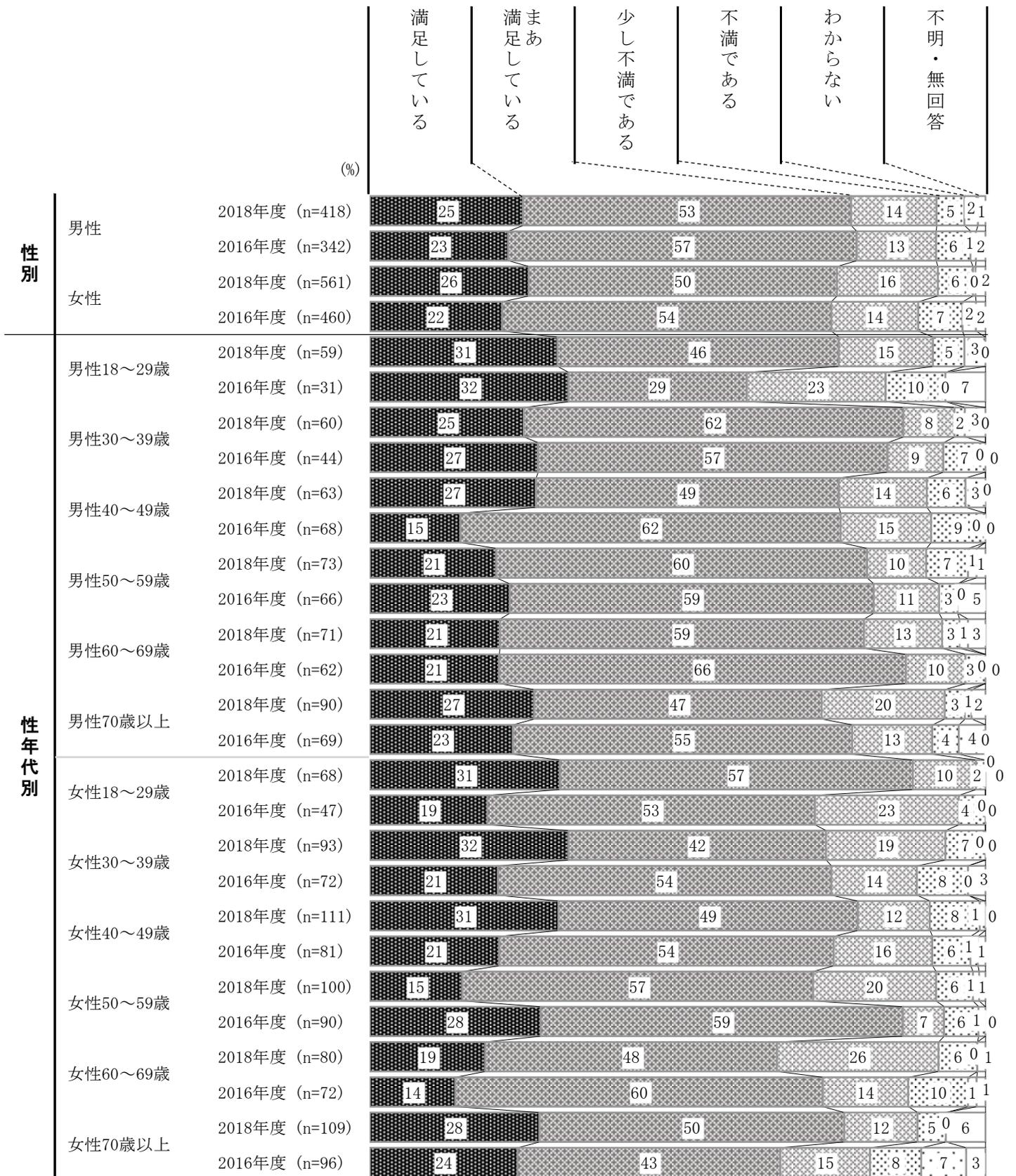
(オ) 家の周りの静けさ



「家の周りの静けさ」を性年代別で見ると、『満足している計』は、すべての性年代で60%を超える高い結果となった。また、2016年度と比較すると、女性50～59歳で15ポイント減少する結果となった。

図 6-7 多摩区の生活環境（性別・性年代別）

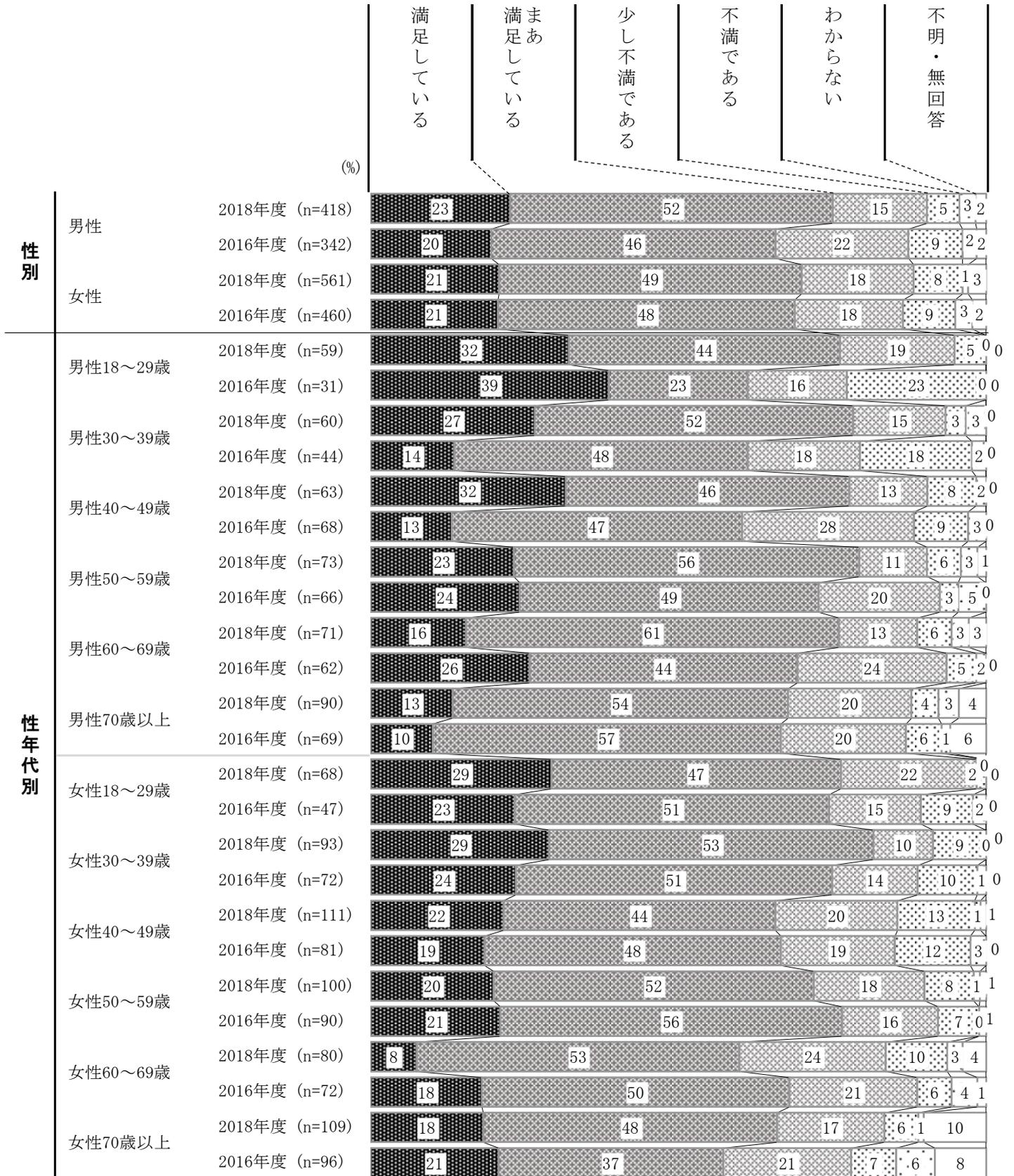
(カ) 公園や緑の豊かさ



「公園や緑の豊かさ」を性年代別で見ると、『満足している計』は、すべての性年代で60%を超える高い結果となった。特に男性30～39歳、女性18～29歳で最も割合が高くなっている。

図 6-8 多摩区の生活環境（性別・性年代別）

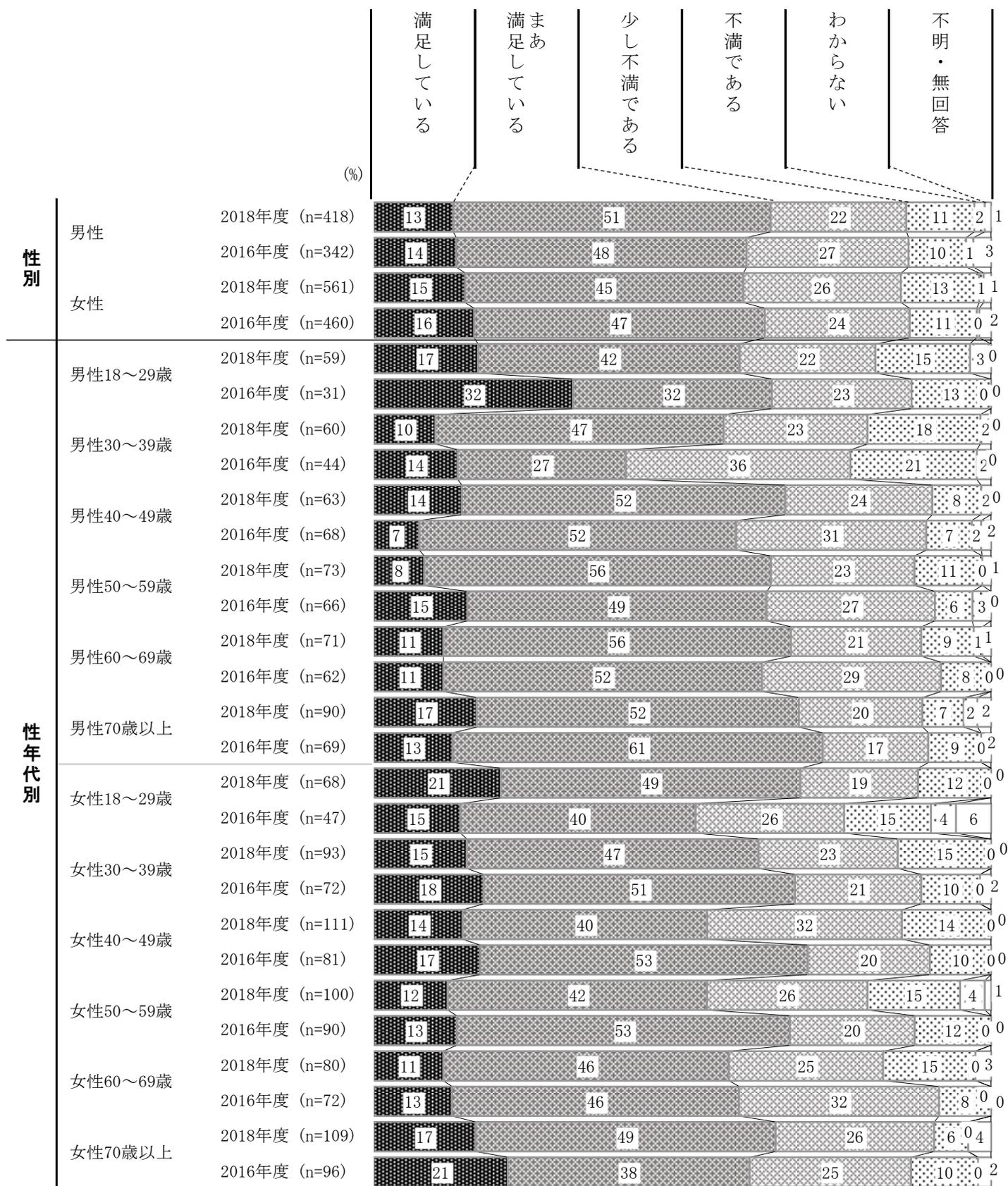
(キ) 通勤・通学の便利さ



「通勤・通学の便利さ」を性年代別で見ると、『満足している計』は、すべての性年代別で60%を超える高い結果となった。特に男性18～69歳でいずれも80%近くを占めている。

図 6-9 多摩区の生活環境（性別・性年代別）

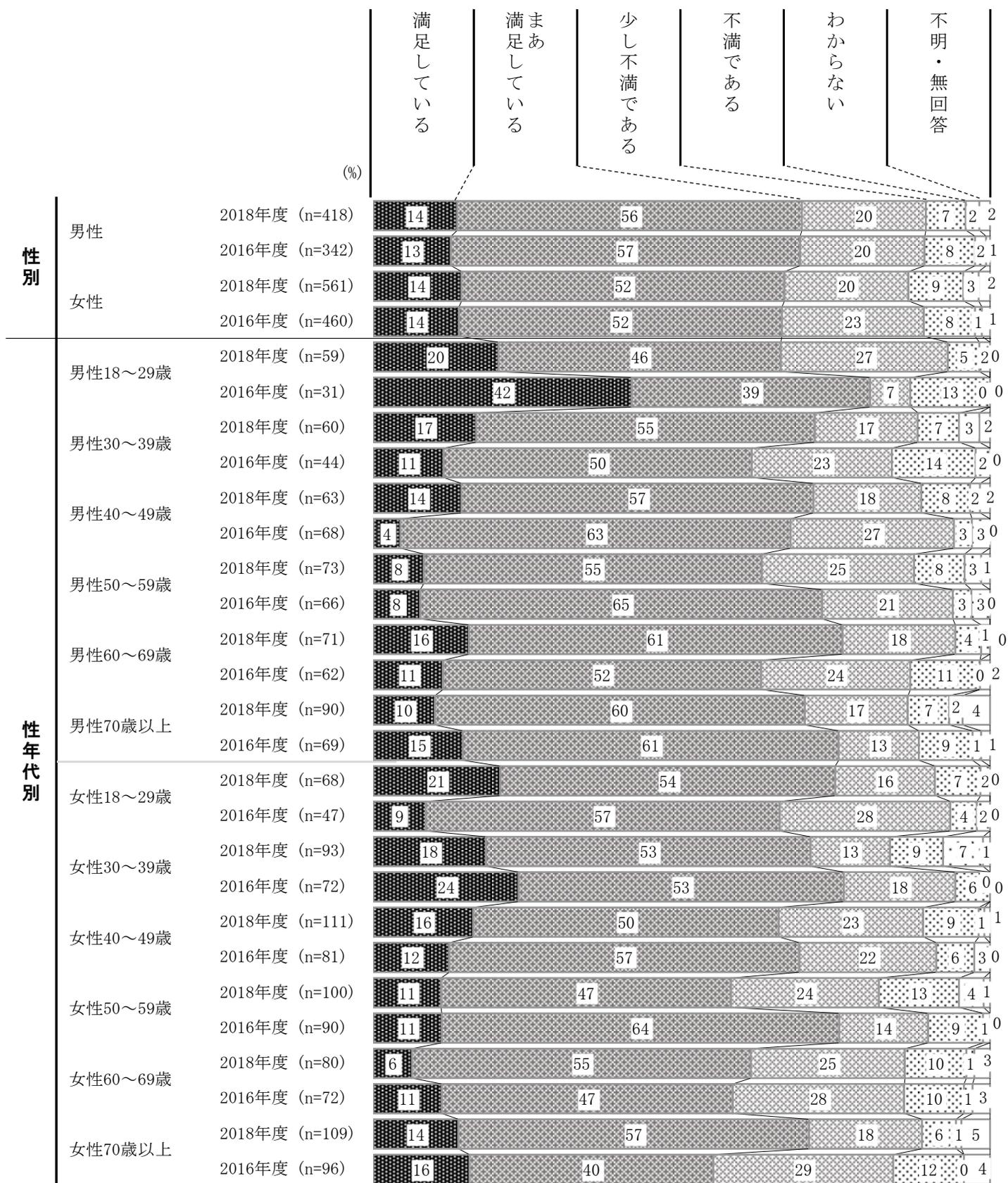
(ク) 買い物の便利さ



「買い物の便利さ」を性年代別で見ると、『満足している計』は、男女ともに半数を超える高い結果となった。特に男性40歳代以上、女性18~29歳で高い結果となった。

図 6-10 多摩区の生活環境（性別・性年代別）

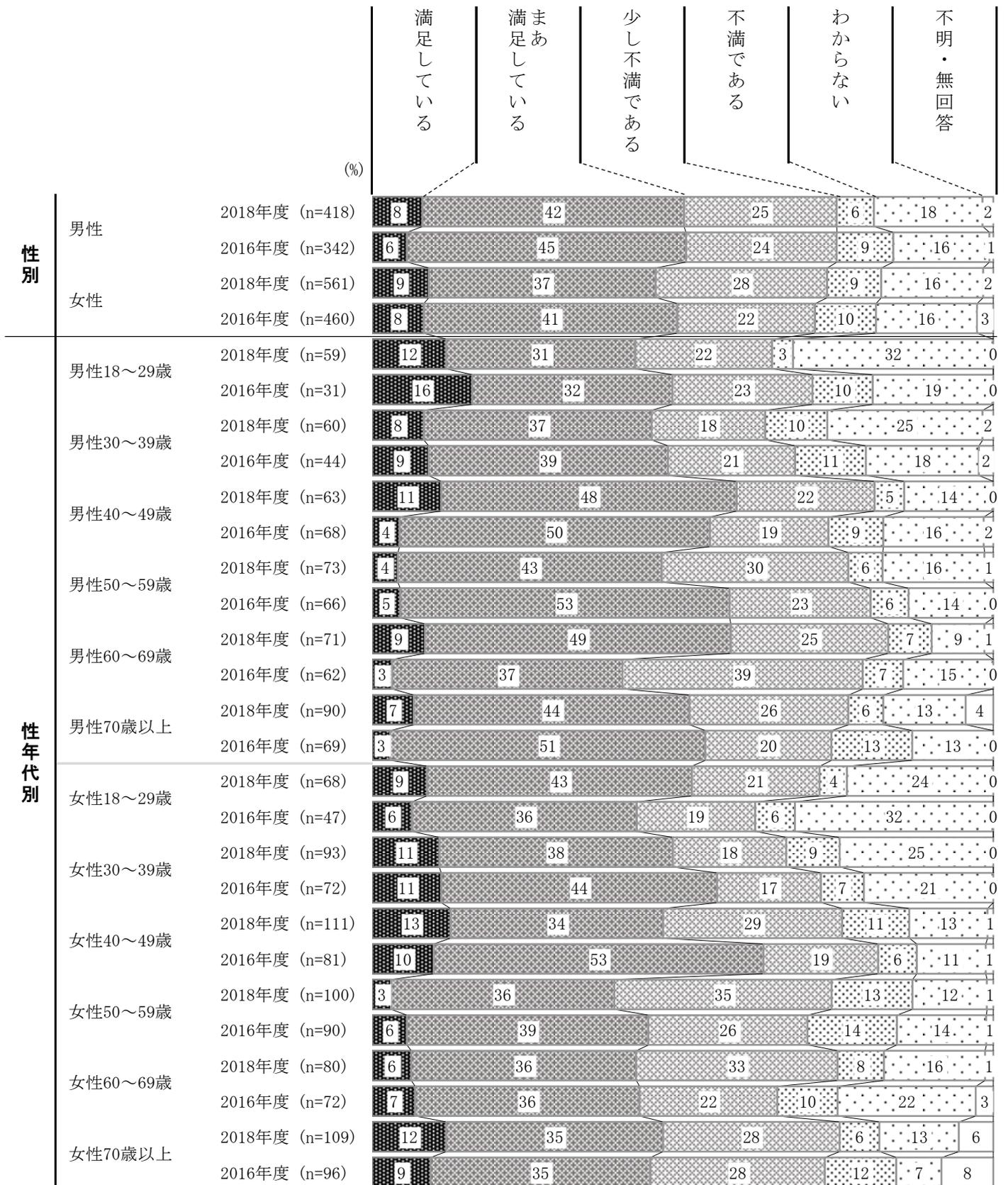
(ケ) 病院や医院までの距離



「病院や医院までの距離」を性年代別で見ると、『満足している計』は、どの性年代でも半数を超える高い結果となった。特に男性60～69歳、女性18～29歳で高い結果となった。

図 6-11 多摩区の生活環境（性別・性年代別）

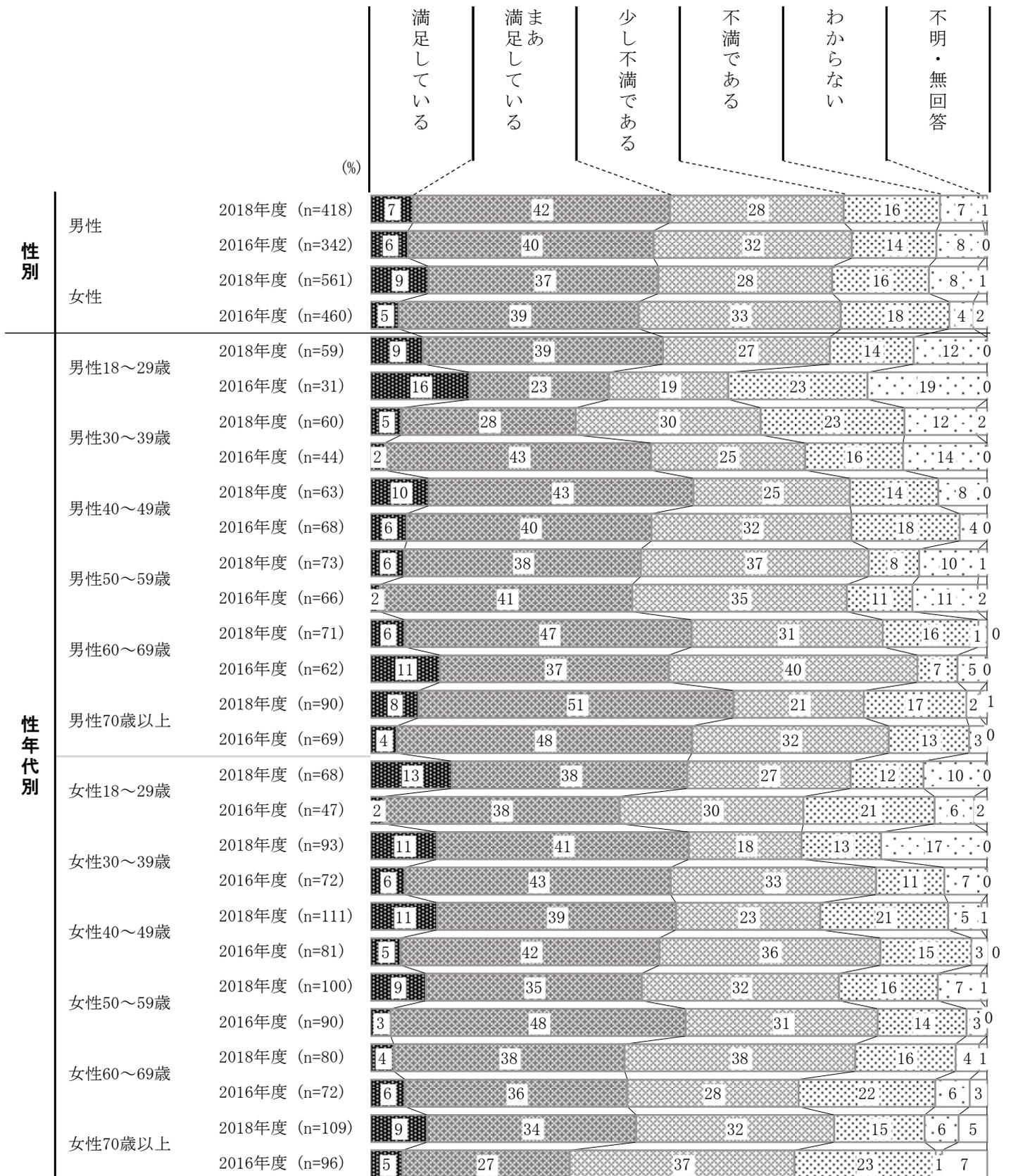
(コ) 休日、夜間などの救急医療体制の充実度



「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」を性年代別で見ると、『満足している計』は、男性 40～49 歳で 59%、60～69 歳で 58% と他の性年代と比べて高い結果となった。

図 6-12 多摩区の生活環境（性別・性年代別）

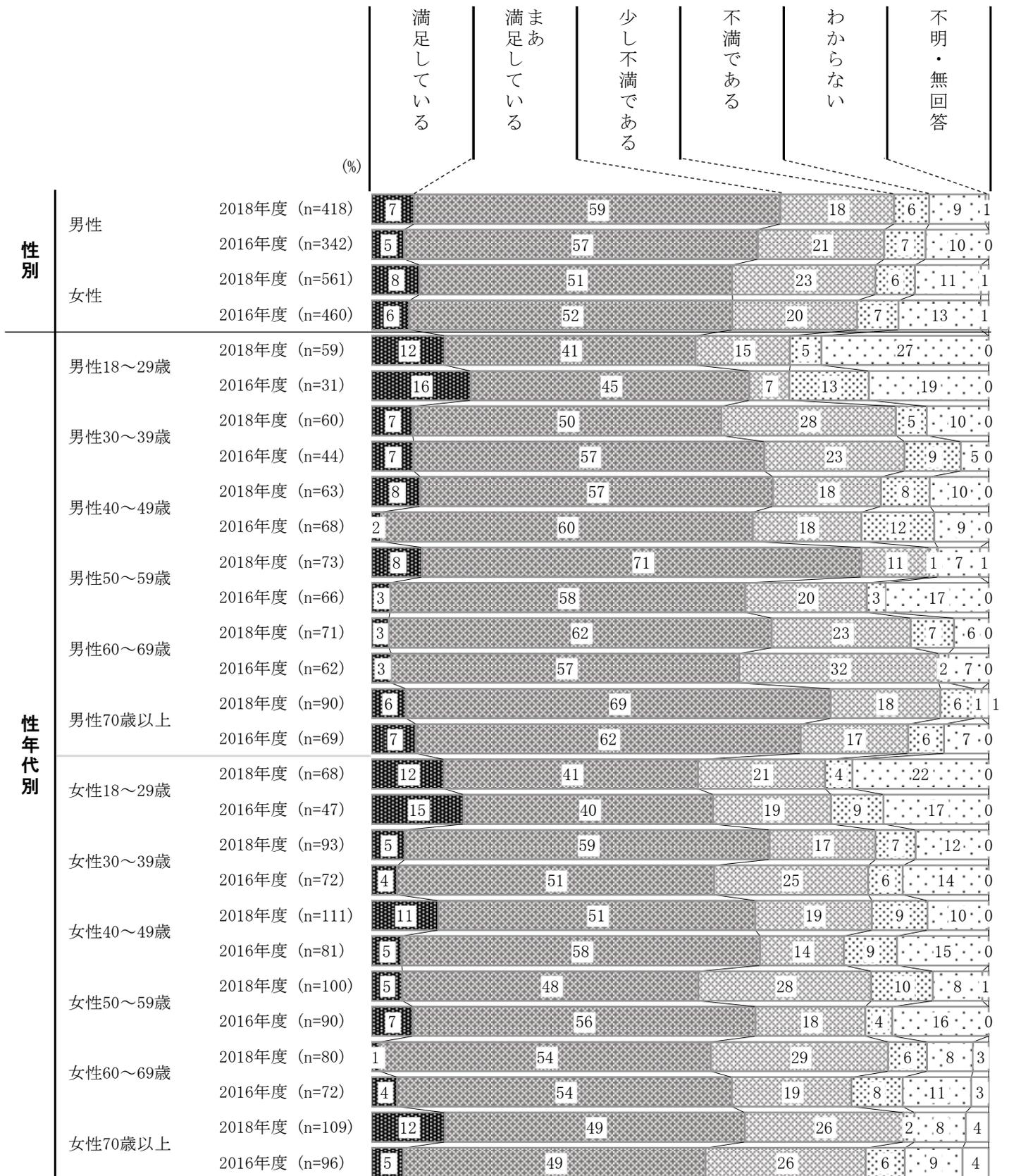
(サ) 市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離



「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」を性年代別で見ると、『満足している計』は、男性70歳以上で59%、女性30～39歳で52%と他の性年代と比べて高い結果となった。

図 6-13 多摩区の生活環境（性別・性年代別）

(シ) 市や区の窓口サービス

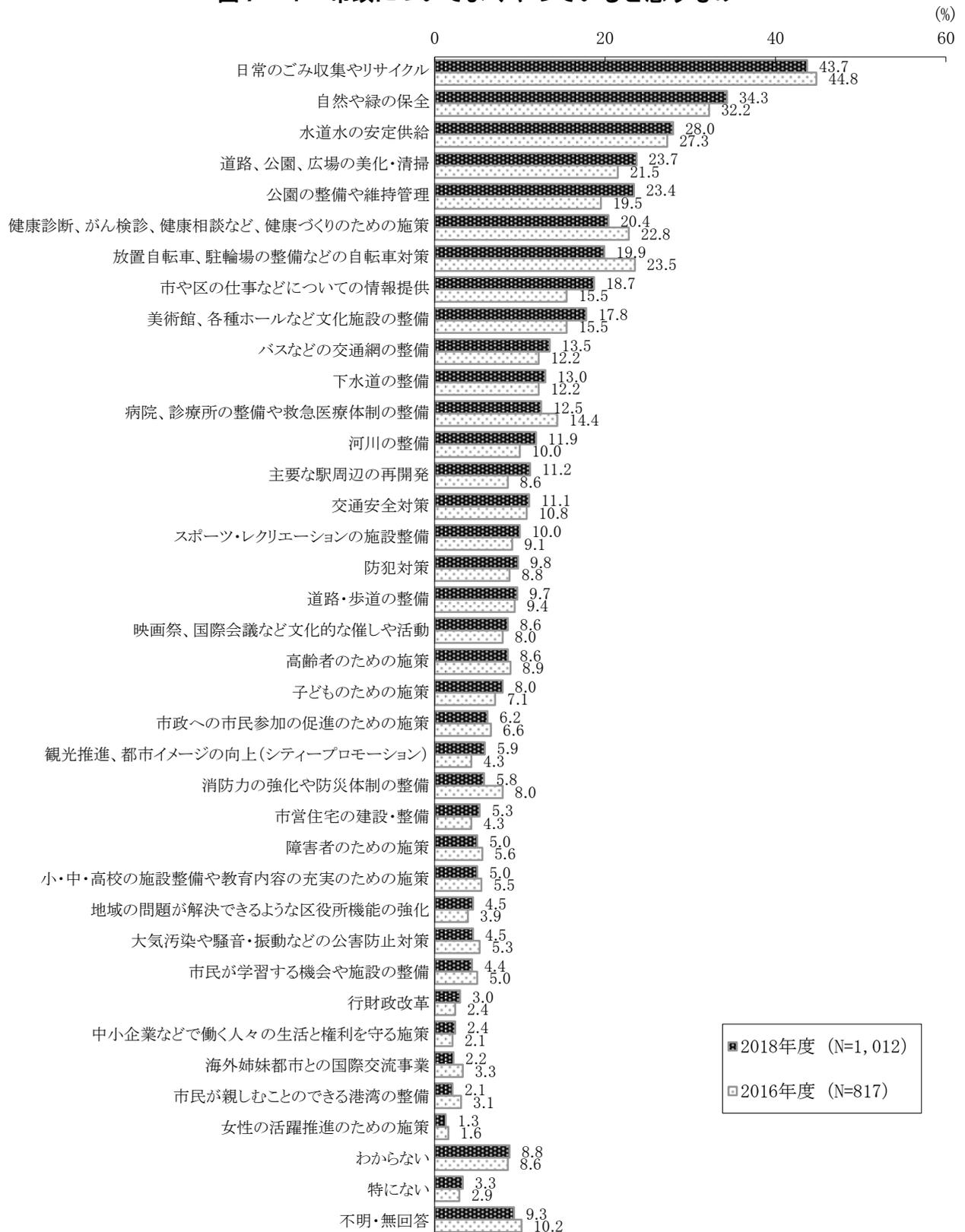


「市や区の窓口サービス」を性年代別で見ると、『満足している計』は、男女ともに半数を超える高い結果となった。特に男性50～59歳、女性30～39歳で他の性年代と比べて高い結果となった。

7. 市政についてよくやっていると思うもの

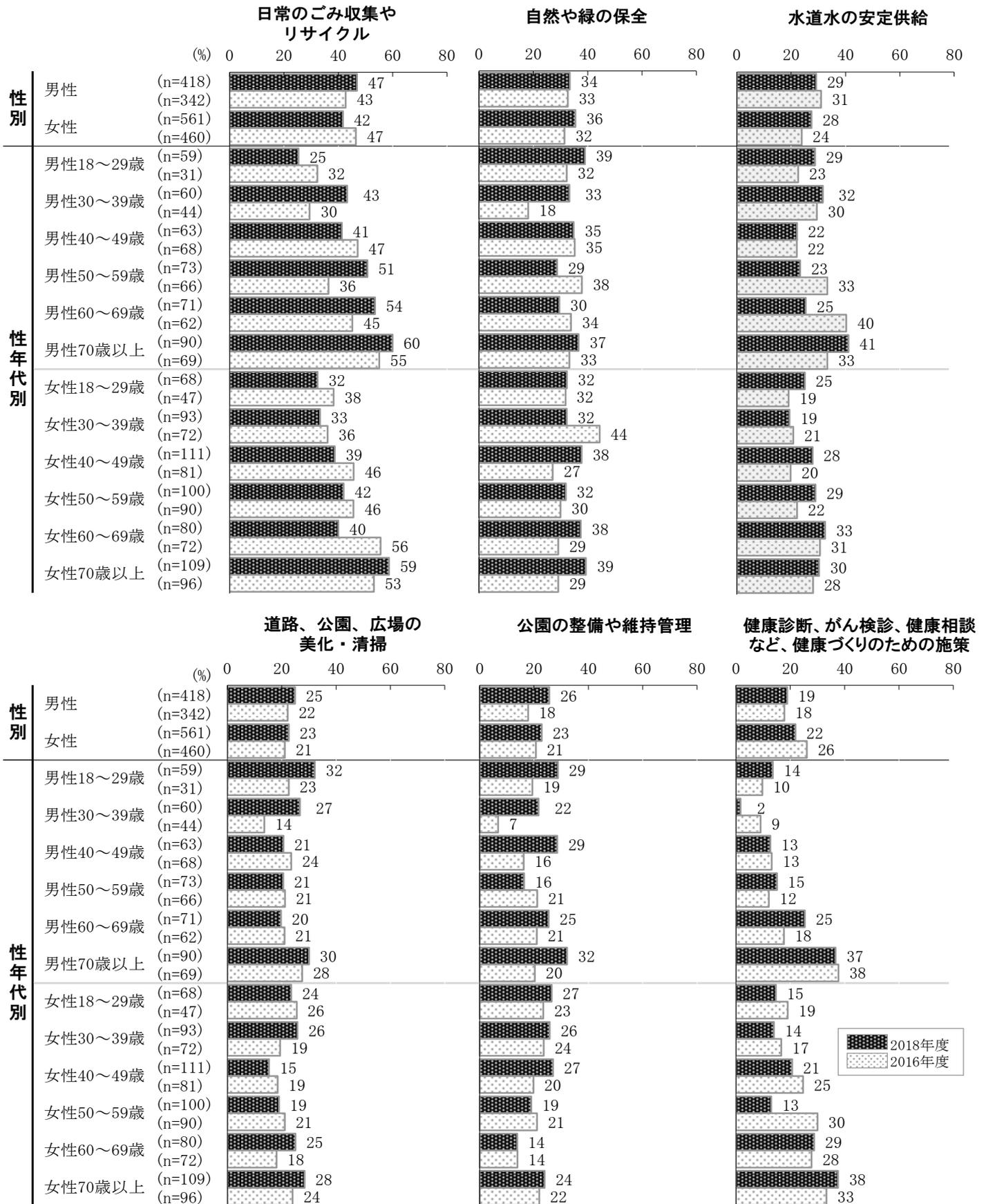
問6 市政について総合的に伺います。次にあげる仕事の中で、よくやっていると思われるものは、どれですか。(あてはまるものすべてに○)

図7-1 市政についてよくやっていると思うもの



「市政についてよくやっていると思うもの」について聞いたところ、「日常のごみ収集やリサイクル」(43.7%)が最も高く、次いで「自然や緑の保全」(34.3%)、「水道水の安定供給」(28.0%)の順となった。

図 7-2 市政についてよくやっていると思うもの
 <上位6項目> (性別・性年代別)

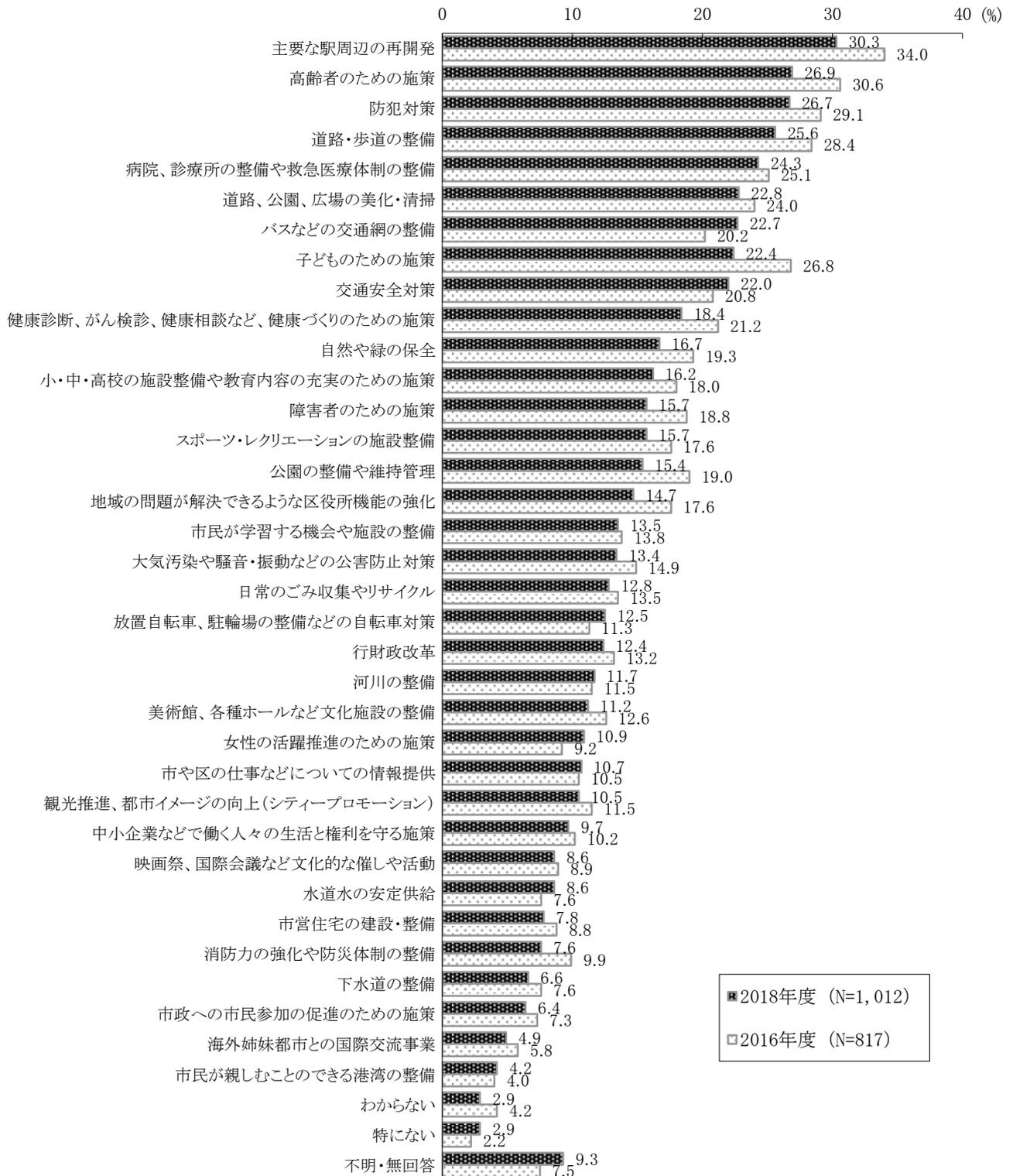


性年代別で見ると、「日常のごみ収集やリサイクル」は年代が上がるほどおおむね高くなる傾向となった。
 「自然や緑の保全」は、男性18～29歳と70歳以上、女性40～49歳と60歳代以上で高い結果となった。
 「水道水の安定供給」は男性70歳以上で高い結果となった。

8. 市政について今後特に力を入れてほしいもの

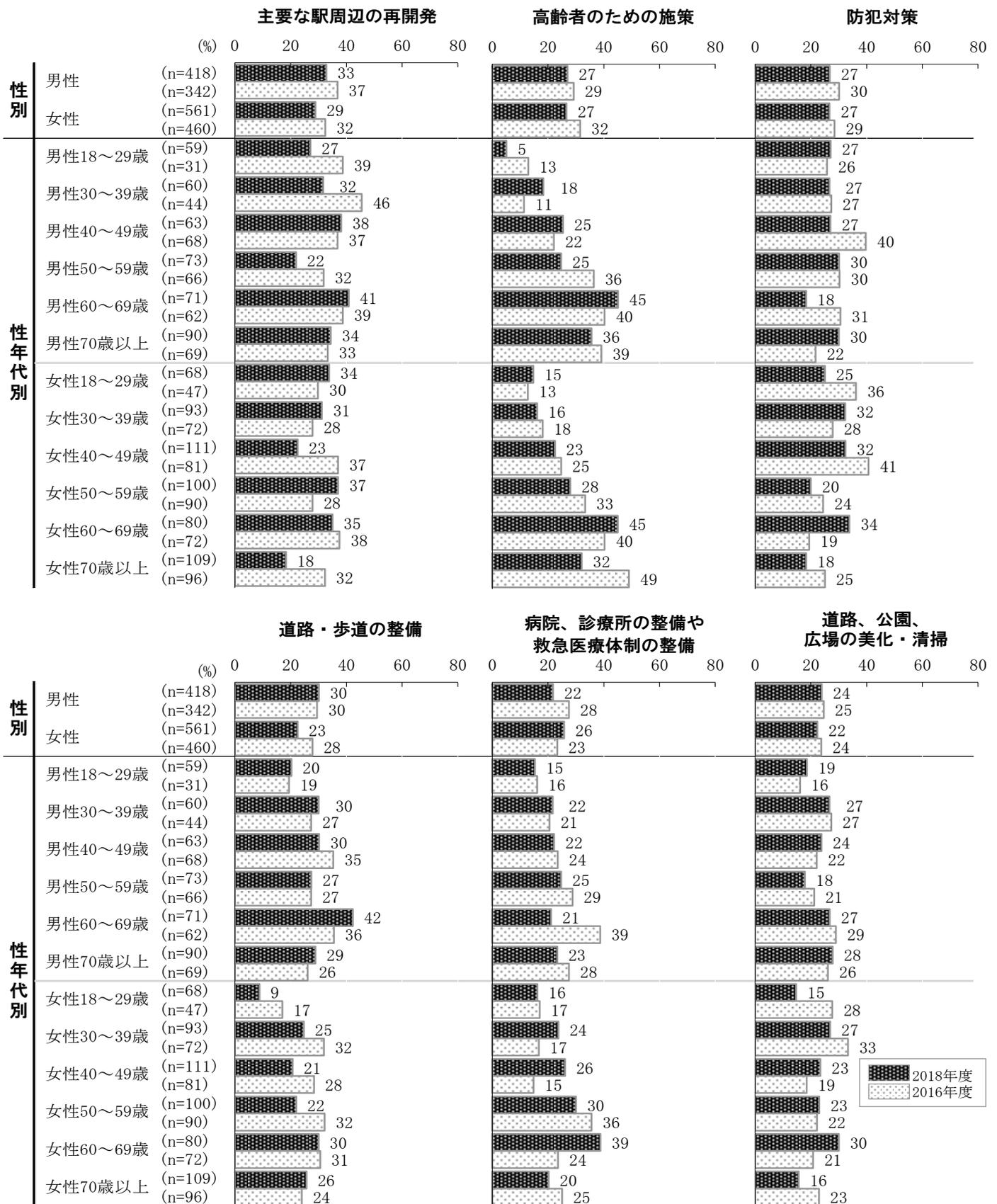
問7 また、今後特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(あてはまるものすべてに○)

図8-1 市政について今後特に力を入れてほしいもの



「市政について今後特に力を入れてほしいもの」について聞いたところ、「主要な駅周辺の再開発」(30.3%)が最も高く、次いで「高齢者のための施策」(26.9%)、「防犯対策」(26.7%)の順となった。

図 8-2 市政について今後特に力を入れてほしいもの
 <上位6項目> (性別・性年代別)



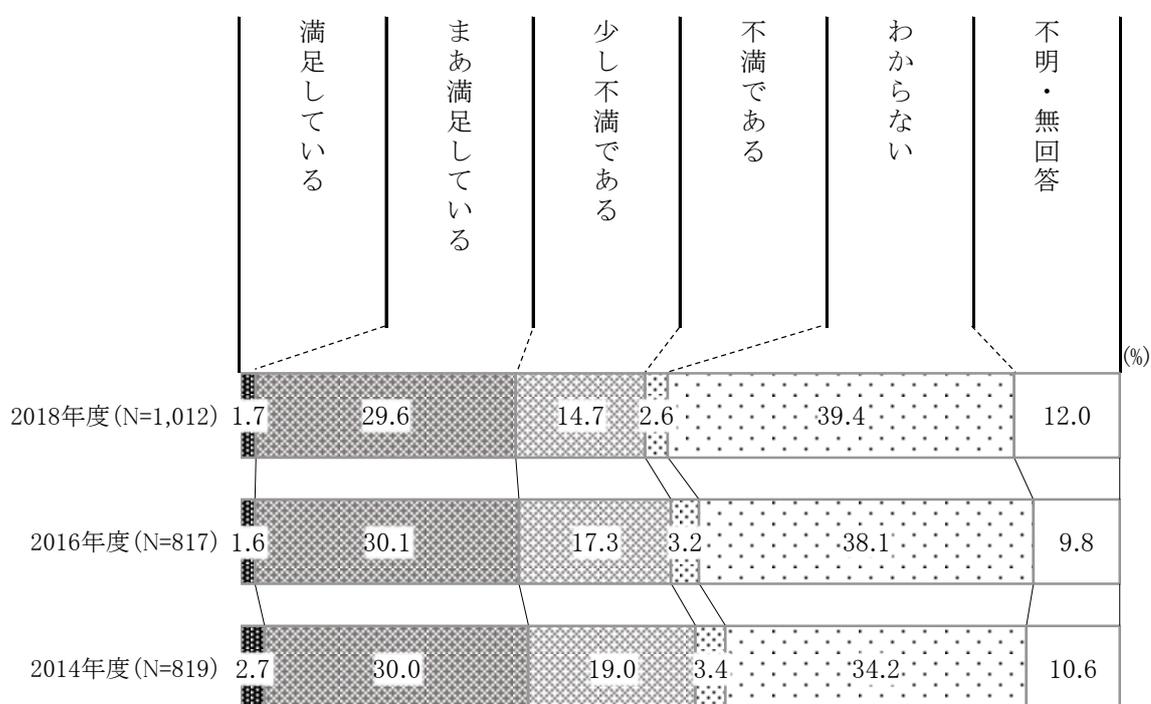
「性年代別で見ると、「主要な駅周辺の再開発」は、男性 60~69 歳、女性 50~59 歳で他の年代と比較して高い結果となった。

「高齢者のための施策」は女性 70 歳以上が 17 ポイント減少する結果となった。

9. 市の施策や事業の総合満足度

問8 川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。
(○は1つだけ)

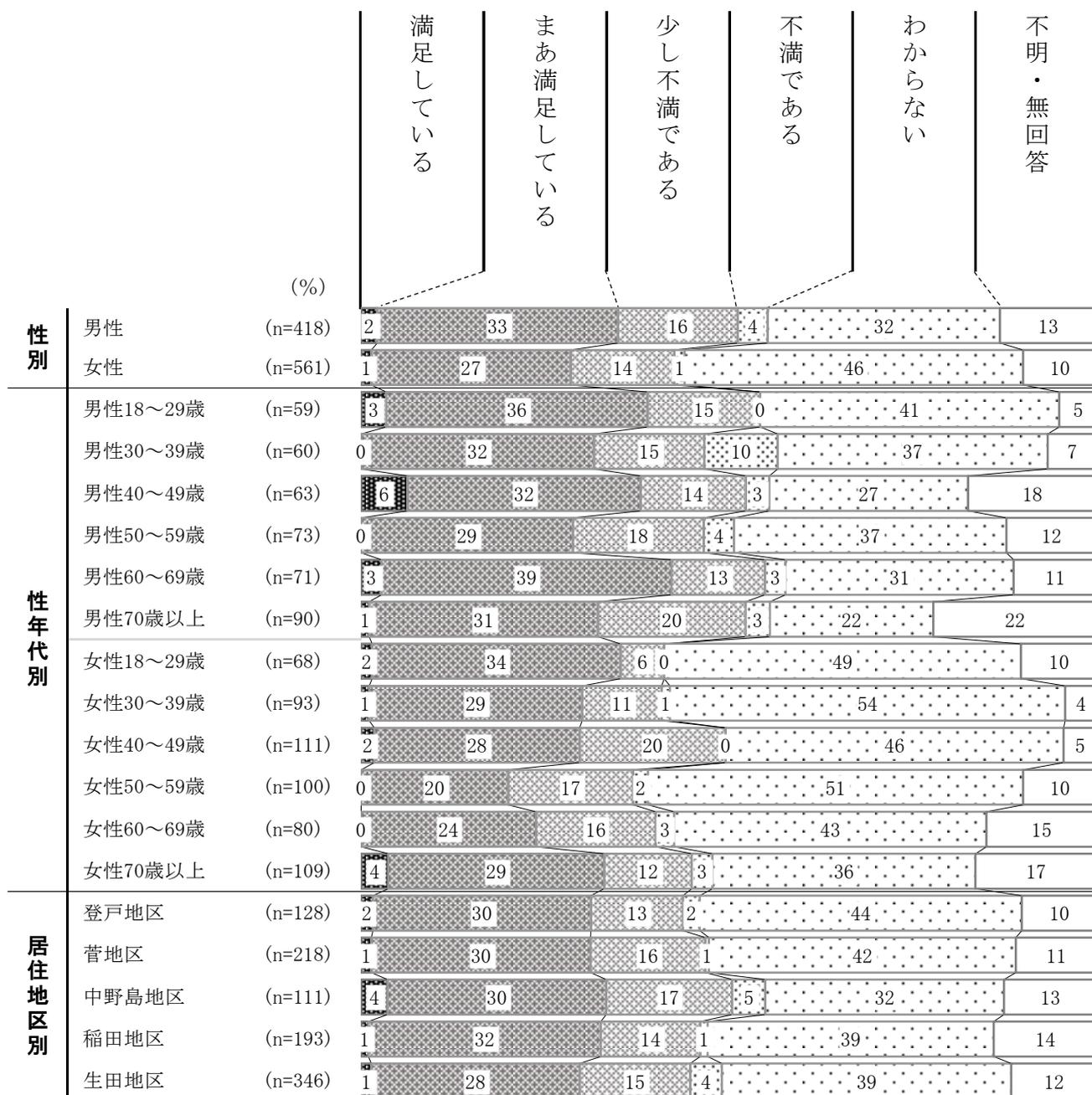
図9-1 市の施策や事業の総合満足度



「市の施策や事業の満足度」について聞いたところ、「満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している計』(31.3%)は、ほぼ全体の3分の1となった。

2014年度、2016年度と比較して、大きな差は見られなかった。

図 9-2 市の施策や事業の総合満足度（性別・性年代別・居住地区別）



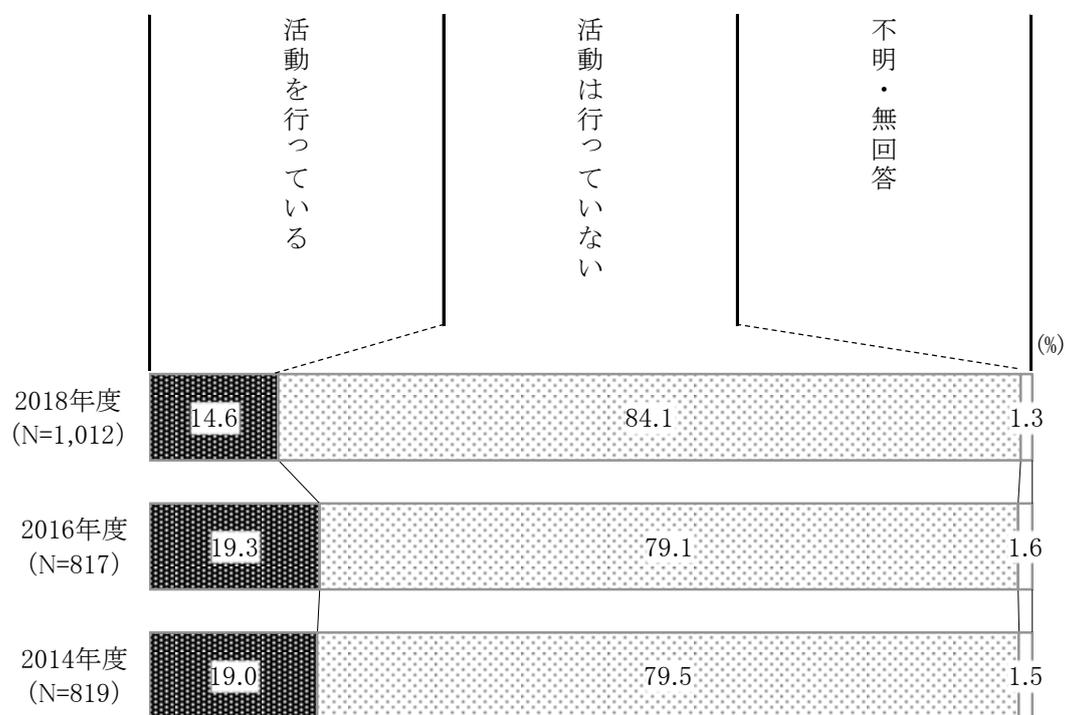
性別で見ると、「満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している計』は、女性よりも男性が高い結果となり、男性60～69歳で40%を超え、他の性年代と比べて高い割合となった。

居住地区別では、大きな差は見られなかった。

10. 地域活動の状況

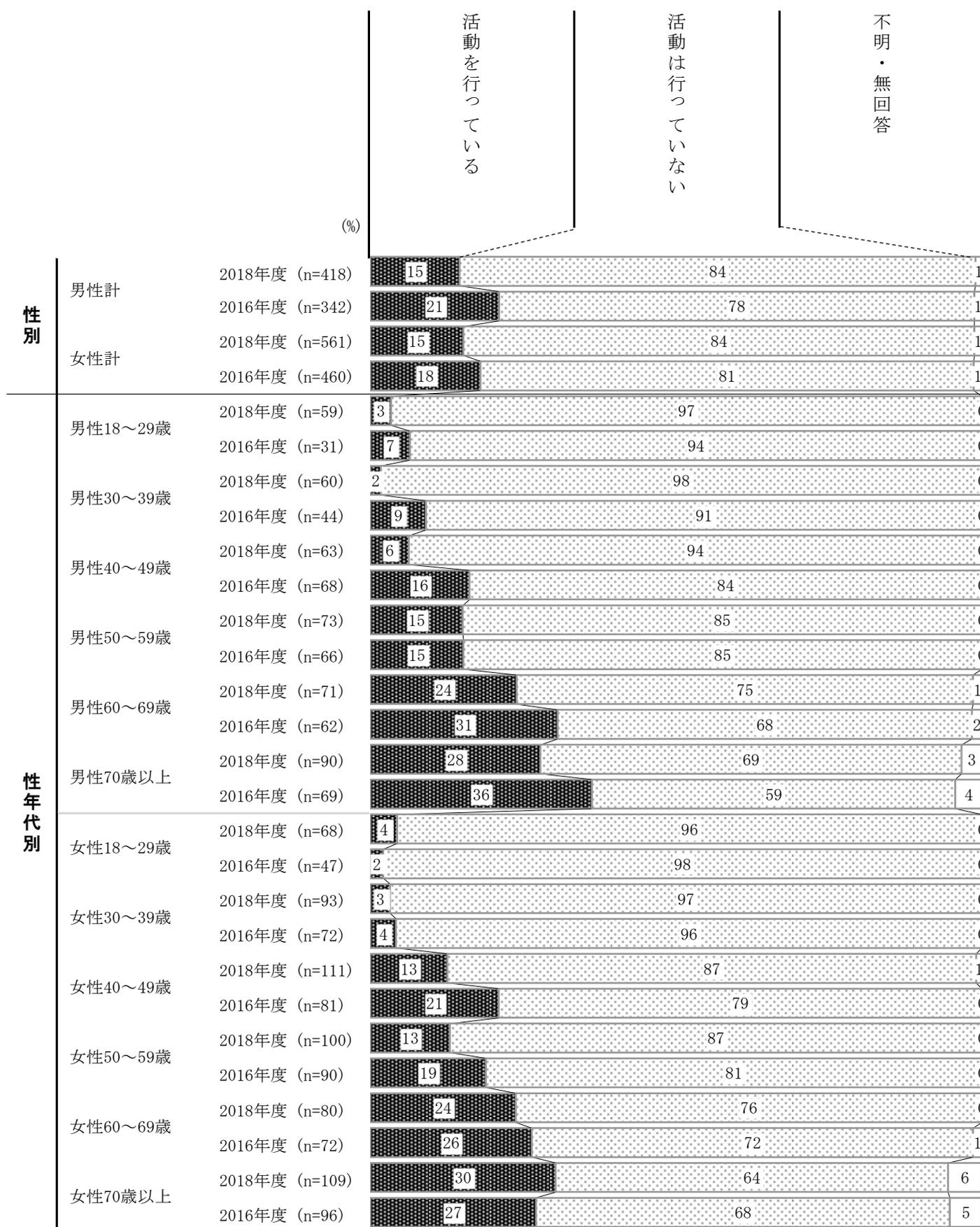
問9 地域のボランティア活動、サークル活動などを行っていますか。(〇は1つだけ)

図 10-1 地域活動の状況



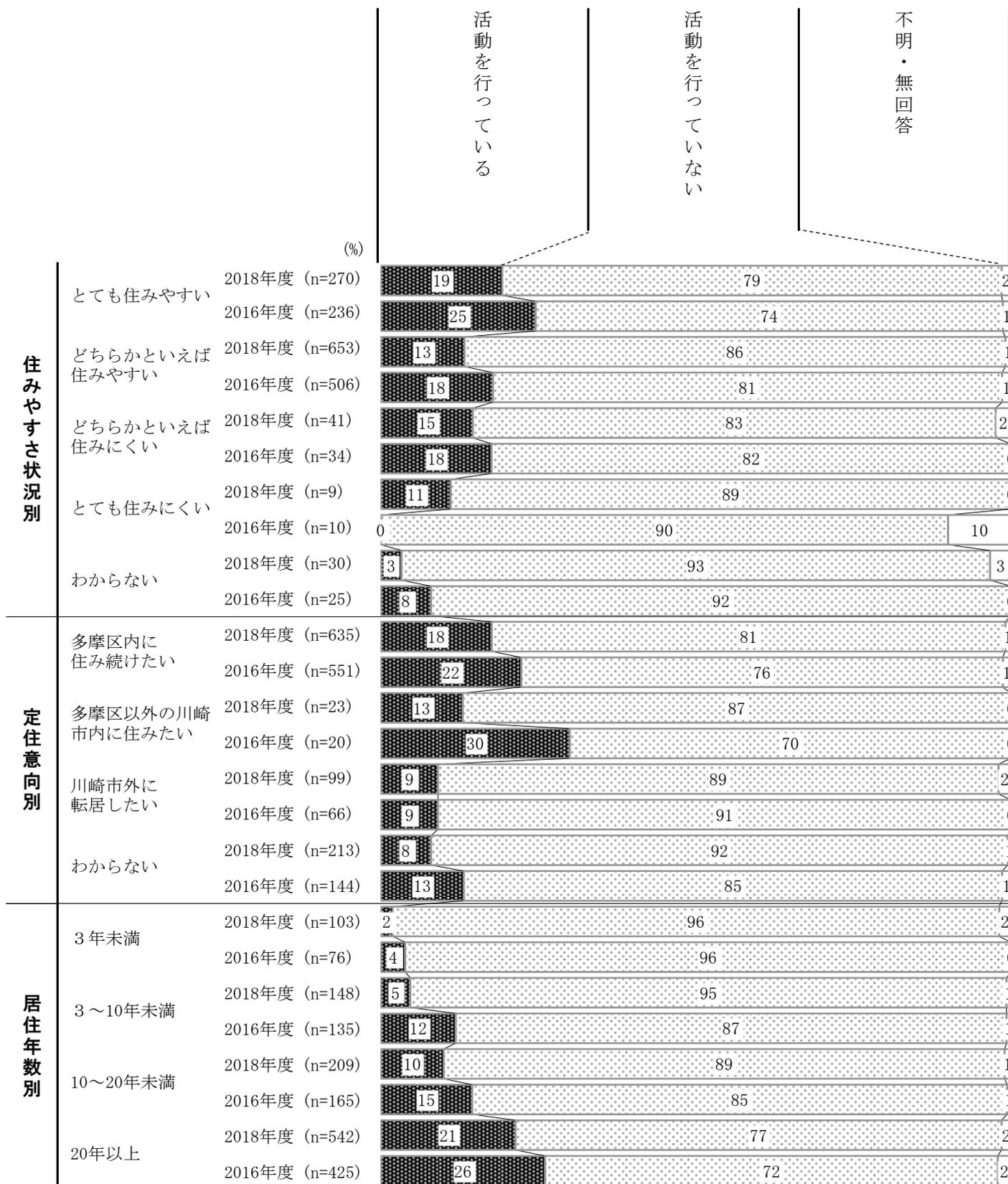
地域活動の状況について聞いたところ、「活動を行っている」は14.6%で、2016年度から4.7ポイント減少した。

図 10-2 地域活動の状況（性別・性年代別）



性年代別で見ると、男女とも 2016 年度と同様に年代が上昇するにつれ「活動を行っている」率が高い傾向となっている。

図 10-3 地域活動の状況
(住みやすさ状況別・定住意向別・居住年数別)

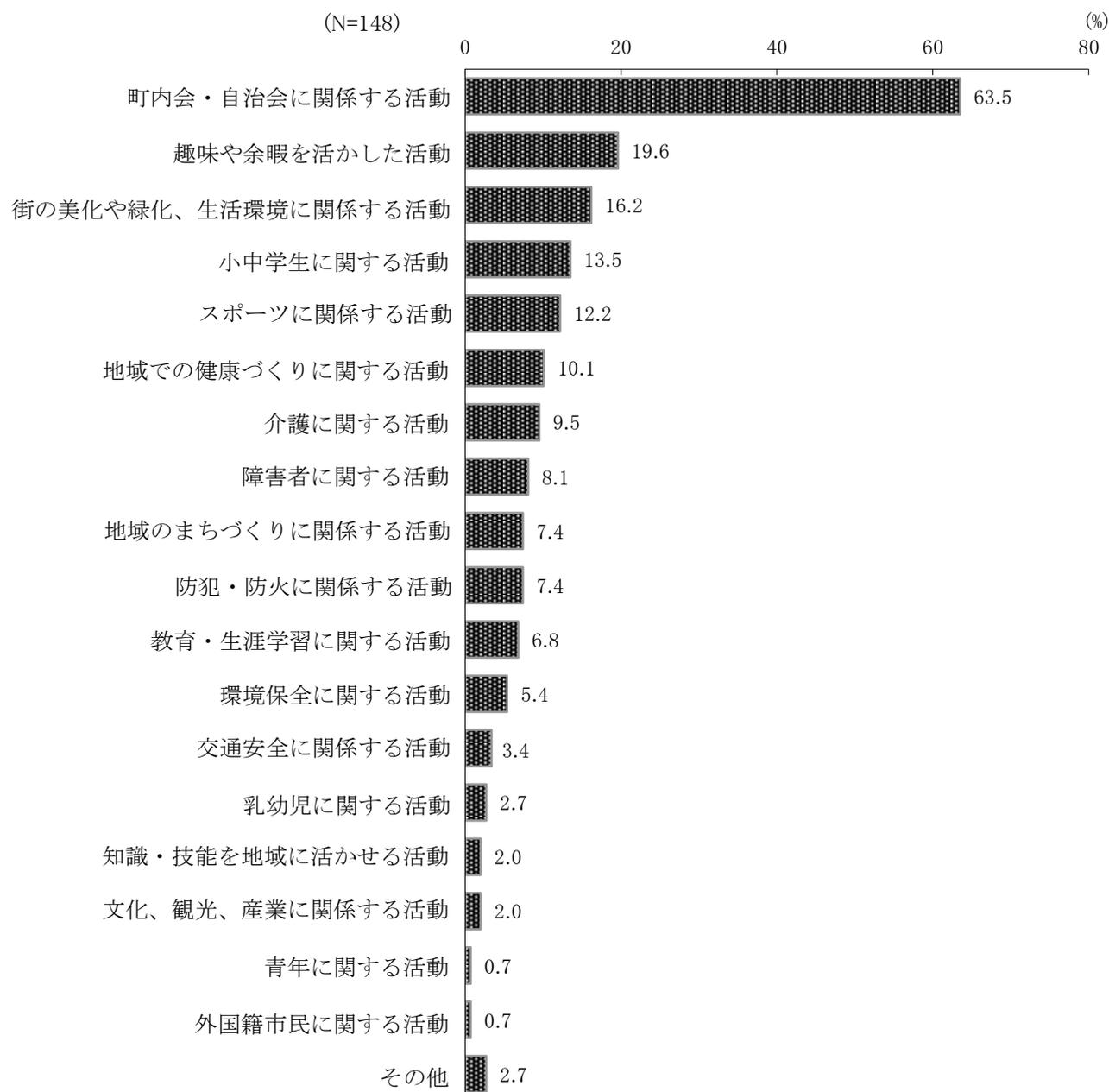


住みやすさ状況別で見ると、「活動を行っている」はとても住みやすいで高い結果となった。また、居住年数が長くなるにつれ「活動を行っている」率が高い傾向となっている。

1 1. 行っている地域活動の分野

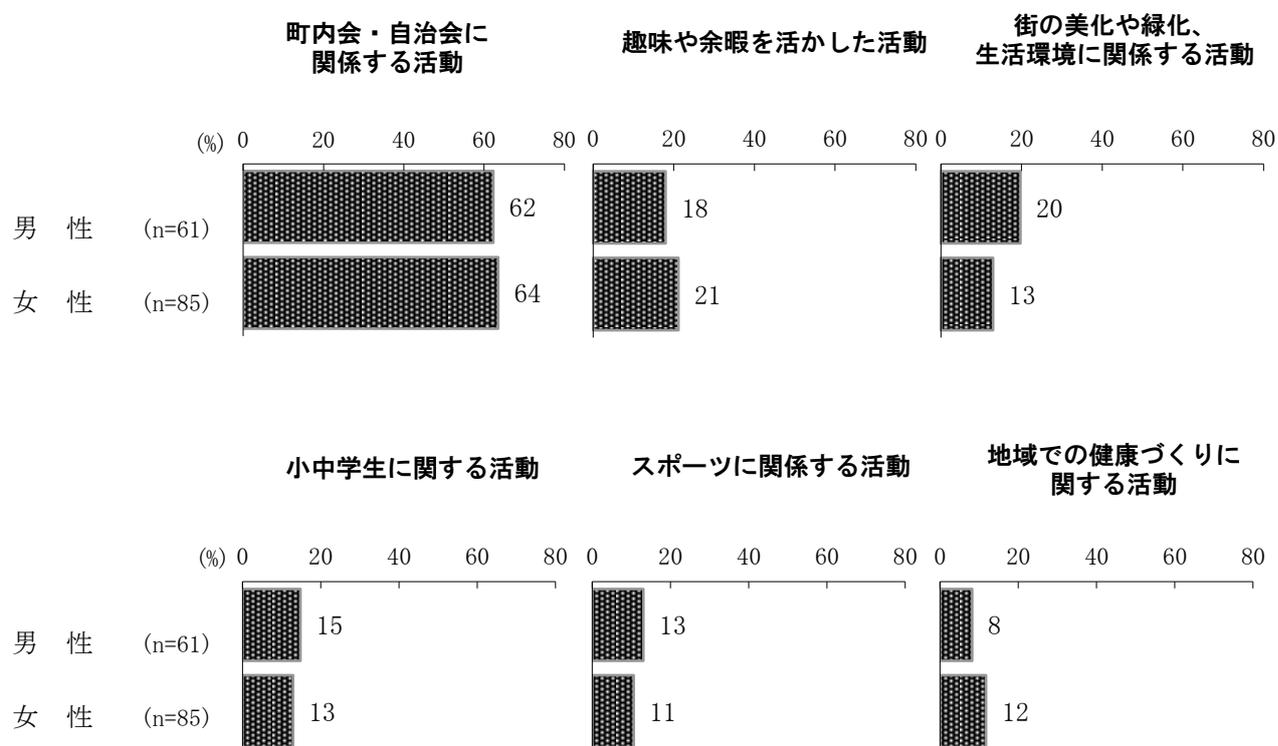
問9-1 地域で活動している団体（グループや個人の活動も含む）の活動分野をお選びください。
（あてはまるものすべてに○）

図 1 1 - 1 行っている地域活動の分野



「10. 地域活動の状況」で「活動を行っている」と回答した人に、行っている地域活動の分野について聞いたところ、「町内会・自治会に関する活動」（63.5%）が最も高く、次いで「趣味や余暇を活かした活動」（19.6%）、「街の美化や緑化、生活環境に関する活動」（16.2%）の順となった。

図 11-2 行っている地域活動の分野
 <上位6項目> (性別)



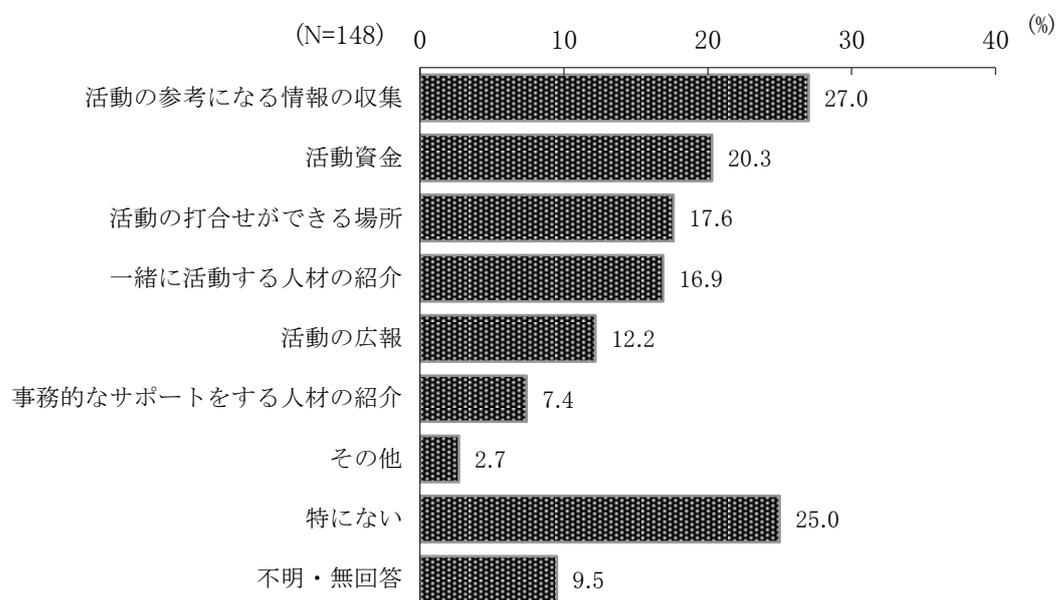
性別で見ると、「町内会・自治会に関する活動」は、男女で大きな差は見られなかった。

「趣味や余暇をいかした活動」は、男性より女性の方が3ポイント高い結果となった。一方、「街の美化や緑化、生活環境に関する活動」は、男性の方が7ポイント高い結果となった。

1 2. 地域活動をする上で支援を受けたいと思うもの

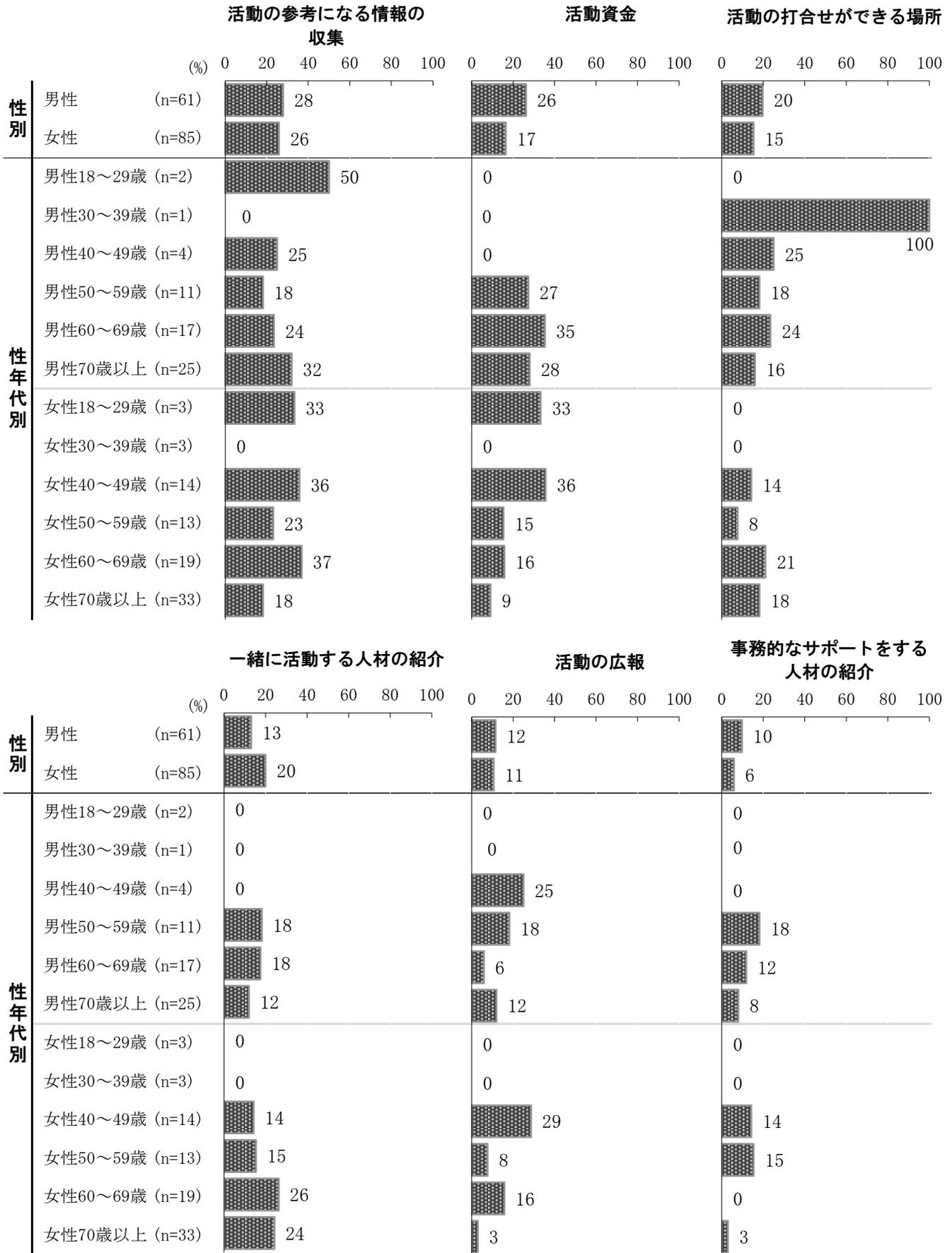
問9-2 地域で活動する上で支援を受けたいと思うものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

図 1 2 - 1 支援を受けたいと思うもの



「1 0. 地域活動の状況」で「活動を行っている」と回答した人に、地域活動をする上で支援を受けたいと思うものについて聞いたところ、「活動の参考になる情報の収集」(27.0%)が最も高く、次いで「活動資金」(20.3%)、「活動の打合せができる場所」(17.6%)の順となった。

図 1 2 - 2 地域活動をする上で支援を受けたいと思うもの
 <上位6項目> (性別・性年代別)

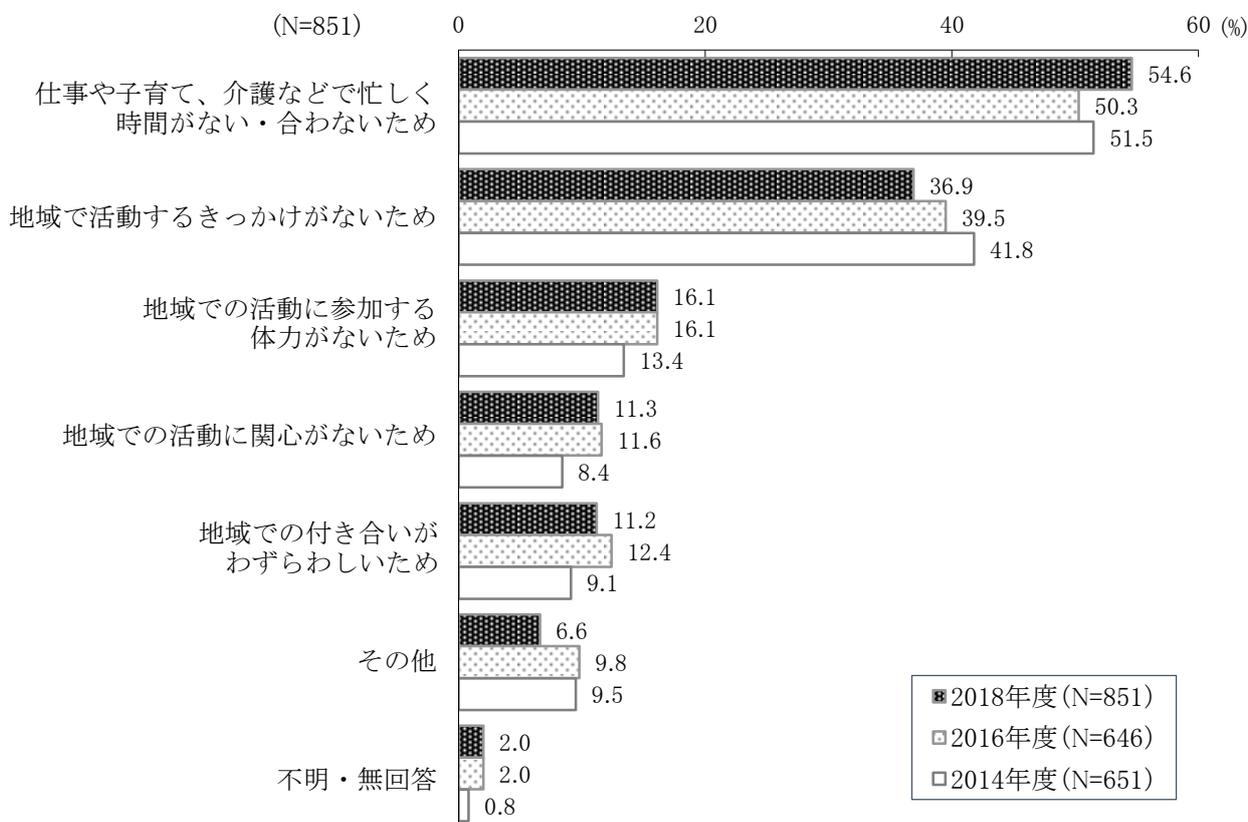


性別で見ると、「活動の参考になる情報の収集」は、男女で大きな差は見られなかった。また、「活動資金」は女性よりも男性が9ポイント高い結果となった。

13. 地域活動を行っていない理由

問9-3 地域でのボランティア活動などを行っていない理由をお選びください。
(あてはまるものすべてに○)

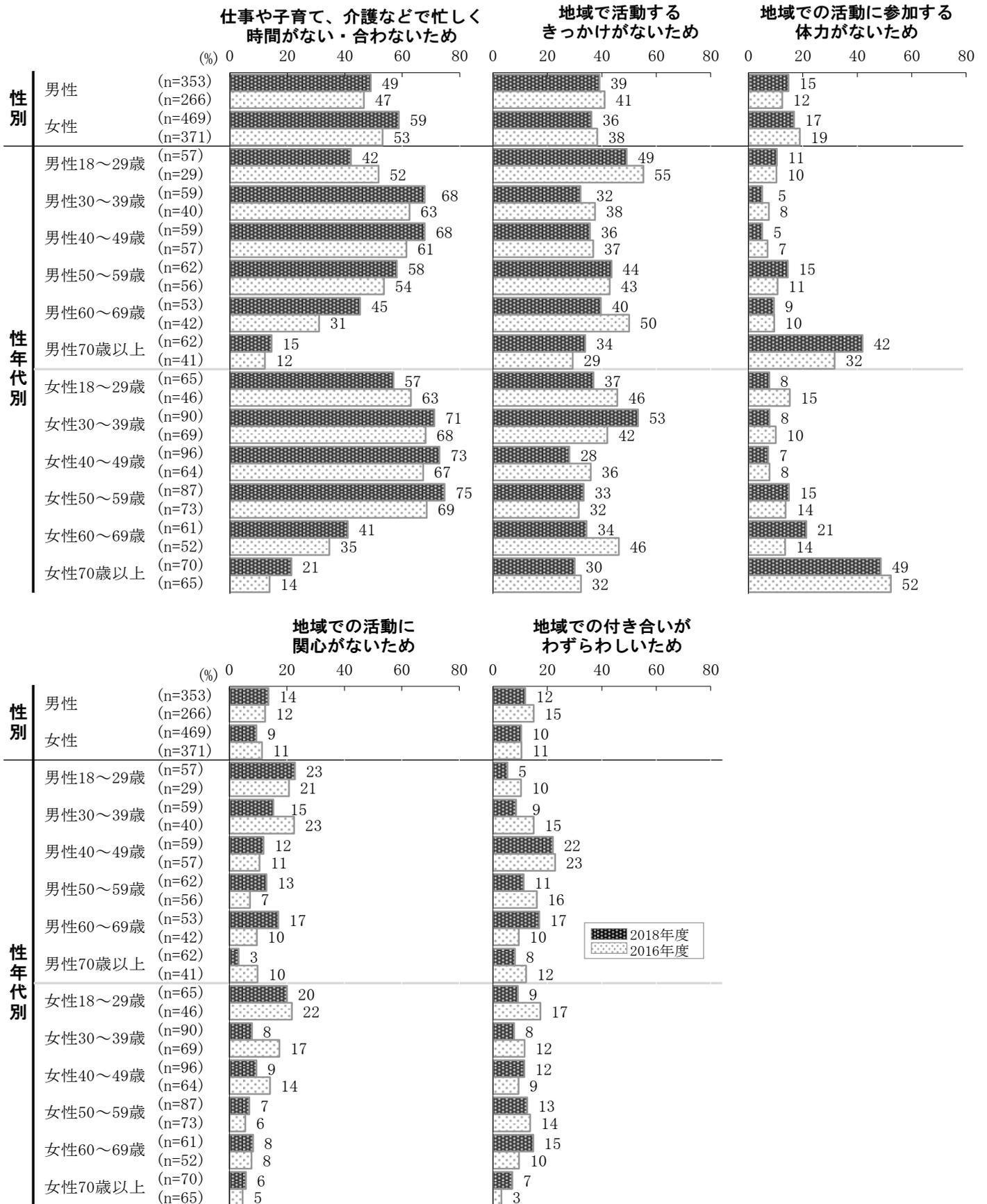
図 13-1 地域活動を行っていない理由



「10. 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、地域活動を行っていない理由について聞いたところ、「仕事や子育て、介護などで忙しく時間がない・合わないため」(54.6%)が最も高く、次いで「地域で活動するきっかけがないため」(36.9%)、「地域での活動に参加する体力がないため」(16.1%)の順となった。

2016年度から上位3項目の順位は変わらず、引き続き高い結果となった。

図 13-2 地域活動を行っていない理由（性別・性年代別）

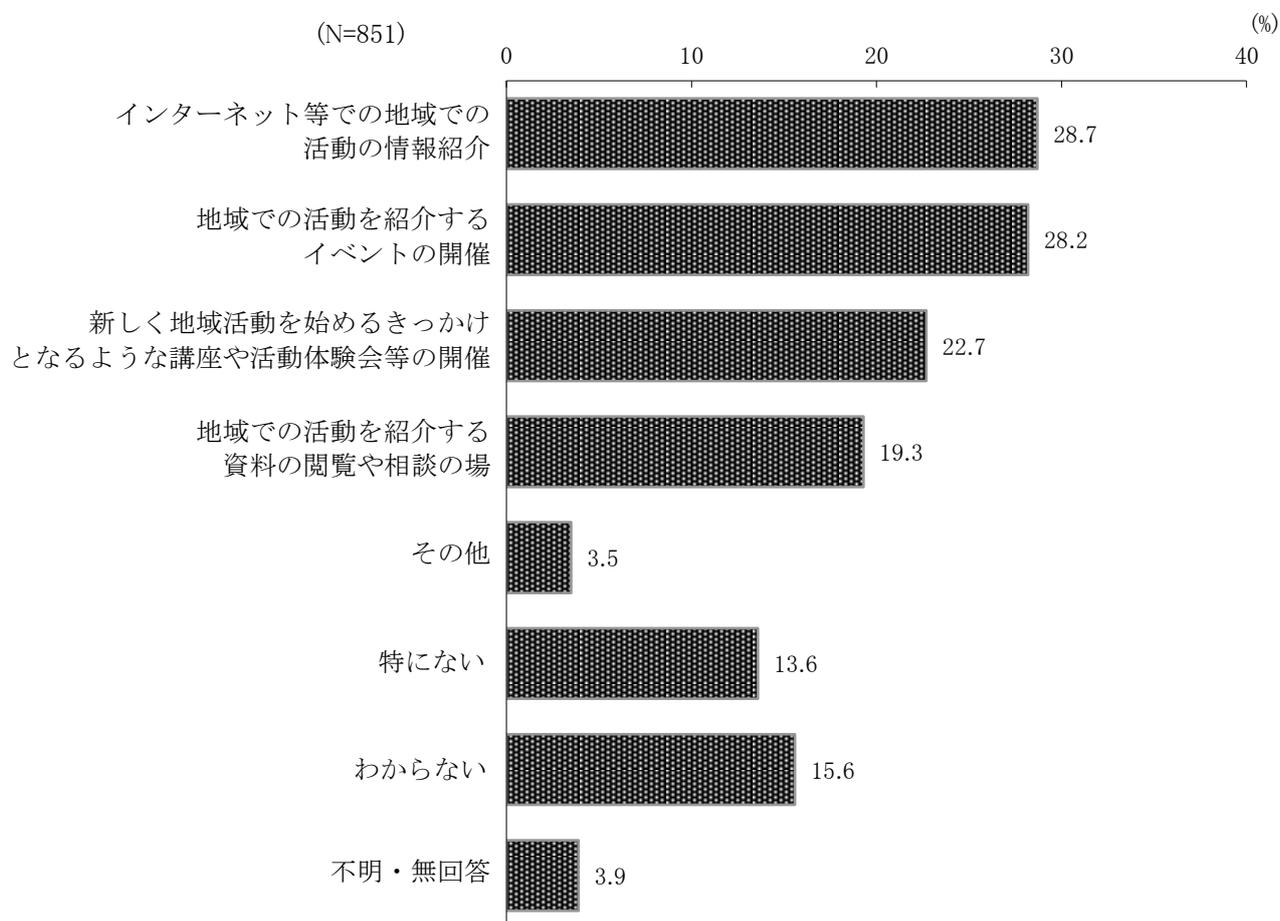


性年代別で見ると、「仕事や子育て、介護などで忙しく時間がない・合わないため」は、男性 30～49 歳、女性 30～59 歳で 65% を超え高くなっており、「地域で活動するきっかけがないため」は、女性 30～39 歳で半数を超える高い結果となった。

14. 地域活動を始めると必要な機会や場

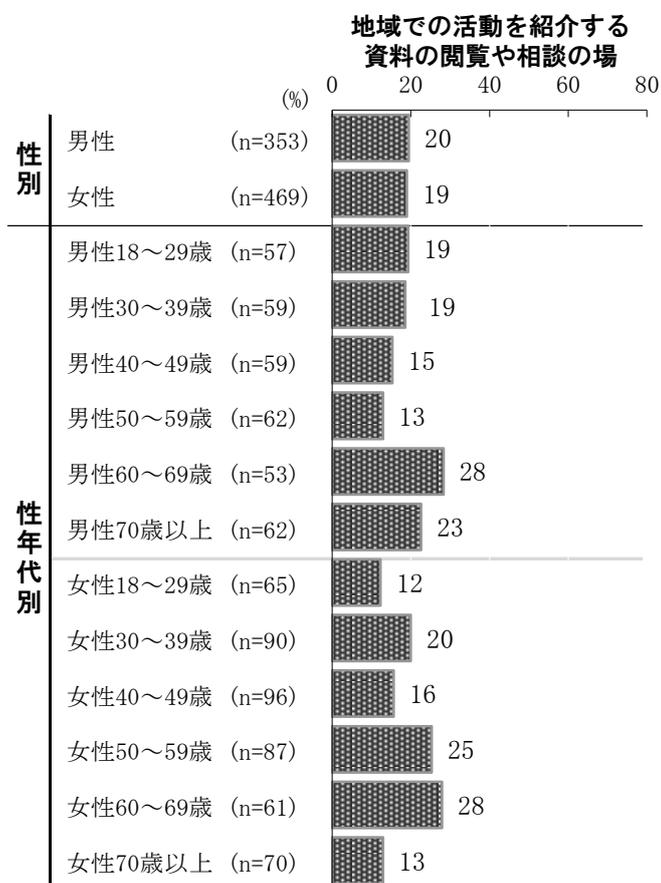
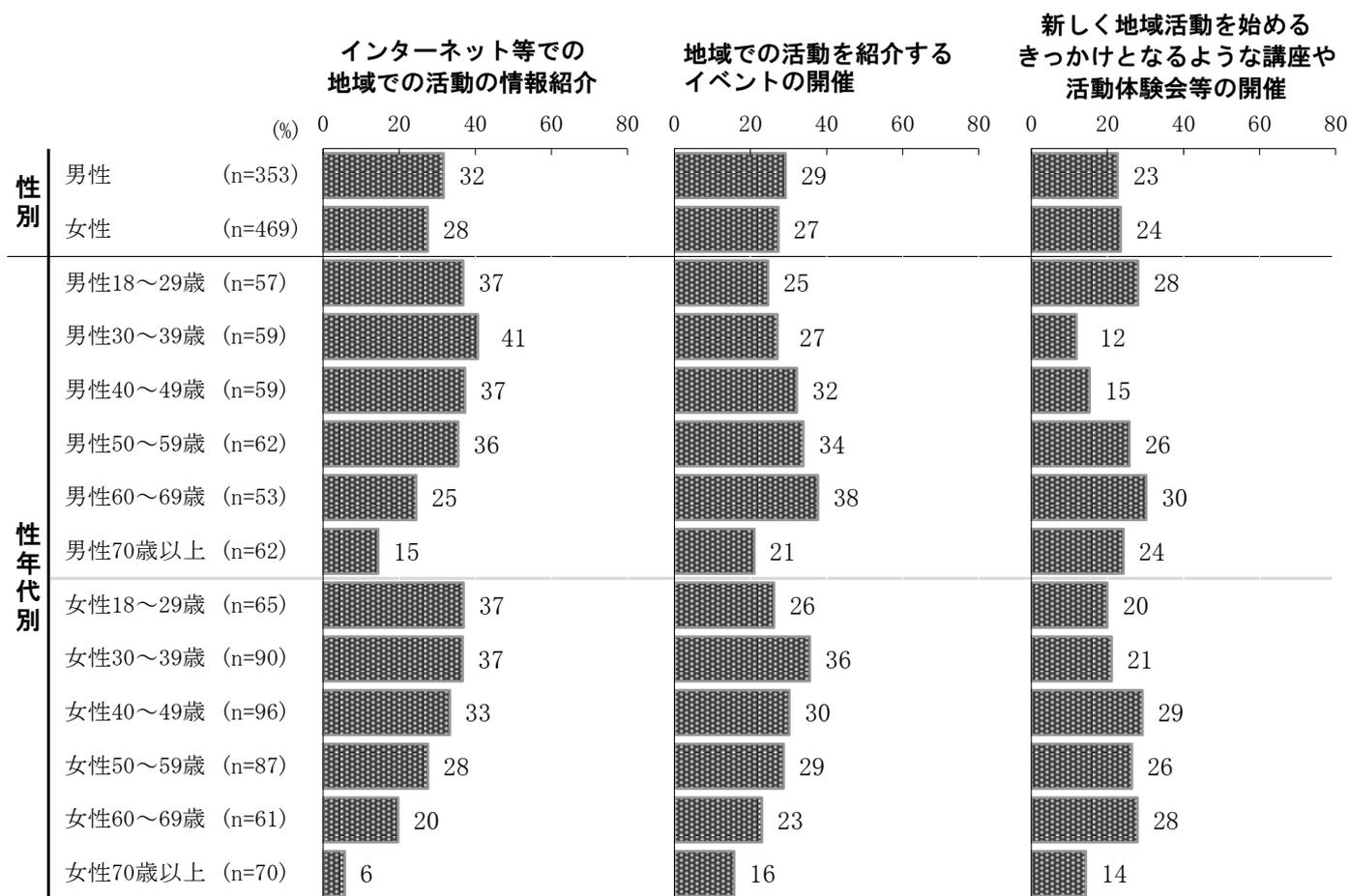
問9-4 地域でのボランティア活動などを始めるきっかけとして、どのような機会や場があることが効果的だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図14-1 地域活動を始めると必要な機会や場



「10. 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、地域活動を始めると必要な機会や場について聞いたところ、「インターネット等での地域での活動の情報紹介」(28.7%)が最も高く、次いで「地域での活動を紹介するイベントの開催」(28.2%)、「新しく地域活動を始めるときっかけとなるような講座や活動体験会等の開催」(22.7%)の順となった。

図 1 4 - 2 地域活動を始めするために必要な機会や場（性別・性年代別）

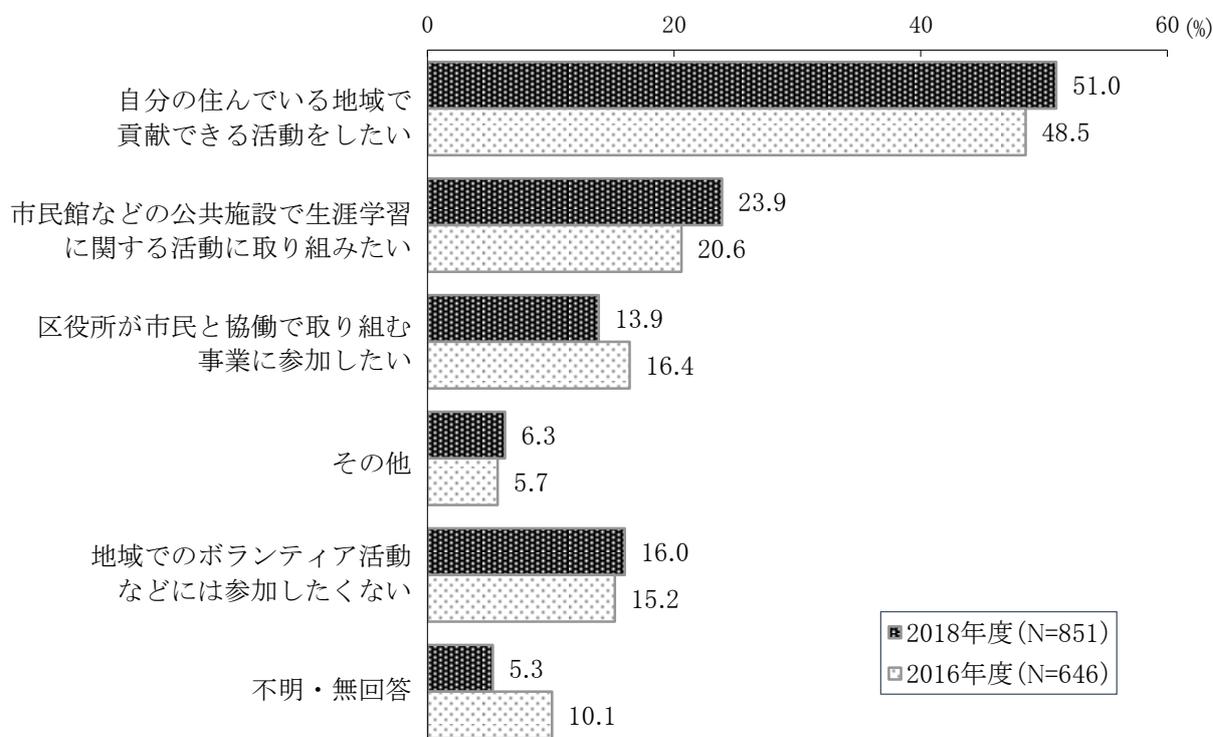


性別で見ると、「インターネット等での地域での活動の情報紹介」は、女性より男性の方が4ポイント高く、性年代別では男女とも年代が下がるほどおおむね高くなる結果となった。

15. 地域活動への取組意向

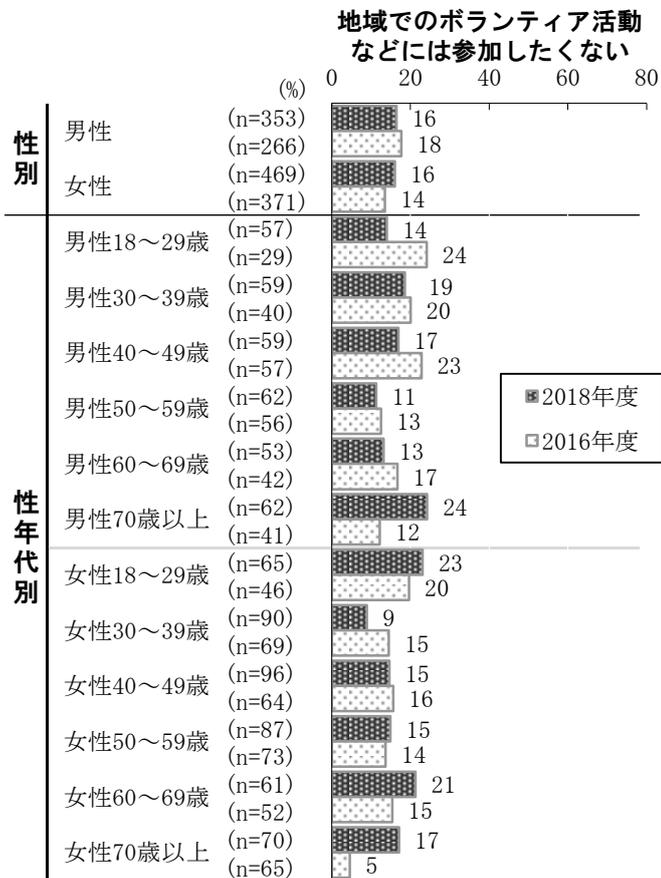
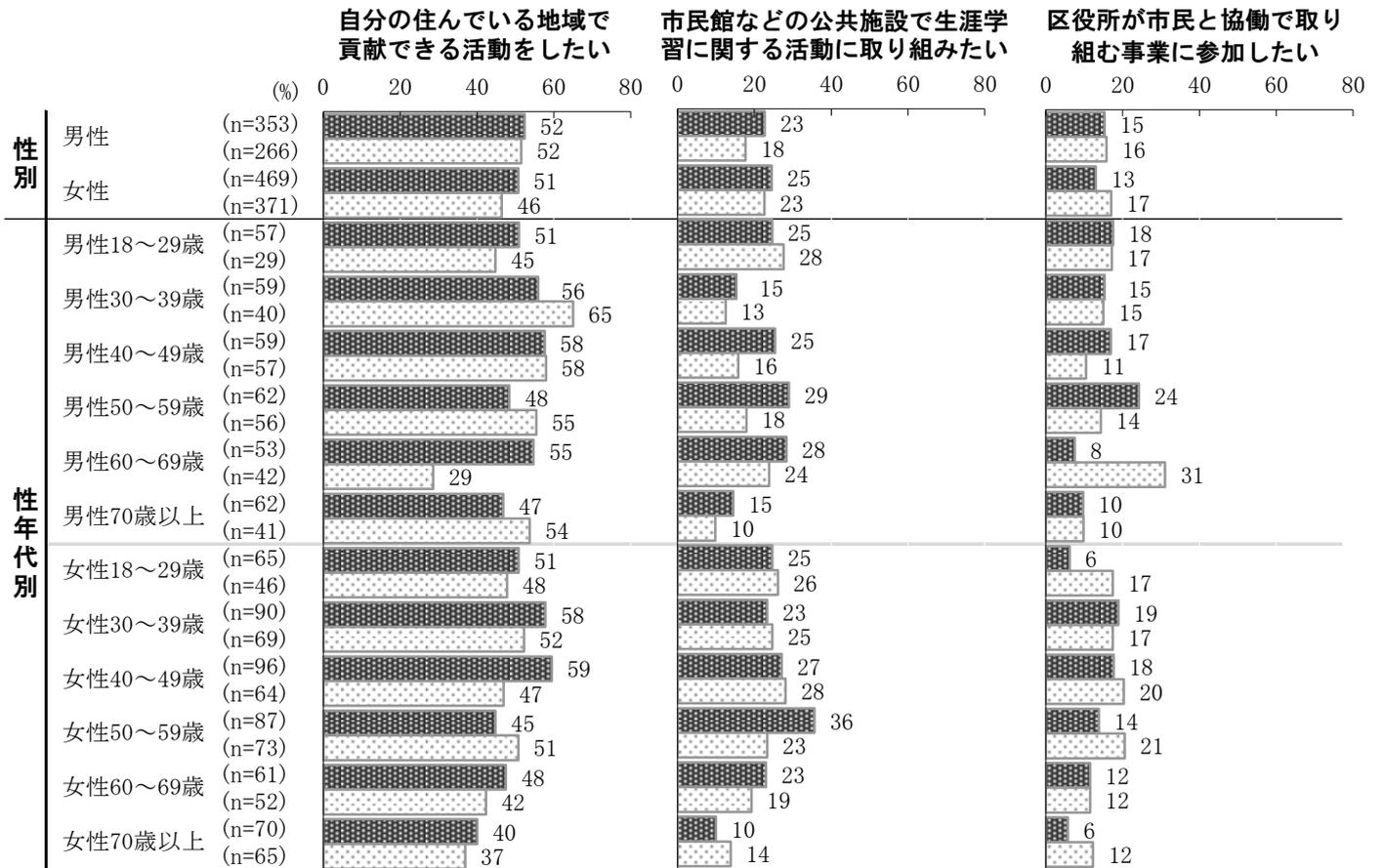
問9-5 地域でのボランティア活動などを行うとした場合、どのようなかたちで地域で活動をしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

図 15-1 地域活動への取組意向



「10. 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、地域活動への取組意向について聞いたところ、「自分の住んでいる地域で貢献できる活動をしたい」(51.0%)が最も高く、次いで「市民館などの公共施設で生涯学習に関する活動に取り組みたい」(23.9%)、「地域でのボランティア活動などには参加したくない」(16.0%)の順となった。

図 15-2 地域活動への取組意向（性別・性年代別）

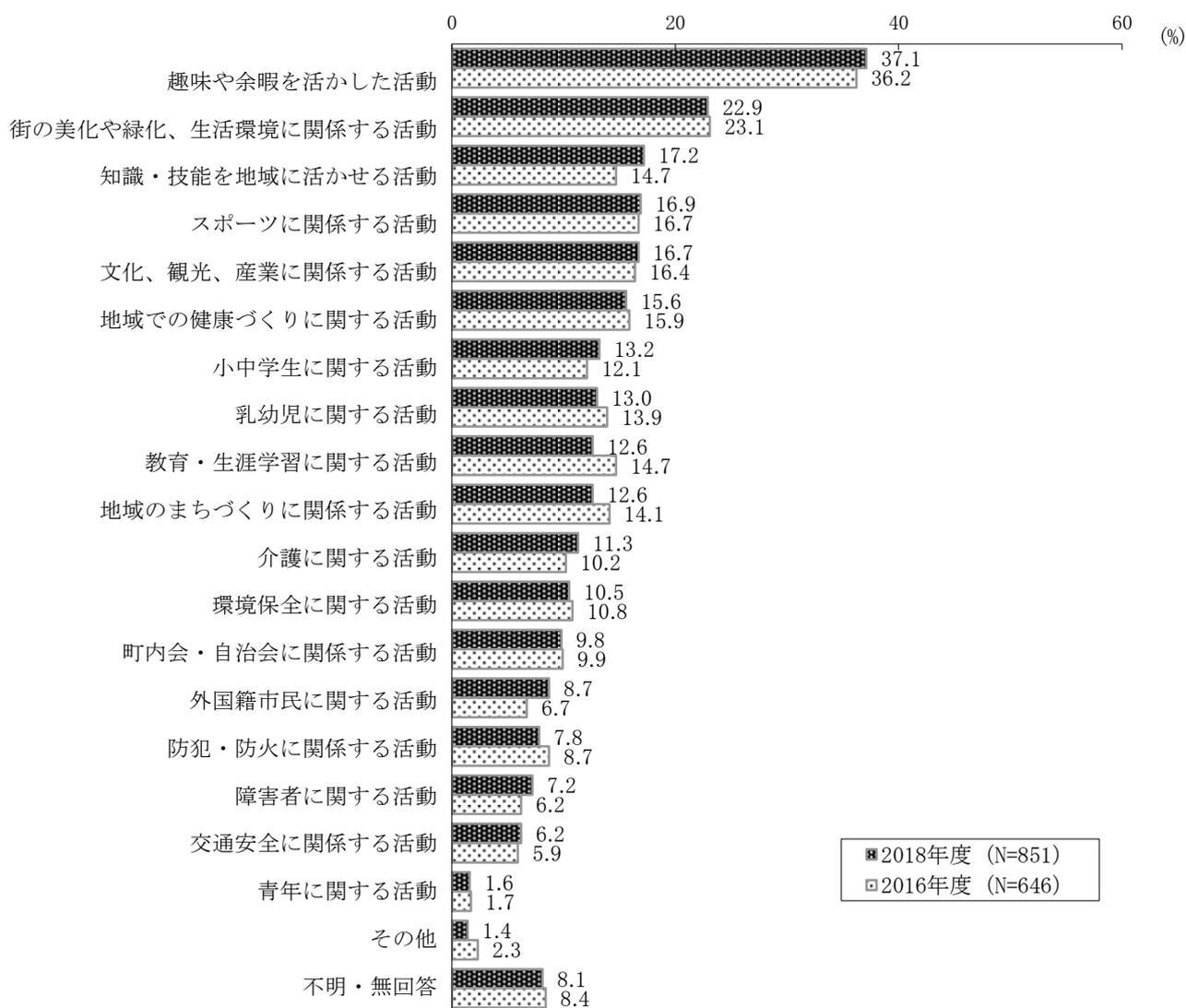


地域活動への取組意向を性別で見ると、上記の4項目はいずれも男女でほぼ同率であった。

16. 地域活動への関心分野

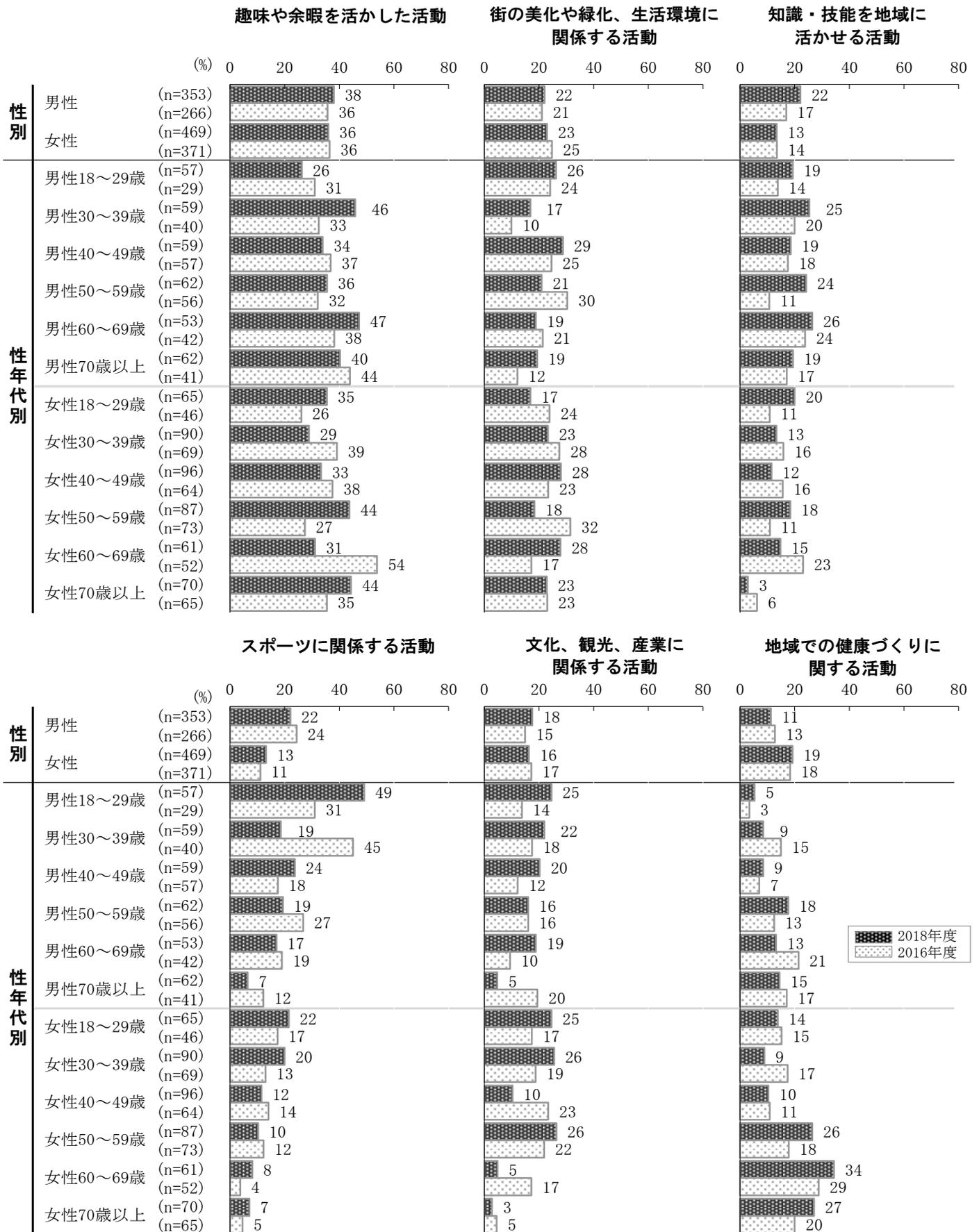
問9-6 地域でのボランティア活動などを行うとした場合、どのような分野に関心がありますか。次の中から3つ以内で番号をお選びいただき、右の枠内に番号を御記入ください。(番号は3つまで)

図 16-1 地域活動への関心分野



「10. 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、地域活動への関心分野について聞いたところ、「趣味や余暇を活かした活動」が37.1%と最も高い結果となった。次いで、「街の美化や緑化、生活環境に関する活動」(22.9%)、「知識・技能を地域に活かせる活動」(17.2%)、「スポーツに関する活動」(16.9%)、「文化、観光、産業に関する活動」(16.7%)の順となった。

図 16-2 地域活動への関心分野
 <上位6項目> (性別・性年代別)

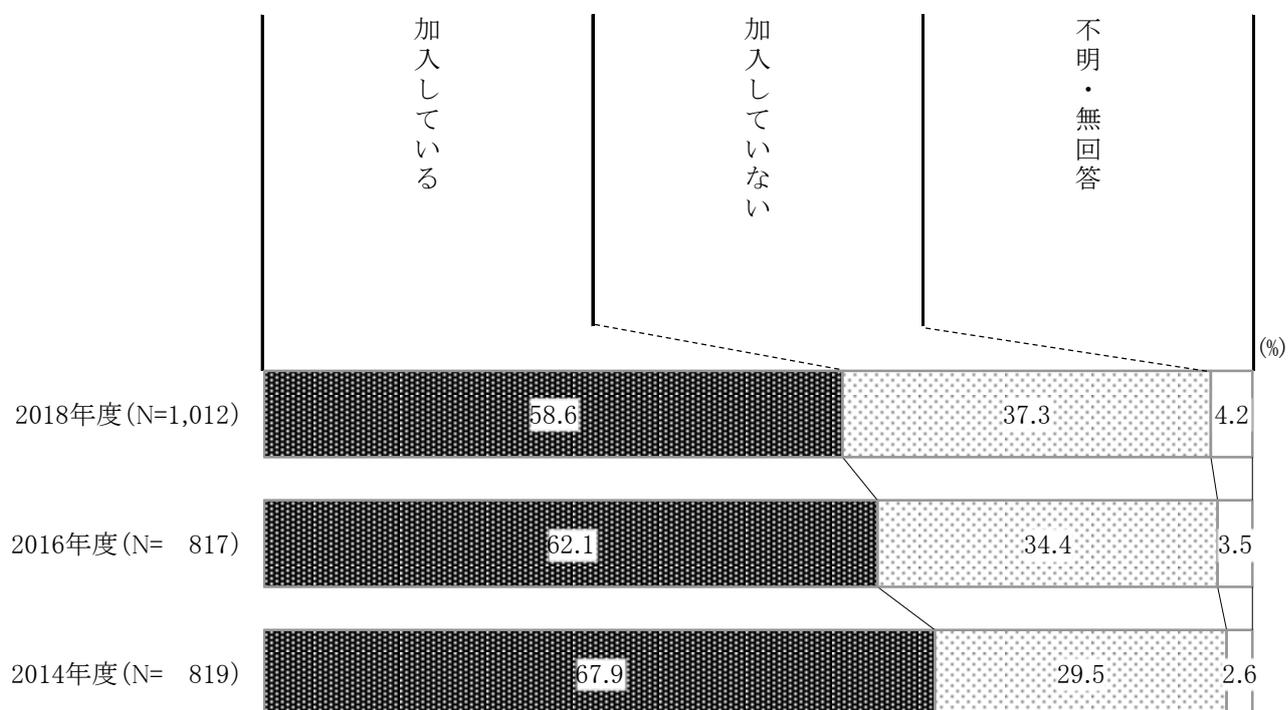


性年代で見ると、「趣味や余暇を活かした活動」は、男性30~39歳と60歳代以上、女性50~59歳と70歳以上で40%を超え高くなっている。

17. 町内会・自治会への加入状況

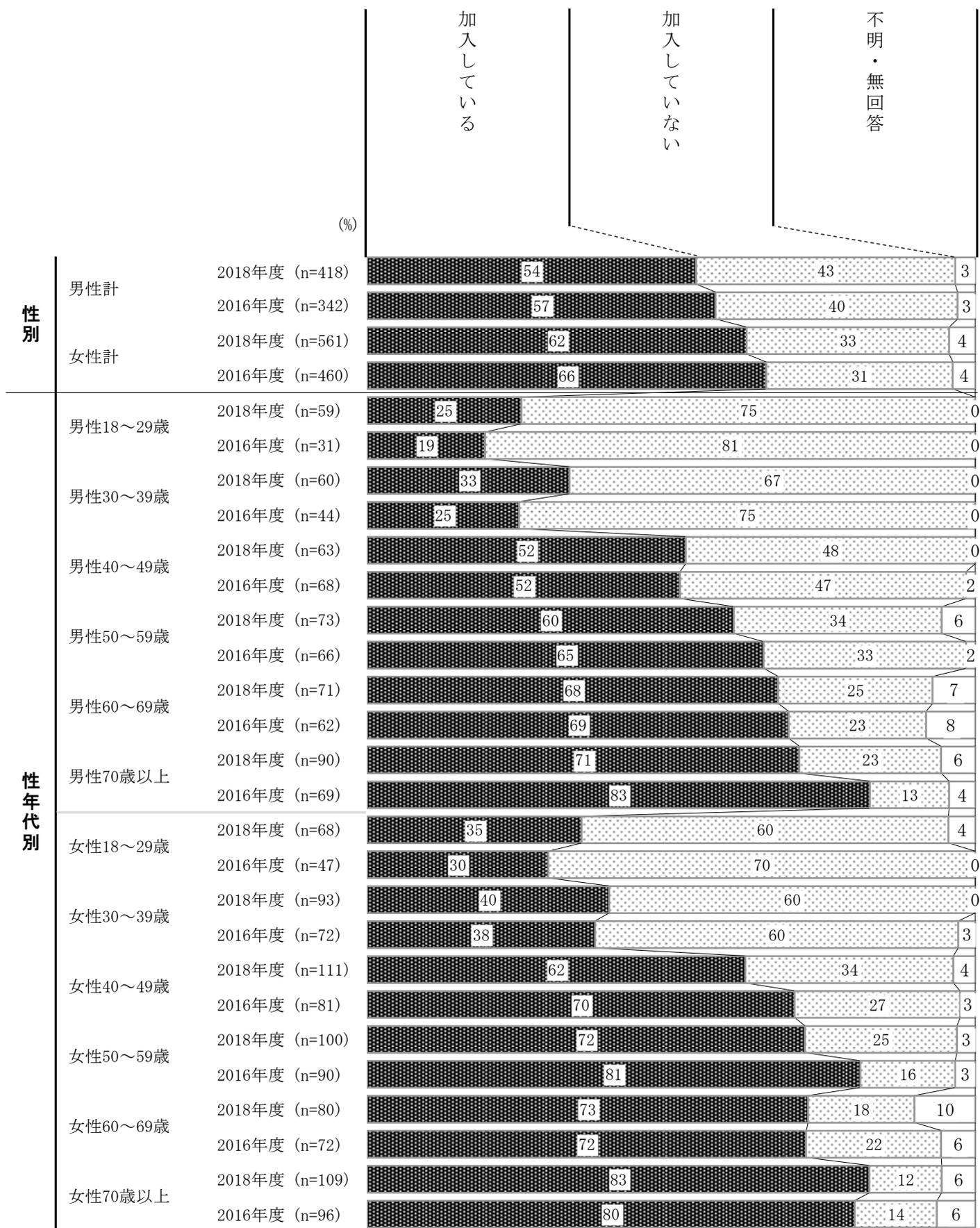
問10 町内会・自治会に加入していますか。(○は1つだけ)

図 17-1 町内会・自治会への加入状況



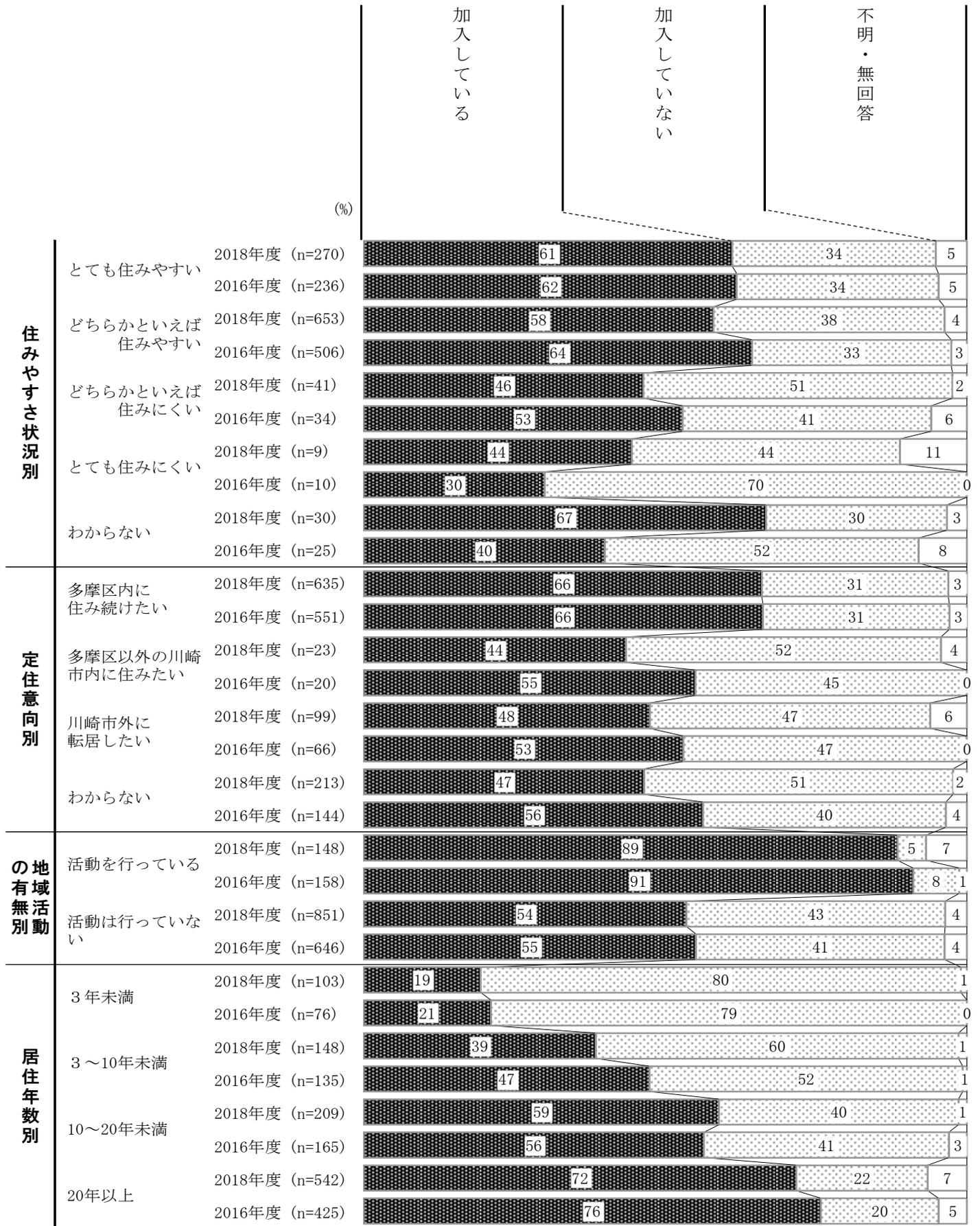
「町内会・自治会への加入状況」について聞いたところ、「加入している」は58.6%で、2016年度から3.5ポイント減少した。

図 17-2 町内会・自治会への加入状況（性別・性年代別）



性年代別で見ると、「加入している」は男女ともに40歳代以上で半数を超え高い結果となった。また、2016年度と比較すると、男性70歳以上で12ポイントの減少となった。

図 17-3 町内会・自治会への加入状況
(住みやすさ状況別・定住意向別・地域活動の有無別・居住年数別)

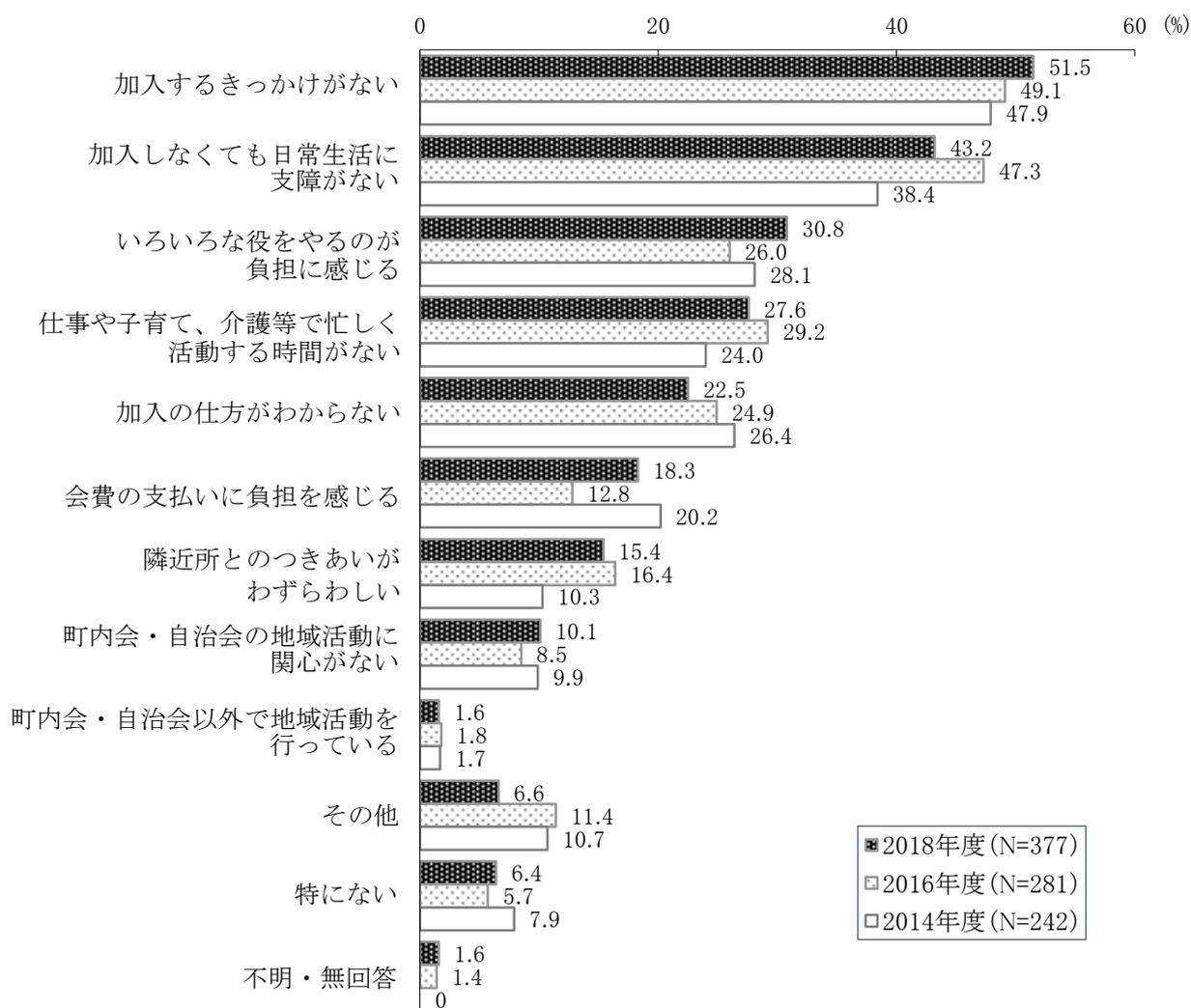


町内会・自治会への加入状況では、居住年数が長いほど「加入している」率が高い傾向となっており、2016年度と同様の傾向となった。

18. 町内会・自治会に加入していない理由

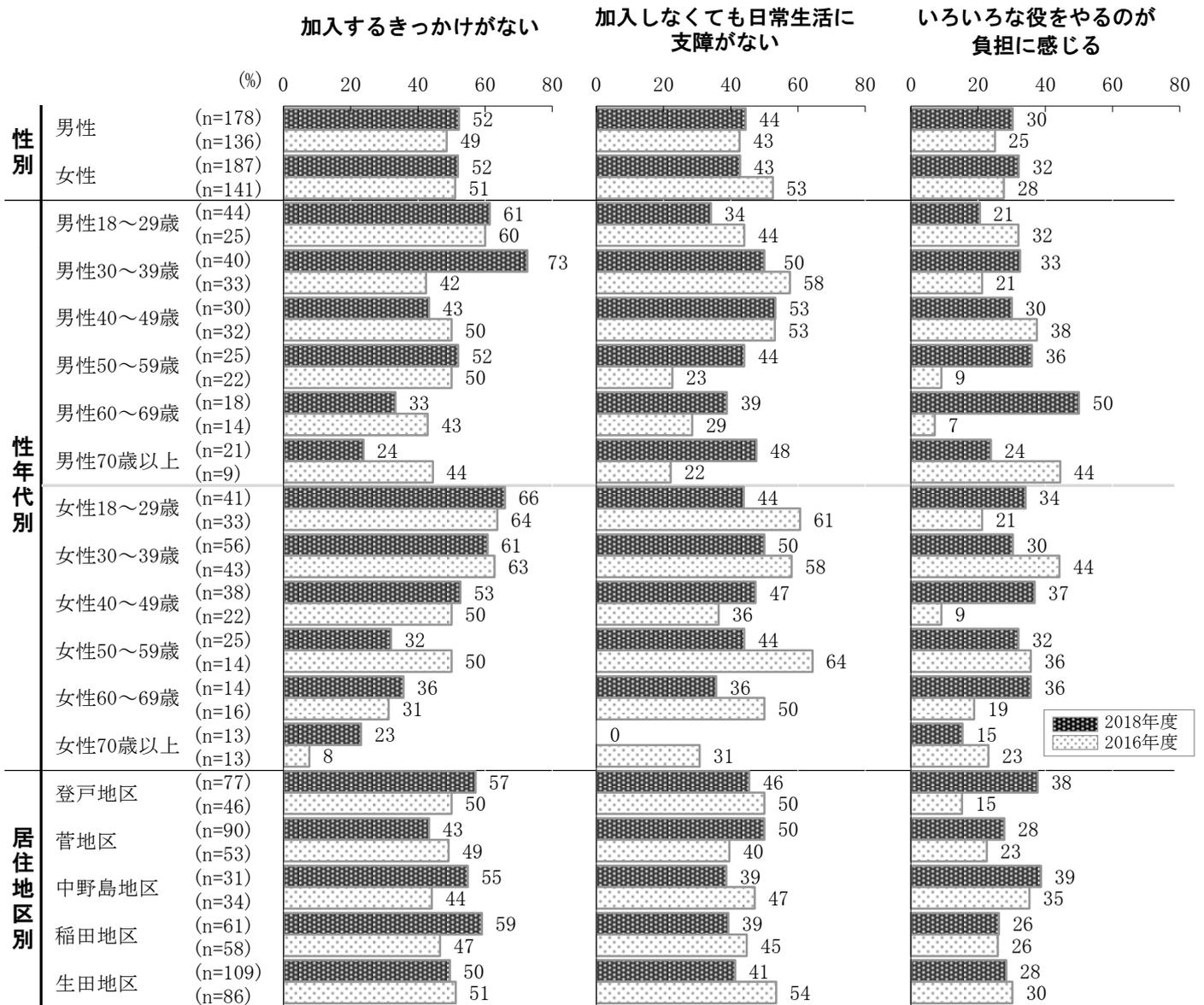
問10-1 町内会・自治会に加入していない理由をお選びください。(あてはまるものすべてに○)

図 18-1 町内会・自治会に加入していない理由



「17. 町内会・自治会への加入状況」で「加入していない」と回答した人に町内会・自治会に加入していない理由について聞いたところ、「加入するきっかけがない」(51.5%)が最も高い結果となり、次いで「加入しなくても日常生活に支障がない」(43.2%)、「いろいろな役をやるのが負担に感じる」(30.8%)の順となった。

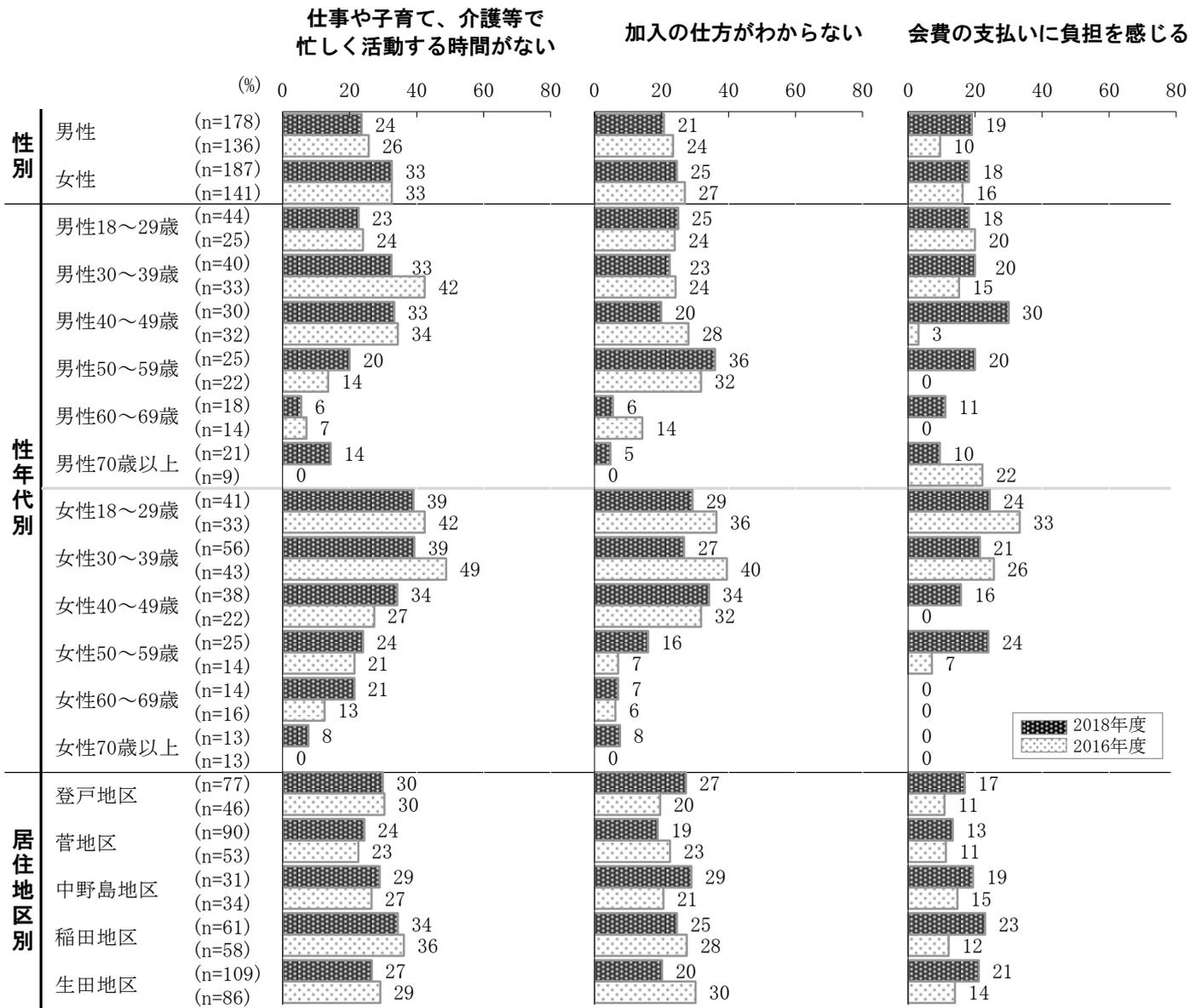
図 18-2 町内会・自治会に加入していない理由①
 <上位6項目> (性別・性年代別・居住地区別)



性年代別で見ると、「加入するきっかけがない」は、男性30~39歳で70%を超え最も高く、女性18~39歳で60%を超え、高い結果となった。また、「加入しなくても日常生活に支障がない」は、男性30~49歳、女性30~39歳で高い結果となった。

居住地区別で見ると、「いろいろな役をやるのが負担に感じる」は、登戸地区と中野島地区で30%を超え高い結果となった。

図 18-3 町内会・自治会に加入していない理由②
 <上位6項目> (性別・性年代別・居住地区別)

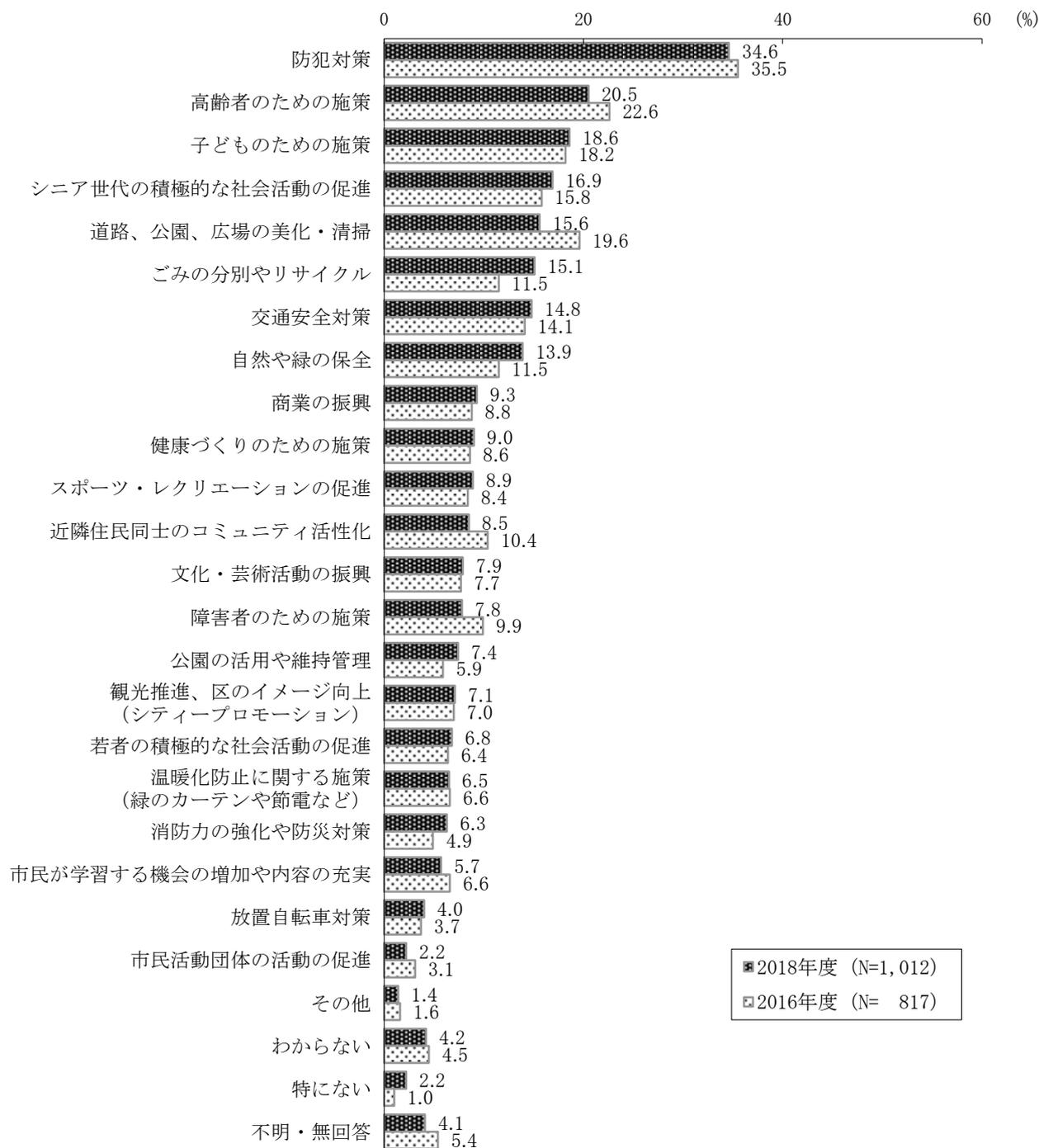


性別で見ると、「仕事や子育て、介護等で忙しく活動する時間がない」は女性が男性よりも9ポイント高く、性年代別で見ると、女性は年代が上がるほどおおむね低くなる傾向となった。「加入の仕方がわからない」は、男性50～59歳と女性40～49歳で30%を超え高い結果となった。「会費の支払いに負担を感じる」は、男性40～49歳で30%と最も高い結果となった。

19. 区民と行政が協働して取り組んだほうが効果的だと思うもの

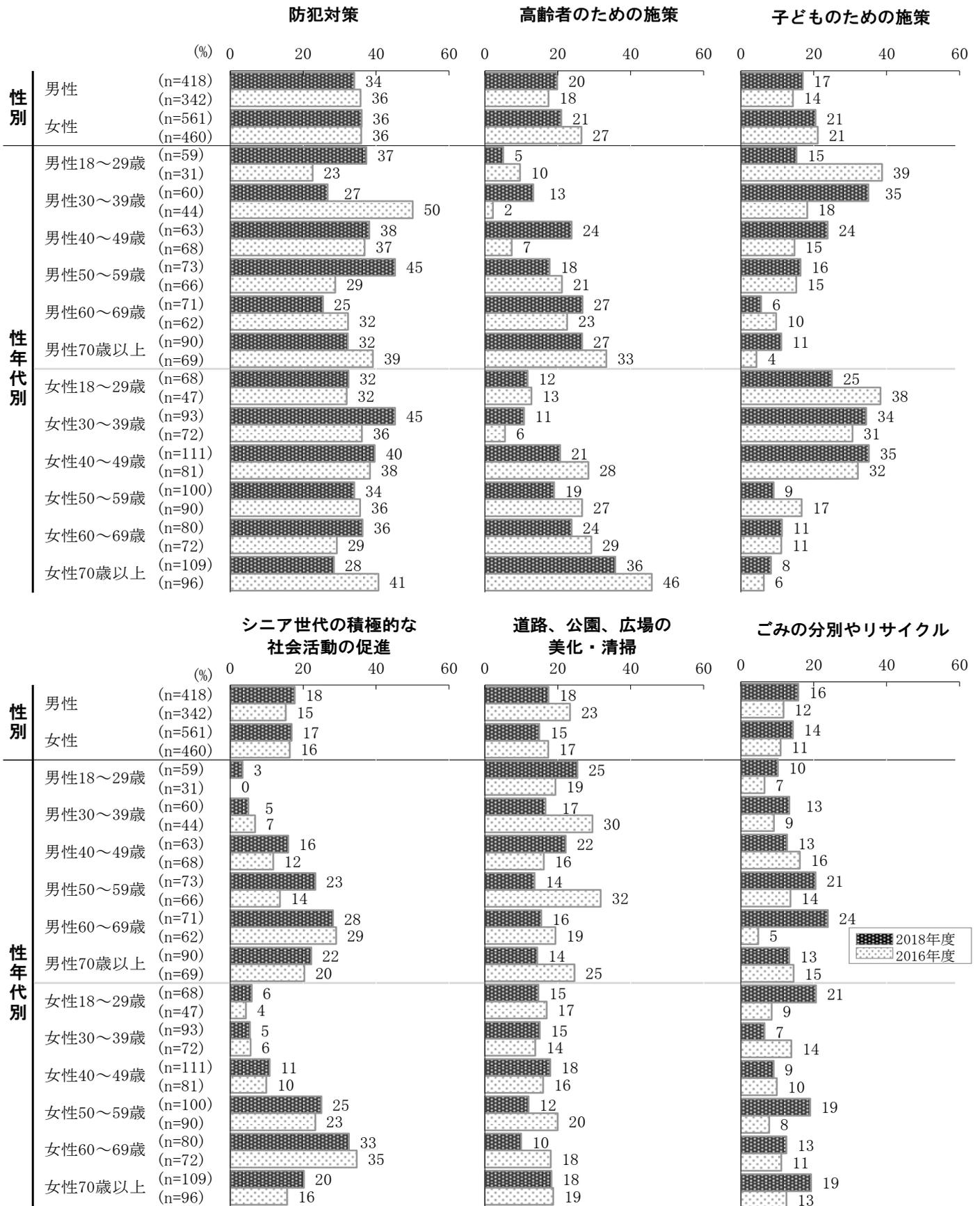
問11 区民（NPOや市民活動団体などを含む）と行政が協働して取り組んだほうが効果的だと思うものは何ですか。次の中から3つ以内で番号をお選びいただき、右の枠内に番号を御記入ください。（番号は3つまで）

図19-1 区民と行政が協働して取り組んだほうが効果的だと思うもの



「区民と行政が協働して取り組んだほうが効果的だと思うもの」について聞いたところ、「防犯対策」（34.6%）が最も高い結果となり、次いで「高齢者のための施策」（20.5%）、「子どものための施策」（18.6%）の順となった。2016年度と比較すると、「道路、公園、広場の美化・清掃」は4ポイント減少する結果となった。

図19-2 区民と行政が協働して取り組んだほうが効果的だと思うもの
 <上位6項目> (性別・性年代別)

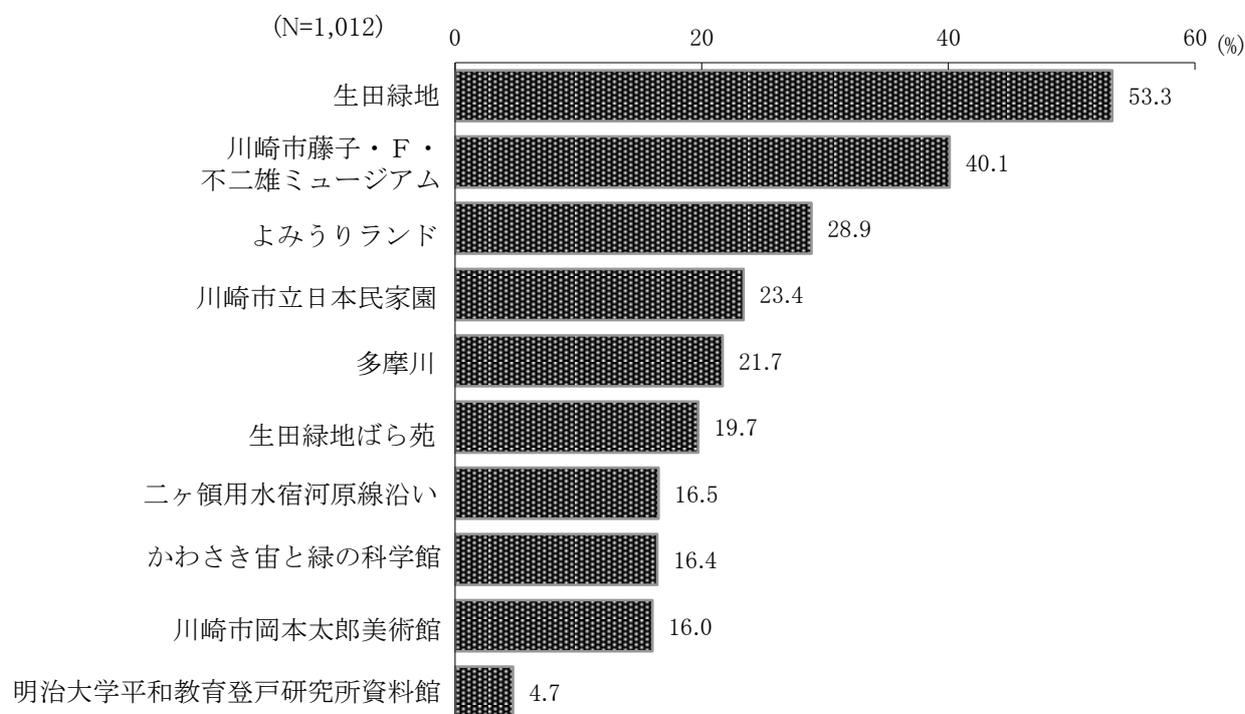


性年代別で見ると、「防犯対策」は、男性50~59歳と女性30~39歳で45%と最も高い結果となった。「高齢者のための施策」は、男性60歳以上、女性70歳以上で高い結果となった。「子どものための施策」は、男性30~39歳、女性18~39歳で高い結果となった。

20. 多摩区の見どころ

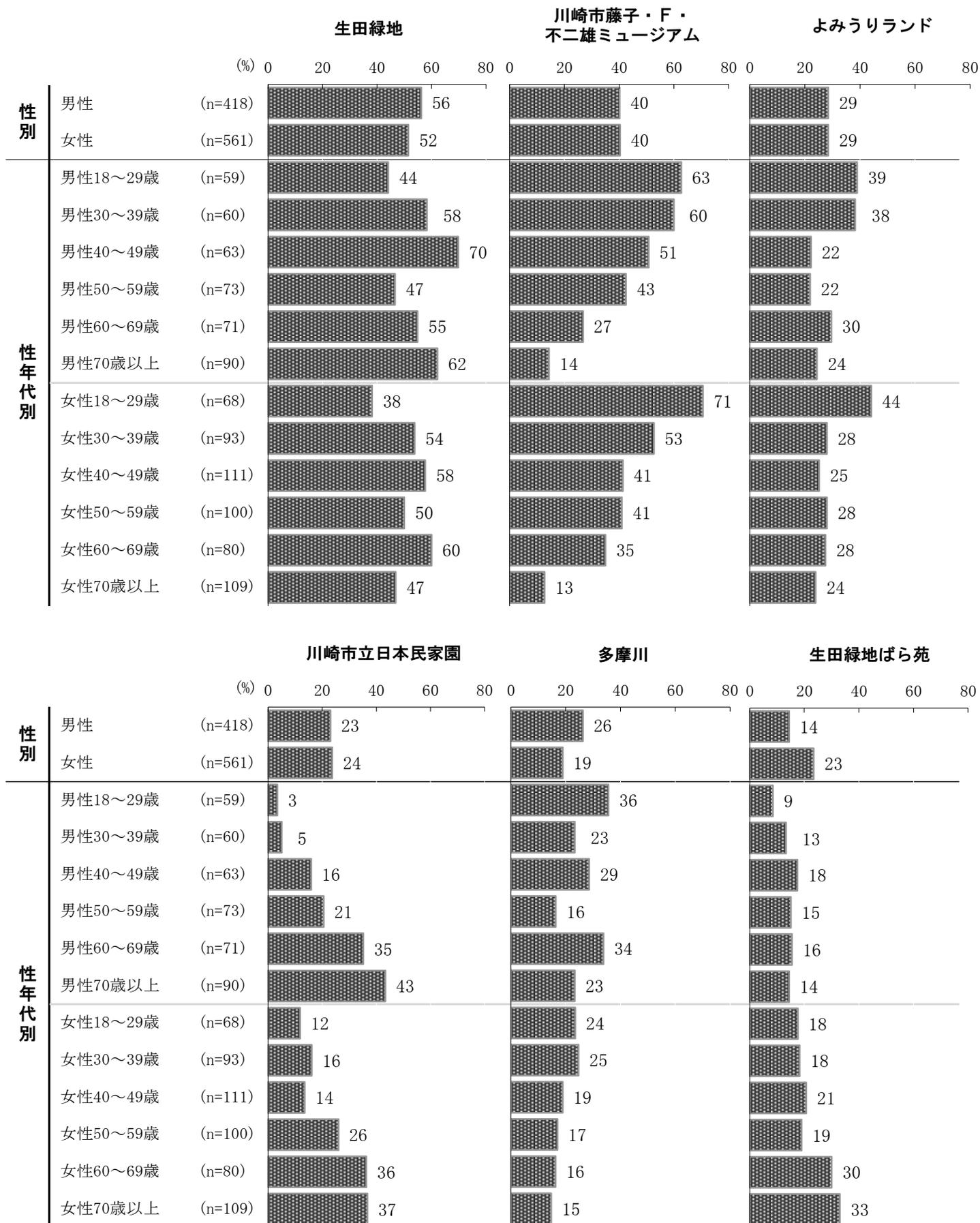
問12 多摩区内のどの見どころを他人に薦めたいと思いますか。次の中から3つ以内で番号をお選びいただき、右の枠内に番号を御記入ください。(番号は3つまで)

図 20-1 多摩区の見どころ<上位10項目>



「多摩区の見どころ」について聞いたところ、「生田緑地」(53.3%)が半数を超え最も高く、次いで「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」(40.1%)、「よみうりランド」(28.9%)の順となった。

図 20-2 多摩区の見どころ
 <上位6項目> (性別・性年代別)

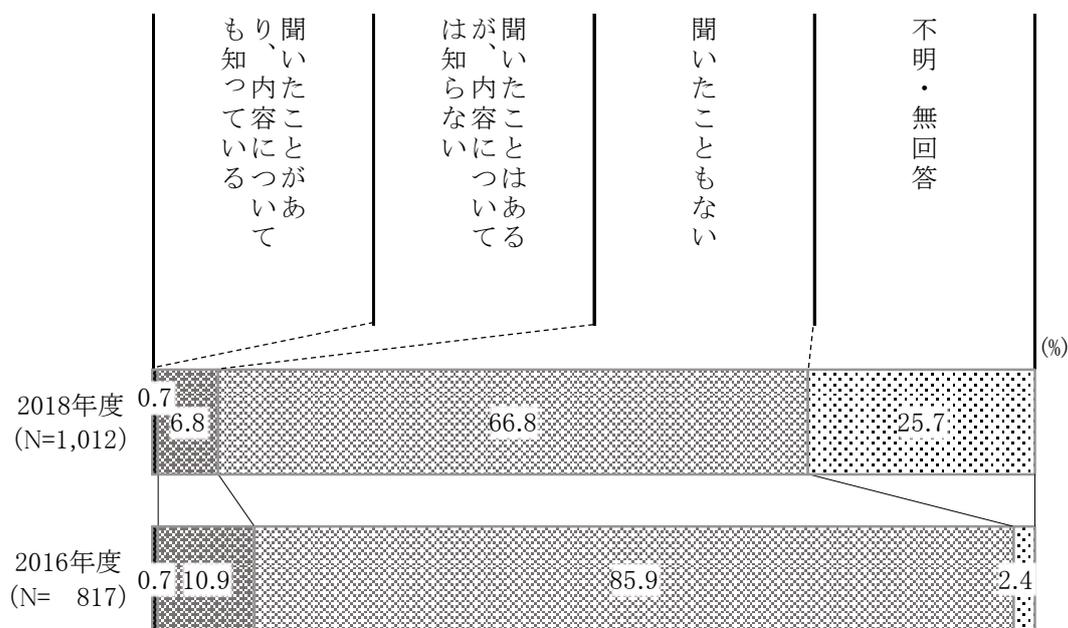


性年代別で見ると、「生田緑地」は、男性 40~49 歳で 70% を超え他の性年代と比較して最も高い結果となった。また、「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」は、女性 18~29 歳で 70% を超え高い結果となった。

2.1. 「ピクニックタウン多摩区」の認知状況

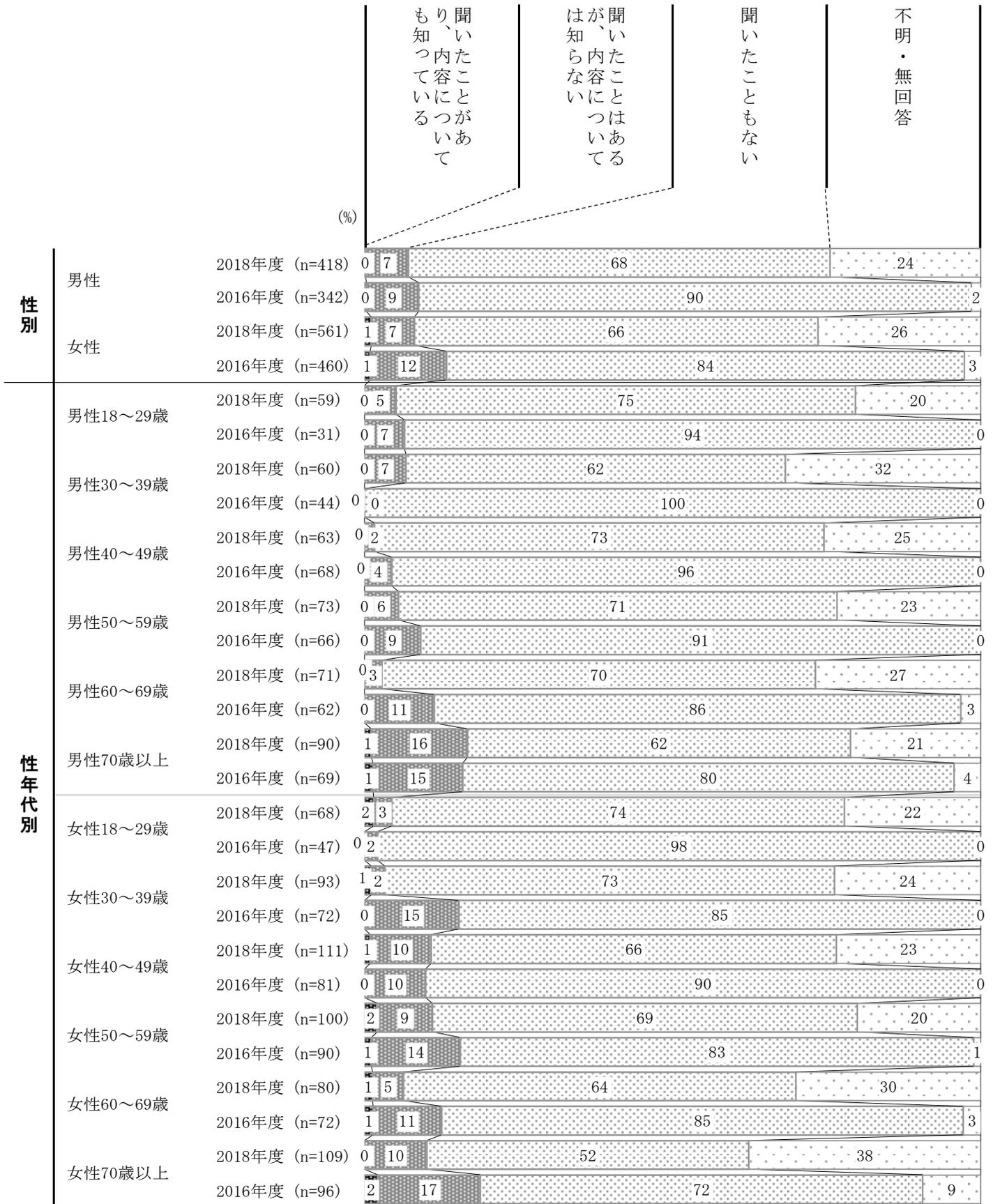
問13 多摩区の豊かな自然環境や魅力的な地域資源を活用し、楽しみ方や過ごし方を提案することで、区のイメージや地域ブランド力の向上を目指す取組である「ピクニックタウン多摩区」を知っていますか。(〇は1つだけ)

図 21-1 「ピクニックタウン多摩区」の認知状況



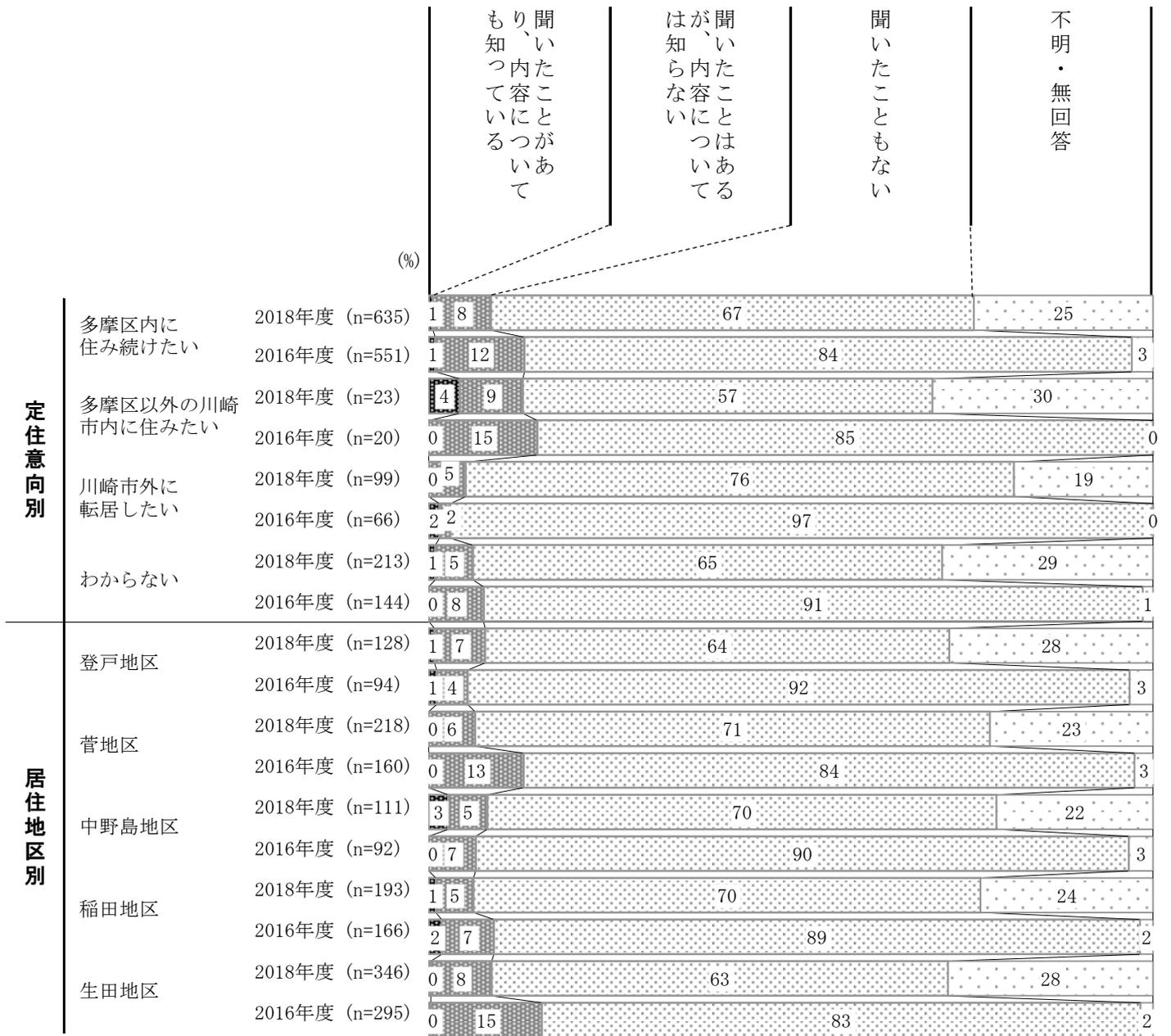
「ピクニックタウン多摩区」の認知状況について聞いたところ、「聞いたこともない」(66.8%)が最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容については知らない」(6.8%)、「聞いたことがあり、内容についても知っている」(0.7%)の順となった。

図 21-2 「ピクニックタウン多摩区」の認知状況（性別・性年代別）



性年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容についても知っている」と「聞いたことはあるが、内容については知らない」を合わせた『聞いたことがある計』は、2016年度と比較して、女性30~39歳で12ポイント減少する結果となった。

図 21-3 「ピクニックタウン多摩区」の認知状況
(定住意向別・居住地区別)



定住意向別で見ると、「聞いたことがあり、内容についても知っている」と「聞いたことはあるが、内容については知らない」を合わせた『聞いたことがある計』は、「多摩区以外の川崎市内に住みたい」で10%を超え「多摩区内に住み続けたい」より高い結果となった。

また、居住地区別にみると、2016年度と比較して菅地区と生田地区でそれぞれ7ポイント減少する結果となった。

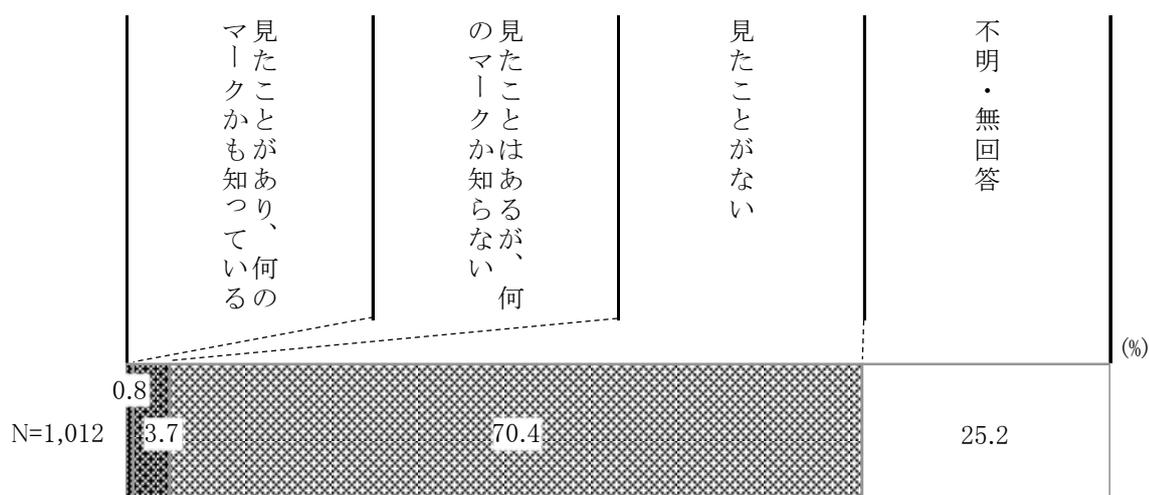
2.2. 「ピクニックタウン多摩区」のロゴマークの認知状況

問14 「ピクニックタウン多摩区」のロゴマーク（右図）を見たことがありますか。（○は1つだけ）



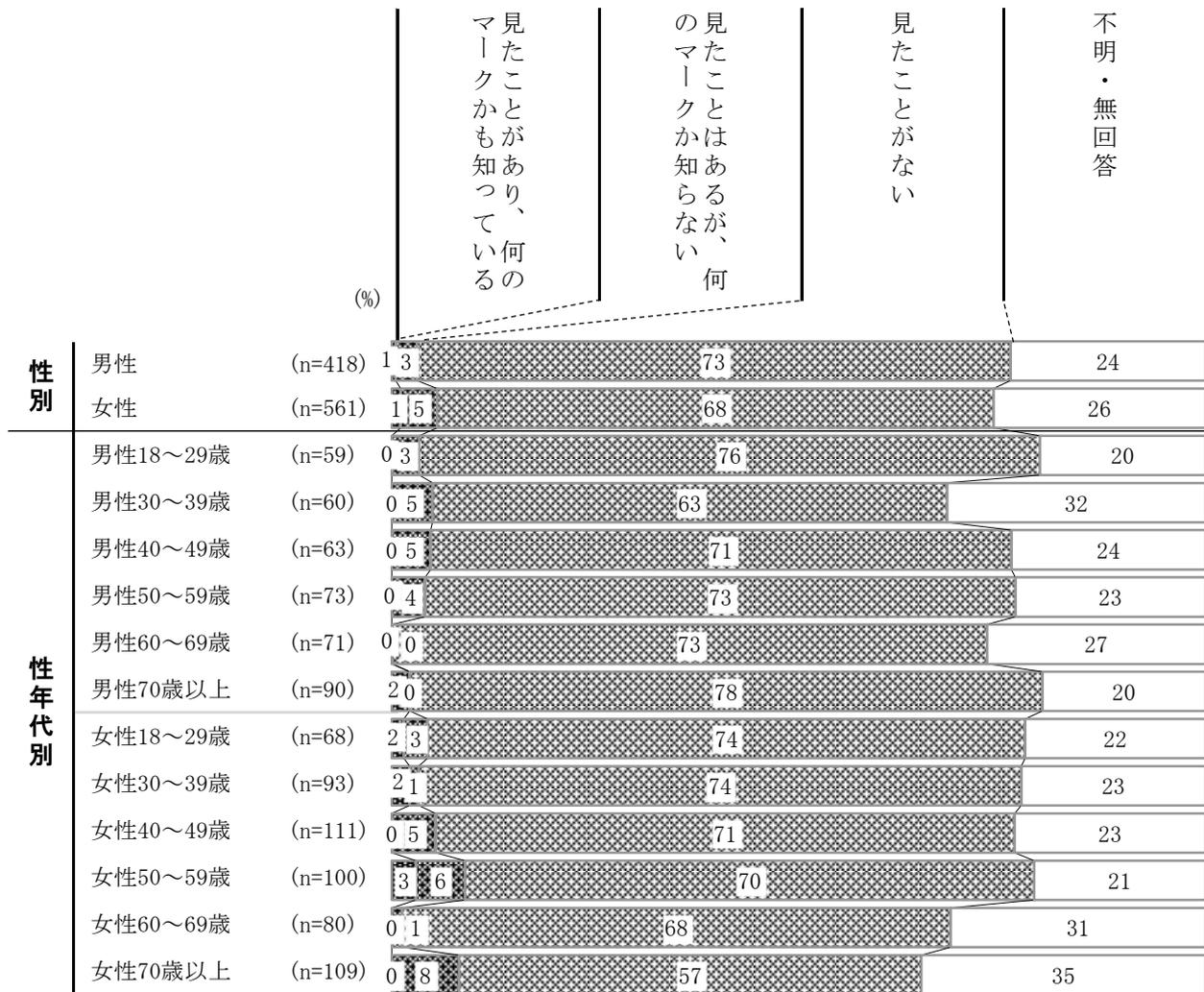
ピクニックタウン多摩区

図 22-1 「ピクニックタウン多摩区」のロゴマークの認知状況



『「ピクニックタウン多摩区」のロゴマーク』を見たことがあるか聞いたところ、「見たことがない」（70.4%）が最も高く、次いで「見たことはあるが、何のマークかは知らない」（3.7%）、「見たことがあり、何のマークか知っている」（0.8%）の順となった。

図 2 2 - 2 「ピクニックタウン多摩区」のロゴマークの認知状況（性別・性年代別）

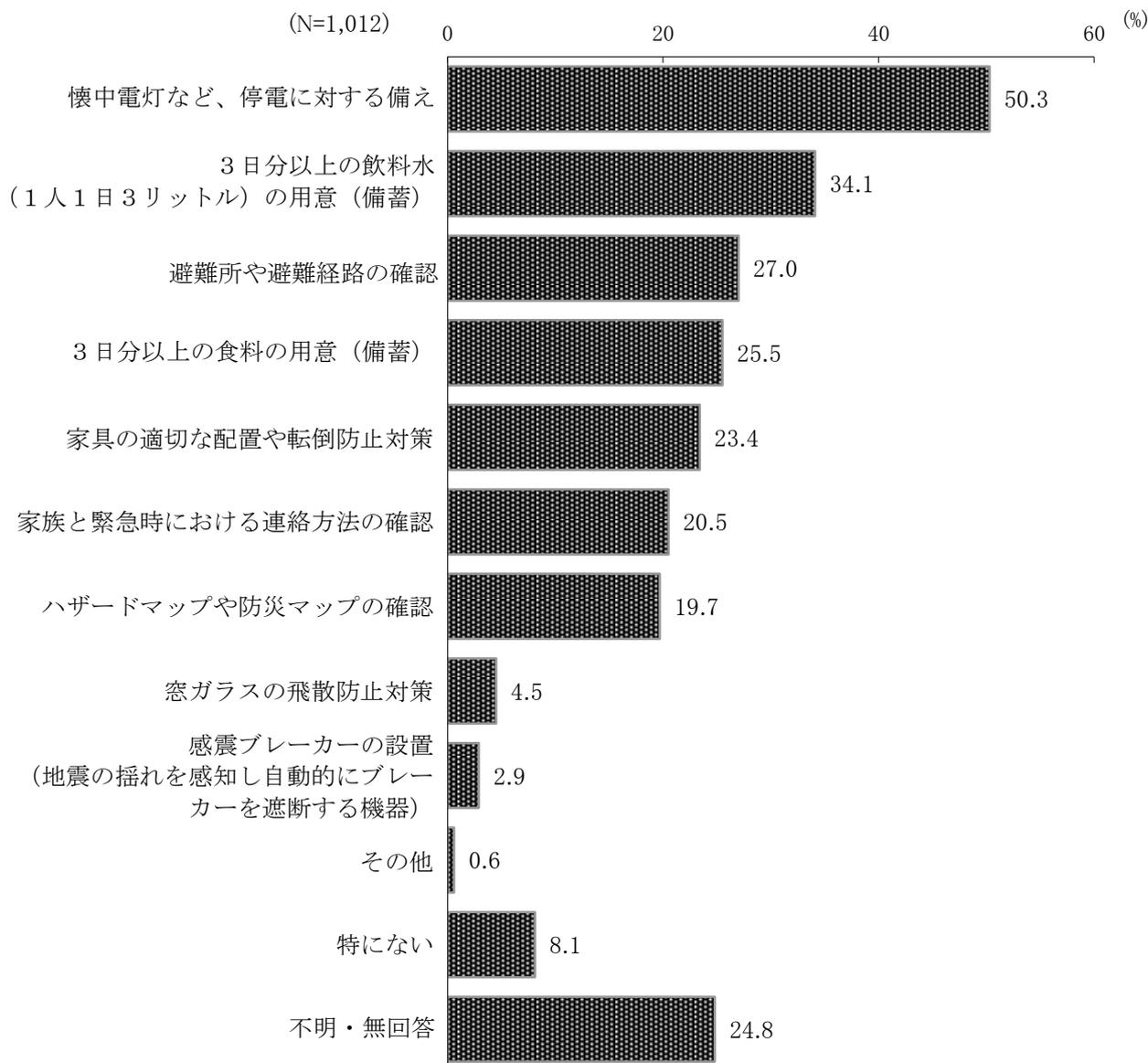


性年代別で見ると、「見たことあり、なんのマークか知っている」と「見たことはあるが、何のマークか知らない」を合わせた『見たことがある計』は、各性年代での大きな差はみられなかった。

23. 大規模な災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組

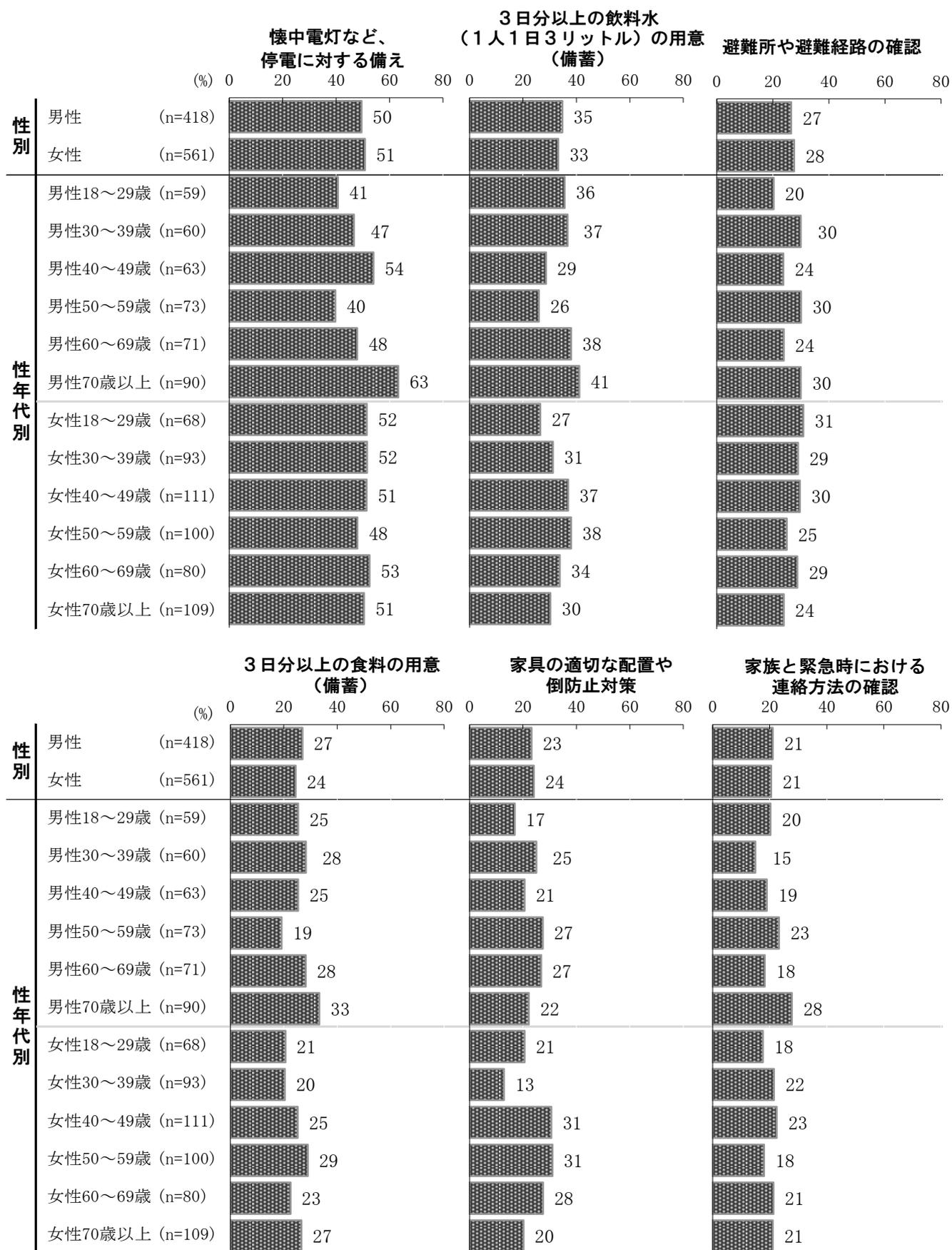
問15 大地震などの大規模な災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

図 23-1 大規模な災害に備えるため、家庭内で行っている取組



「大規模な災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組」について聞いたところ、「懐中電灯など、停電に対する備え」(50.3%)で最も高く、次いで「3日以上の飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)」(34.1%)、「避難所や避難経路の確認」(27.0%)の順となった。

図 23-2 大規模な災害に備えるため、家庭内で行っている取組
 <上位6項目> (性別・性年代別)

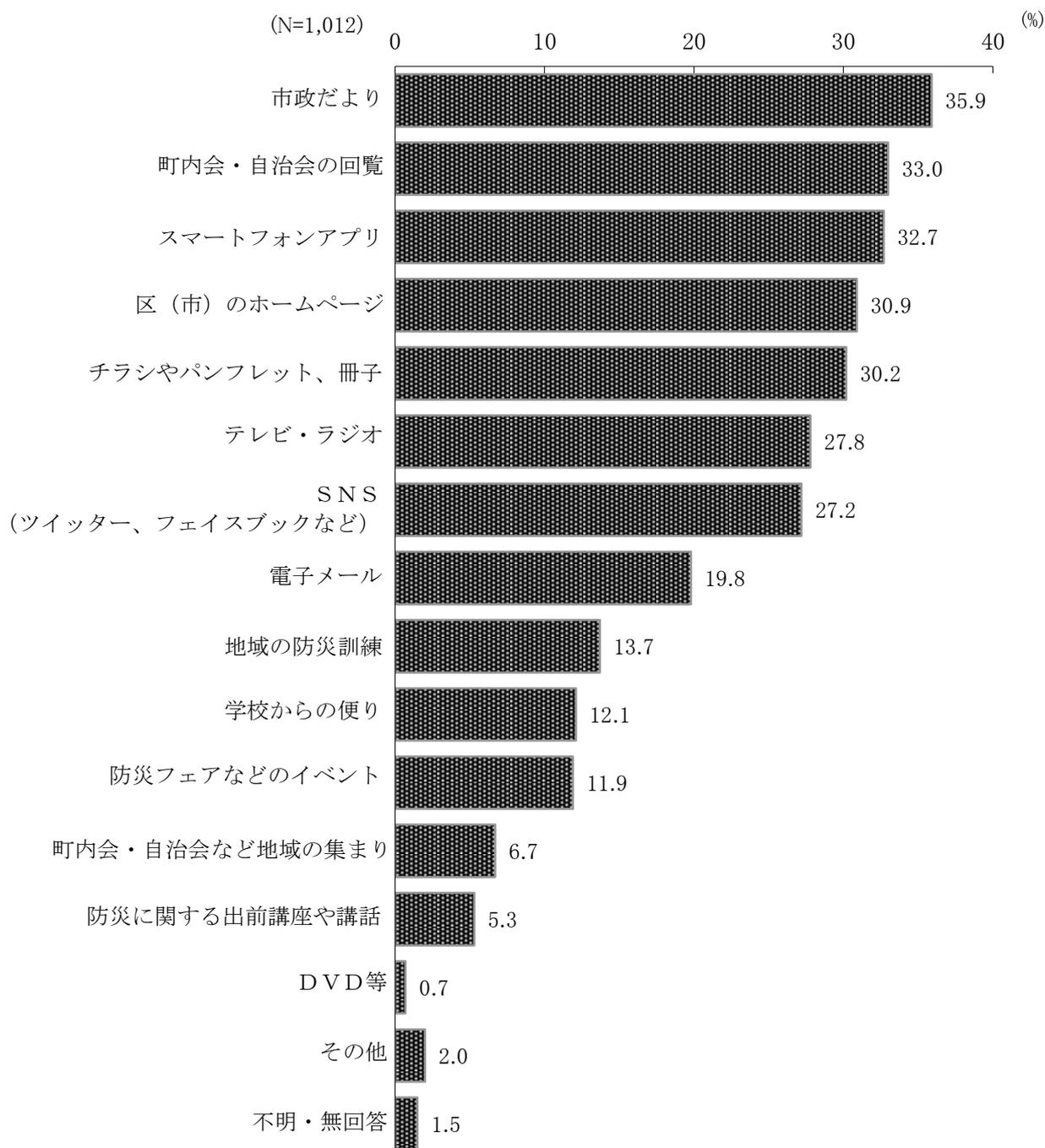


性年代別で見ると、「懐中電灯など、停電に対する備え」、「3日以上の飲料水（1人1日3リットル）の用意（備蓄）」、「3日以上の食料の用意（備蓄）」、「家具と緊急時における連絡方法の確認」は、男性70歳以上が他の年代と比較して高い結果となった。

2.4. 災害に対する備えに関する情報の効果的な提供手段

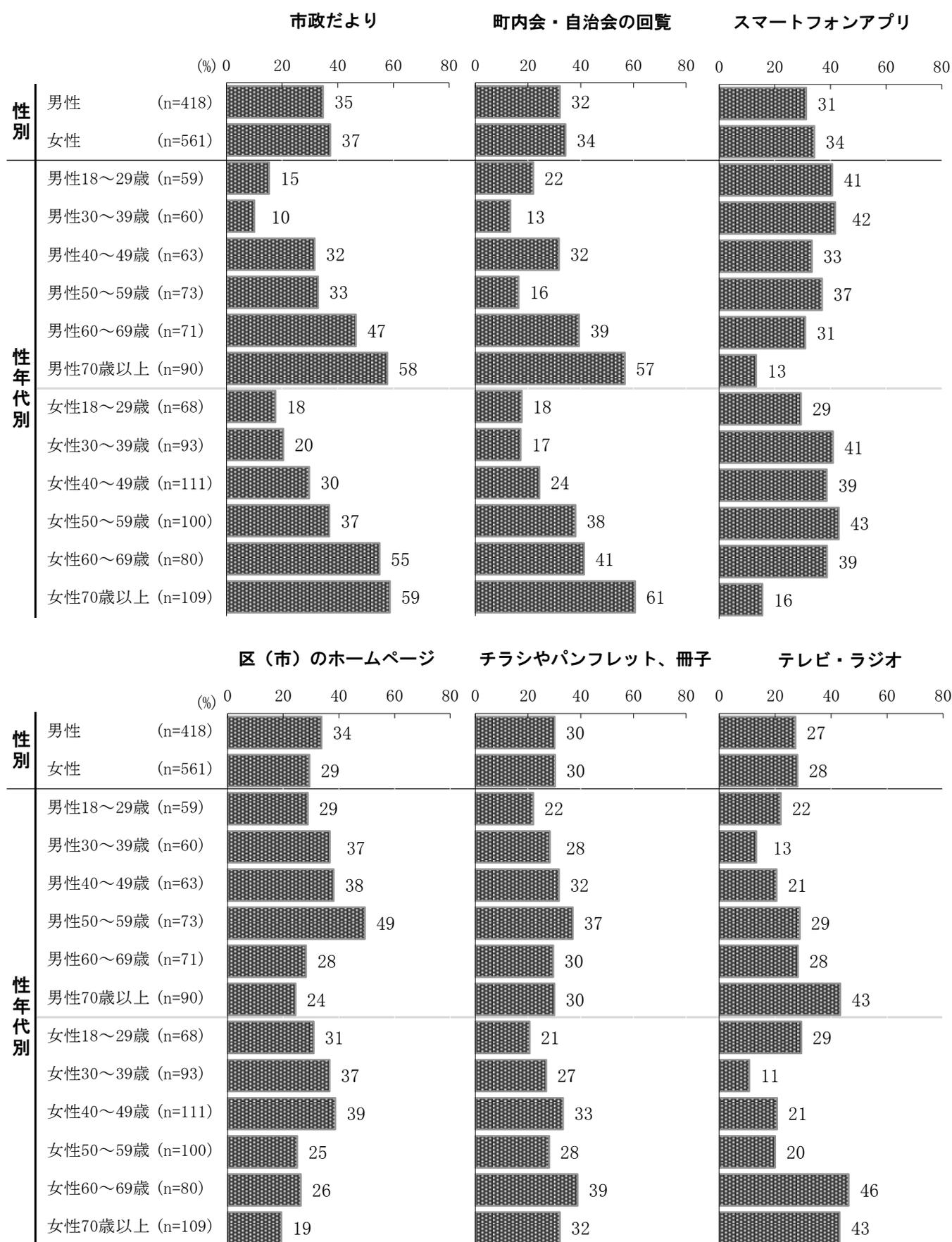
問16 災害に対する日頃からの備えに関する情報が何から提供されたら効果的と思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

図 24-1 災害に対する備えに関する情報の効果的な提供手段



「災害に対する備えに関する情報の効果的な提供手段」を聞いたところ、「市政だより」(35.9%)が最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧」(33.0%)、「スマートフォンアプリ」(32.7%)の順となっている。

図 24-2 災害に対する備えに関する情報の効果的な提供手段
 <上位6項目> (性別・性年代別)

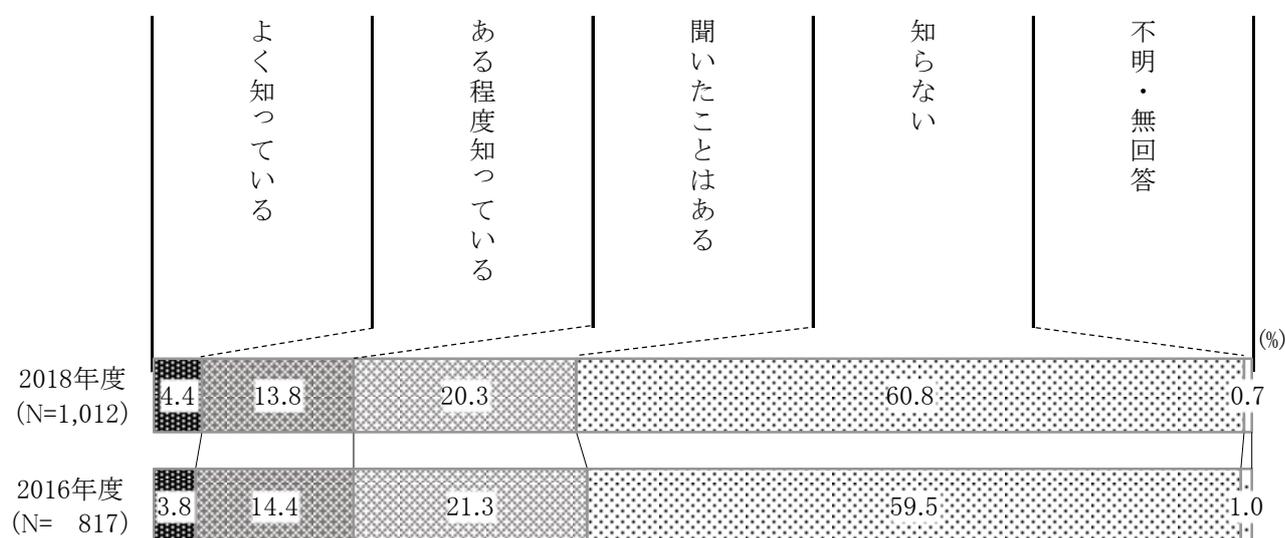


性年代別で見ると、「市政だより」は、男女ともに70歳以上が他の性年代と比べて高い結果となった。また、「町内会・自治会の回覧」も男女70歳以上で高い結果となった。

25. 「地域包括ケアシステム」の認知状況

問17 誰もが住み慣れた地域や場所で安心して暮らし続けるため、医療、看護、介護、福祉・生活支援が切れ目なく一体的に提供される仕組みと地域づくりの取組である「地域包括ケアシステム」を知っていますか。(○は1つだけ)

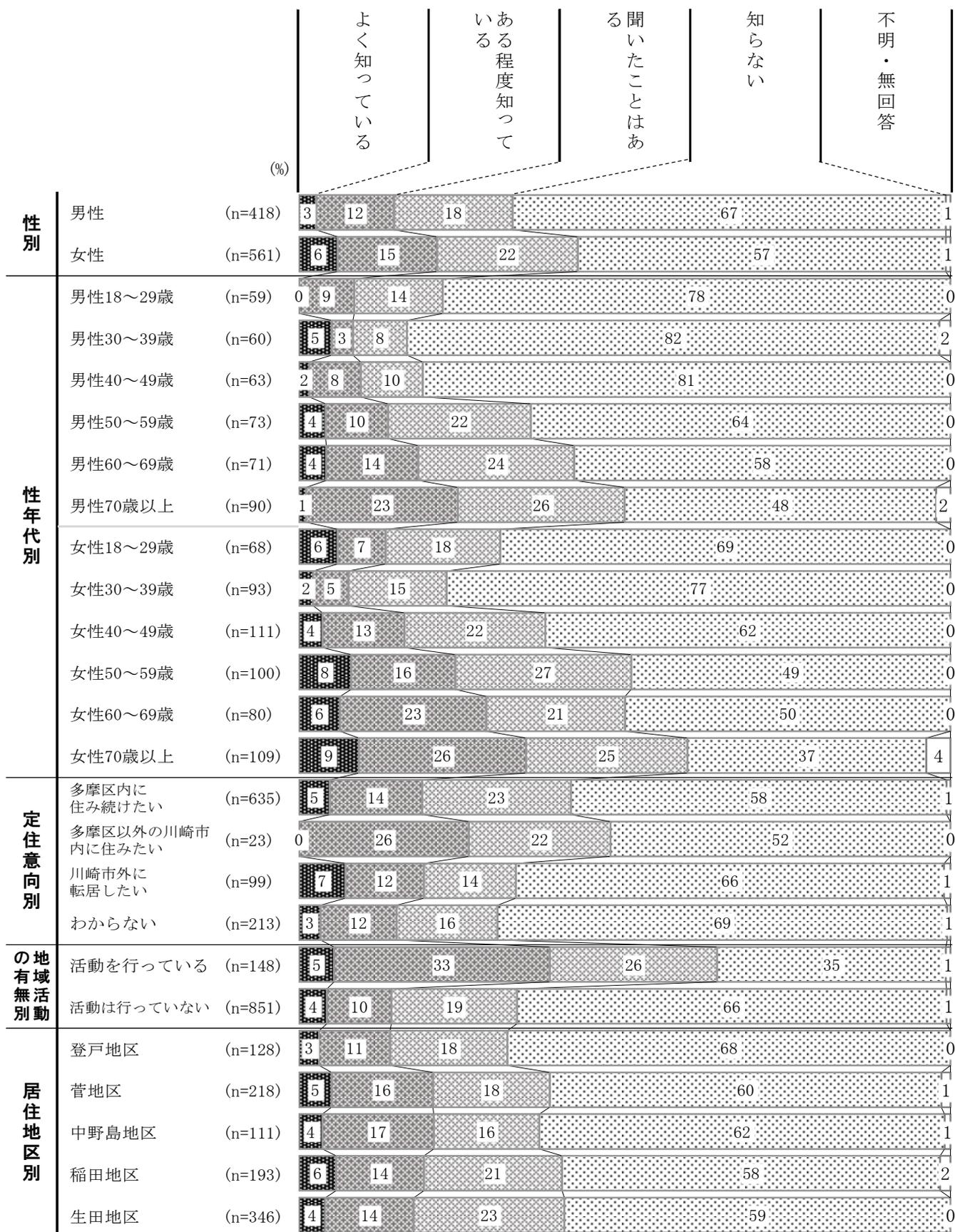
図 25-1 「地域包括ケアシステム」の認知状況



「地域包括ケアシステム」の認知状況について聞いたところ、「知らない」が60.8%と最も高い結果となった。次いで「聞いたことはある」(20.3%)、「ある程度知っている」(13.8%)、「よく知っている」(4.4%)の順となった。

「よく知っている」「ある程度知っている」「聞いたことはある」を合わせた『聞いたことがある計』(38.5%)は、2016年度と比較して大きな差は見られなかった。

図 25-2 「地域包括ケアシステム」の認知状況
 (性別・性年代別・定住意向別・地域活動の有無別・居住地区別)

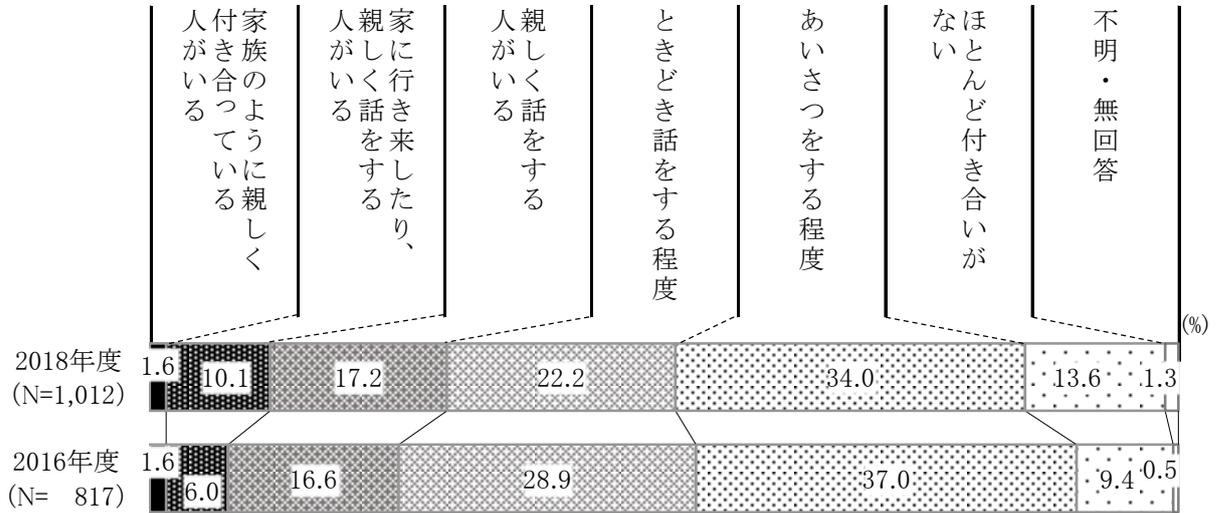


性年代別で見ると、『聞いたことがある計』は男女ともに70歳以上でほかの性年代と比べて高い結果となった。また地域活動の有無別で見ると、「活動を行っている」は「活動を行っていない」よりも30ポイント以上高い結果となった。

26. 近所付き合いの程度

問18 あなたの近所付き合いは以下のどれに当てはまりますか。(○は1つだけ)

図 26-1 近所付き合いの程度

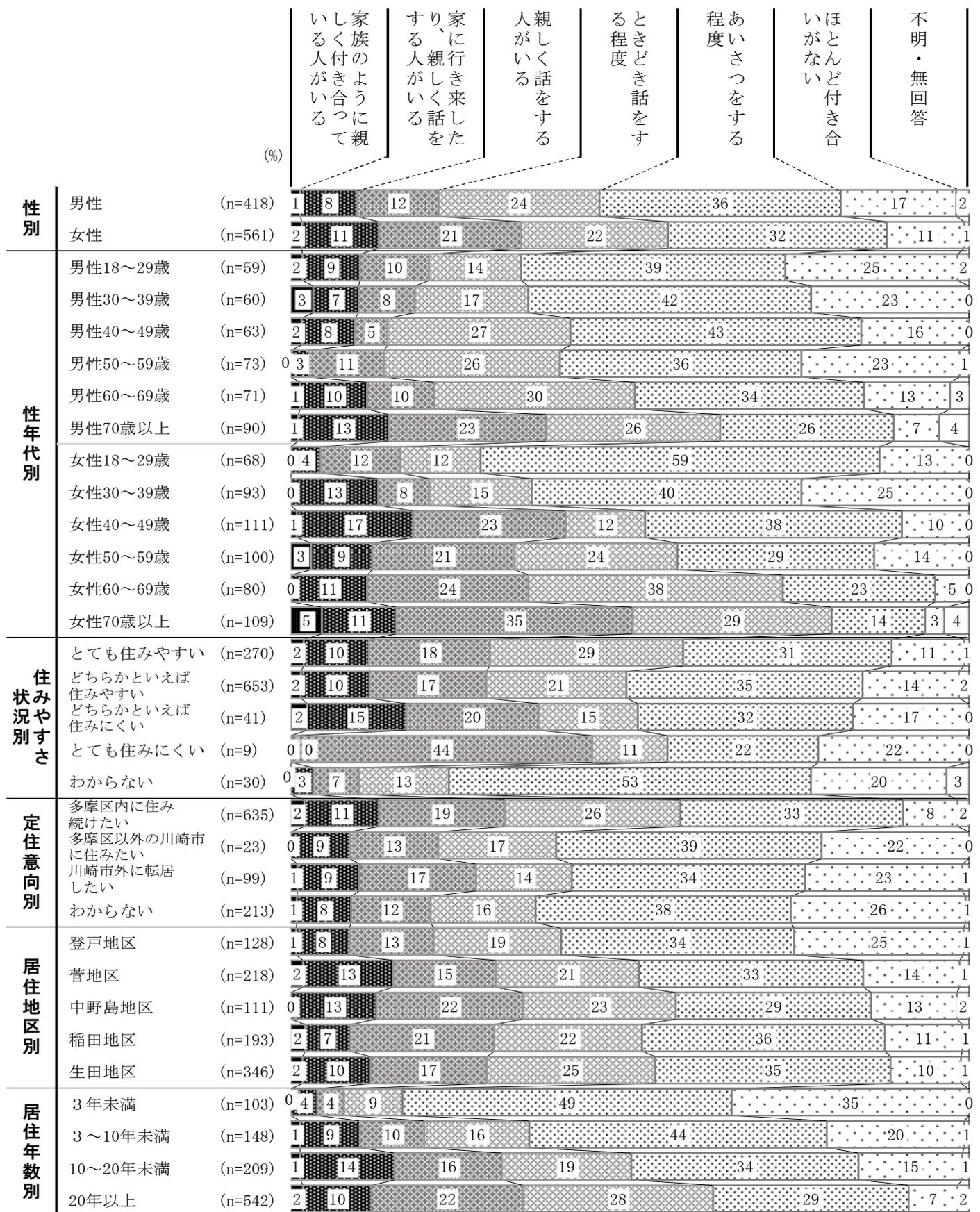


「近所付き合いの程度」について聞いたところ、「あいさつをする程度」(34.0%)が最も高く、次いで、「ときどき話をする程度」(22.2%)、「親しく話をする」(17.2%)の順となった。

2016年度と比較すると、「ときどき話をする程度」が6.7ポイント減少した。一方、「ほとんど付き合いがない」は4.2ポイント増加する結果となった。

「家族のように親しく付き合っている人がいる」「家に行き来したり、親しく話をする人がいる」「親しく話をする人がいる」を合わせた『親しく話をする人がいる計』は、4ポイント上昇する結果となった。

図 26-2 近所付き合いの程度
(性別・性年代別・住みやすさ状況別・定住意向別・居住地区別・居住年数別)

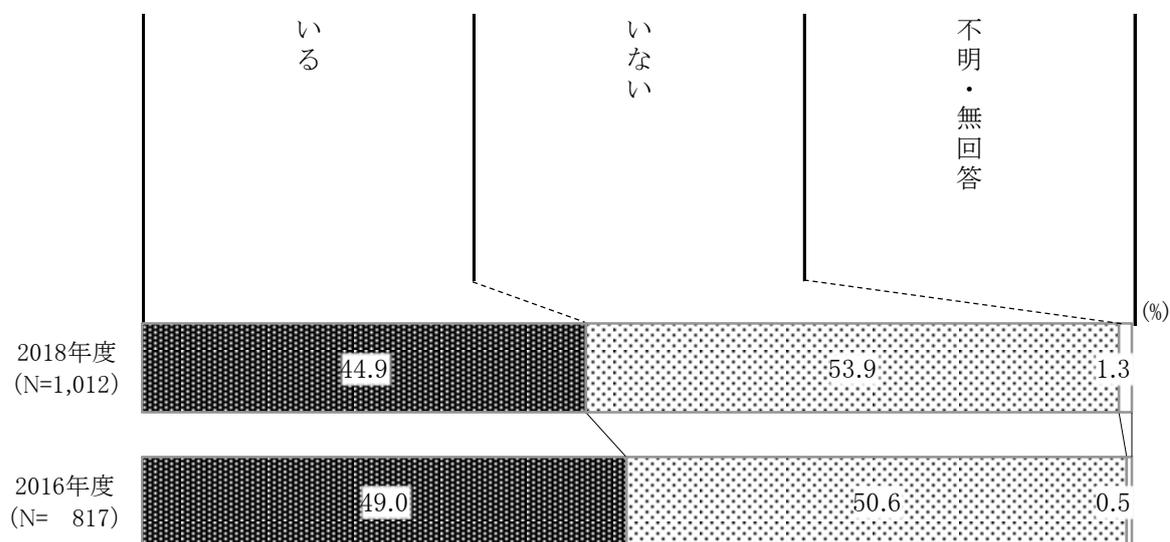


性年代別で見ると、『親しく話をする人がいる計』は、男女ともに70歳以上で他の年代と比較して高い結果となった。

27. 近所に手助けを頼める人の有無

問19 困ったとき、近所にちょっとした手助けを頼める人はいませんか。(○は1つだけ)

図 27-1 近所に手助けを頼める人の有無

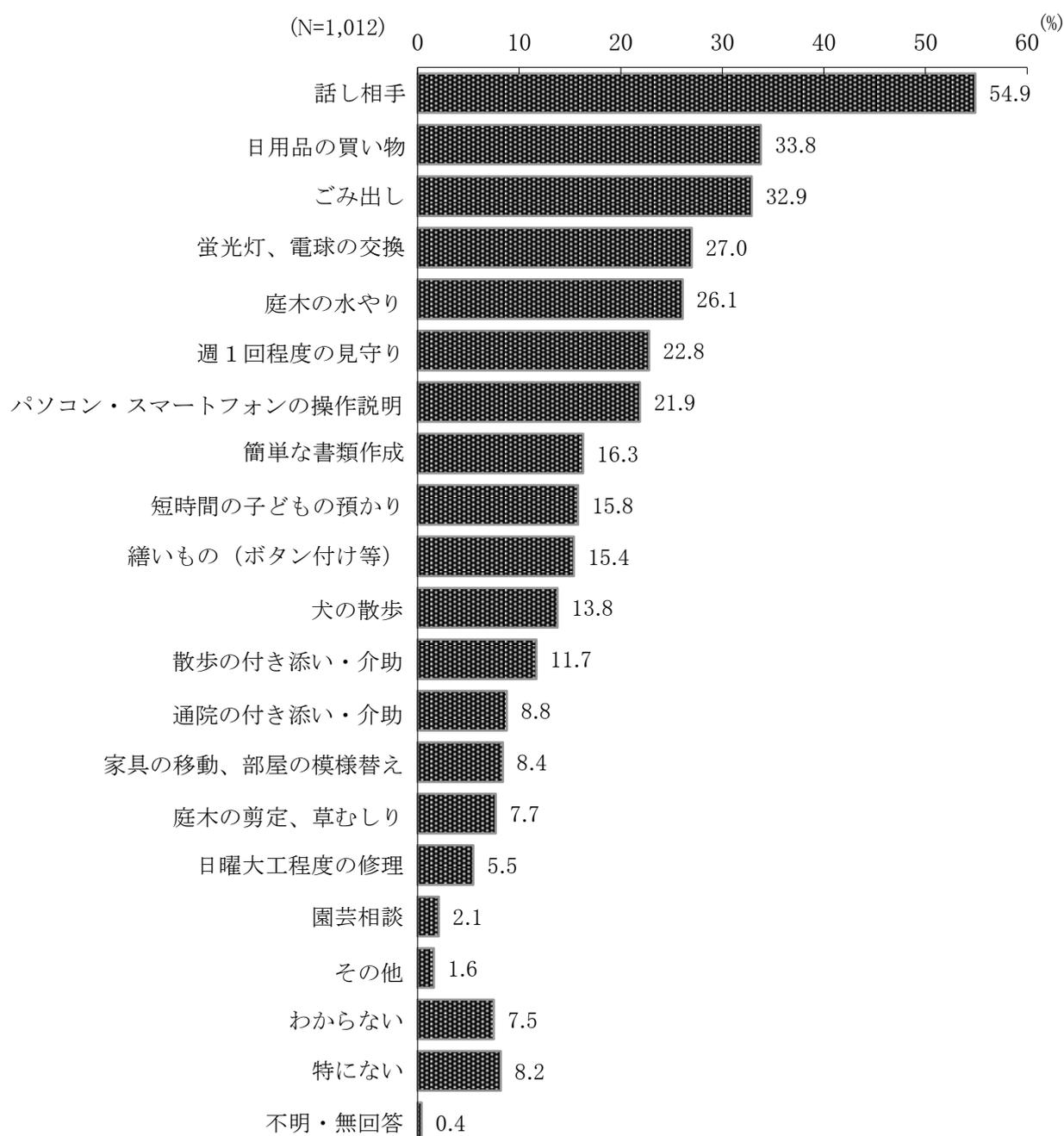


「近所に手助けを頼める人の有無」について聞いたところ、「いない」が53.9%、「いる」が44.9%となった。2016年度と比較して、「いる」は4.1ポイント減少した。一方、「いない」は3.3ポイント増加する結果となった。

28. 手助けを頼まれた場合に自分にもできると思うこと

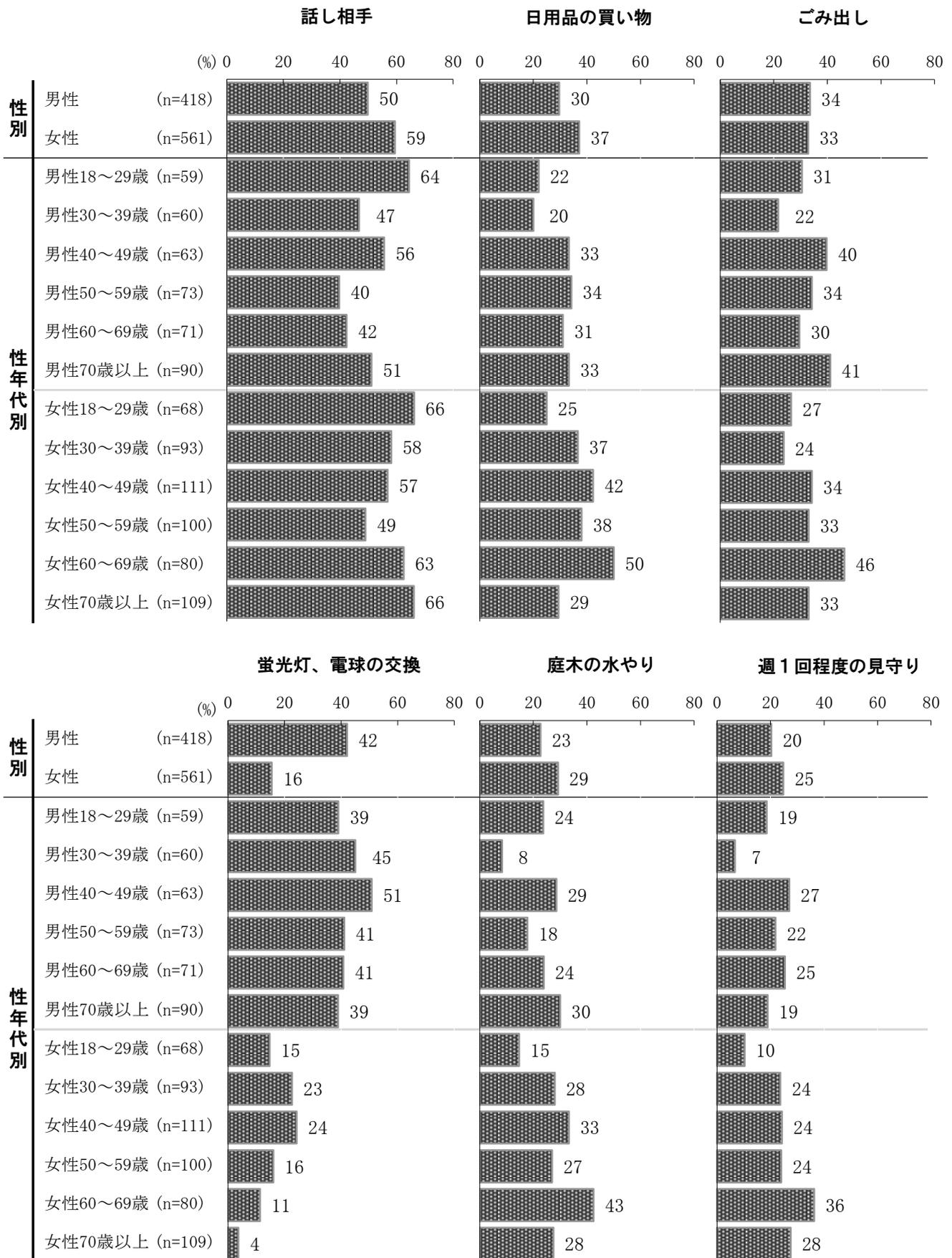
問20 近所の人にちょっとした手助けを頼まれた場合に、自分にもできると思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

図 28-1 手助けを頼まれた場合に自分にもできると思うこと



「手助けを頼まれた場合に自分でもできると思うこと」について聞いてみたところ、「話し相手」(54.9%)が最も高く、次いで「日用品の買い物」(33.8%)、「ごみ出し」(32.9%)の順となった。

図 28-2 手助けを頼まれた場合に自分ができると思うこと
 <上位6項目> (性別・性年代別)

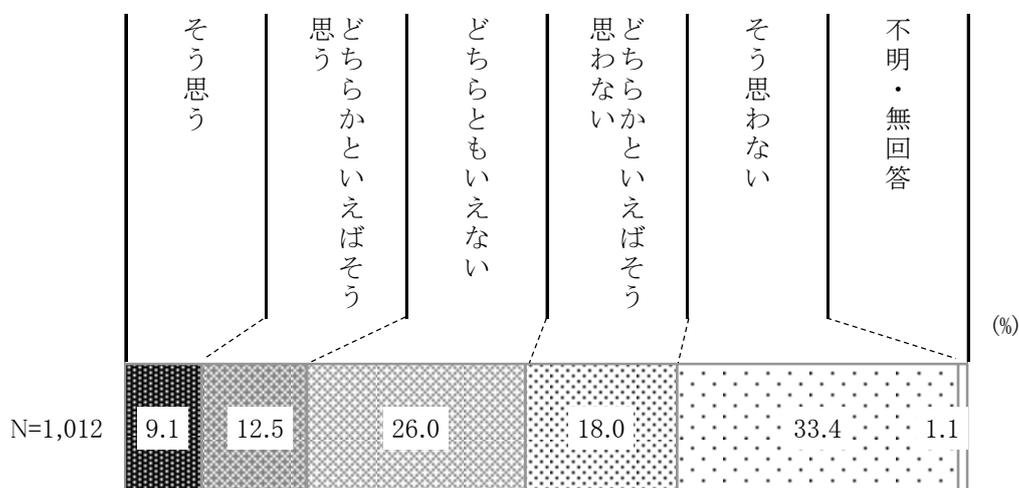


性別で見ると、「話し相手」は、男性よりも女性の方が9ポイント高く、性年代別で見ると男女18~29歳と女性60歳代以上で60%を超えて高くなった。また「日用品の買い物」は、女性60~69歳で50%と高い結果となった。

29. 自分と背景が異なる人との付き合いの状況

問21 日頃の生活で自分と背景が異なる人（世代、暮らしぶりなど）との付き合いが多いですか。
 (○は1つだけ)

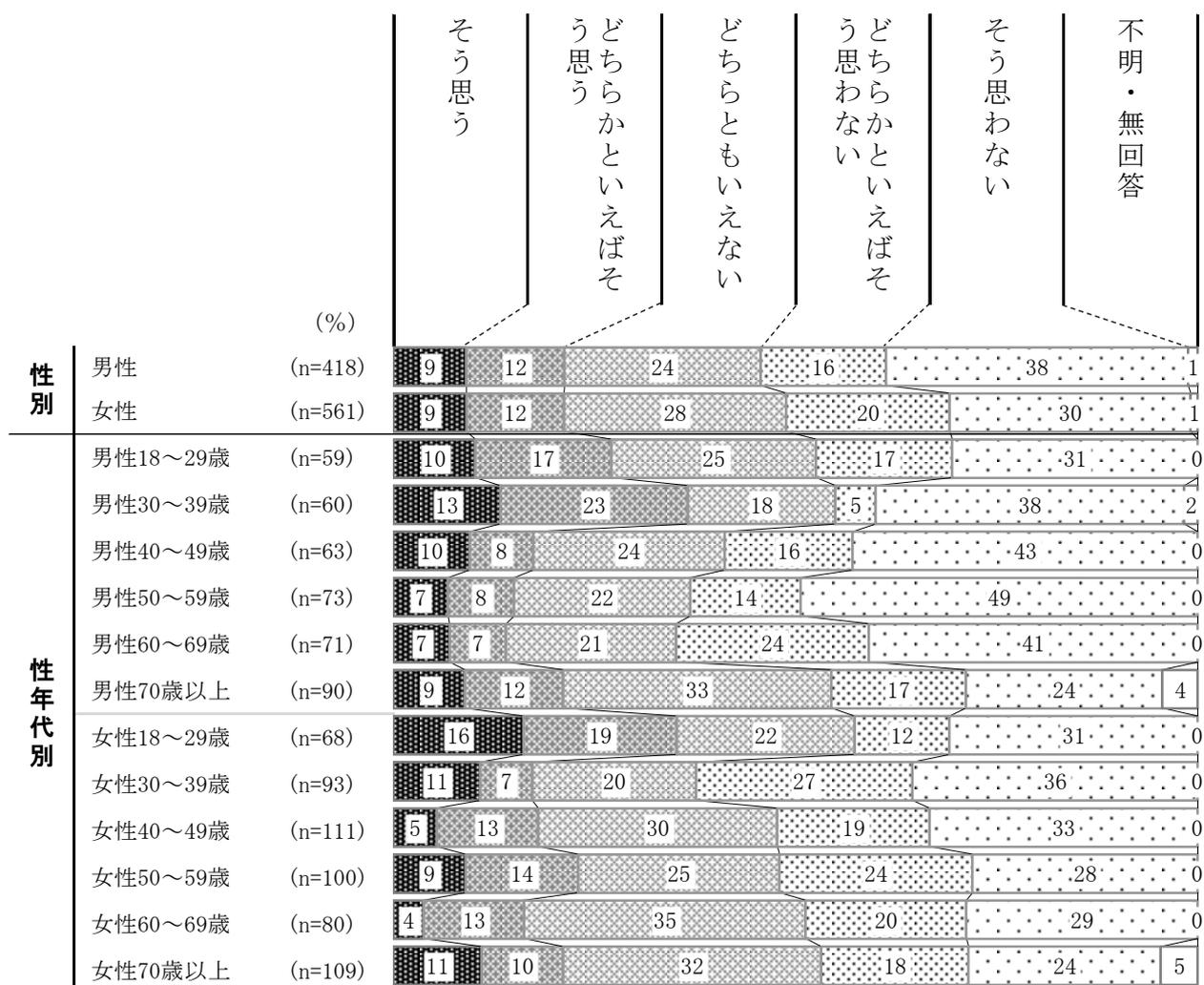
図 29-1 自分と背景が異なる人との付き合いの状況



「自分と背景が異なる人との付き合いの状況」について聞いたところ、「そう思わない」(33.4%)が最も高く、次いで、「どちらともいえない」(26.0%)、「どちらかといえばそう思わない」(18.0%)の順となった。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う計』は、21.6%となった。一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない計』は51.4%と半数を超える高い結果となった。

図 29-2 自分と背景が異なる人との付き合いの状況
(性別・性年代別)

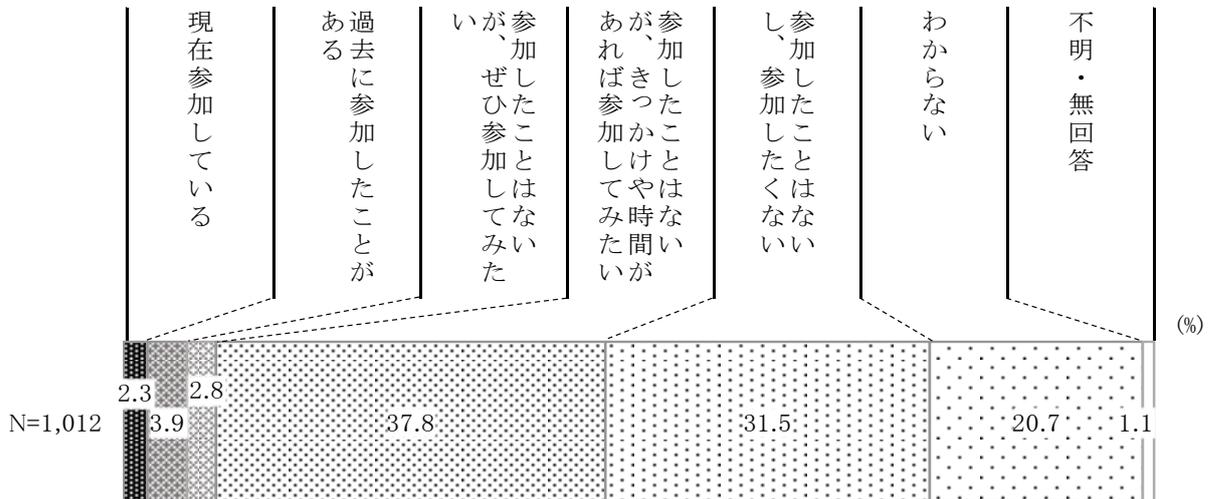


性年代別で見ると、『そう思う計』は、男性30~39歳、女性18~29歳で最も割合が高くなった。一方、『そう思わない計』は、男性50~69歳、女性30~39歳で60%を超え、他の性年代と比べて高い結果となった。

30. 地域の健康づくり活動への参加経験と参加意向

問22 多摩区では、健康づくりや仲間づくりを目的に、身近な地域で「みんなの公園体操」・「いきいき体操」・「健康ウオーク」などの活動が行われています。これらの活動に参加したことがありますか、また参加したいとおもいますか。(〇は1つだけ)

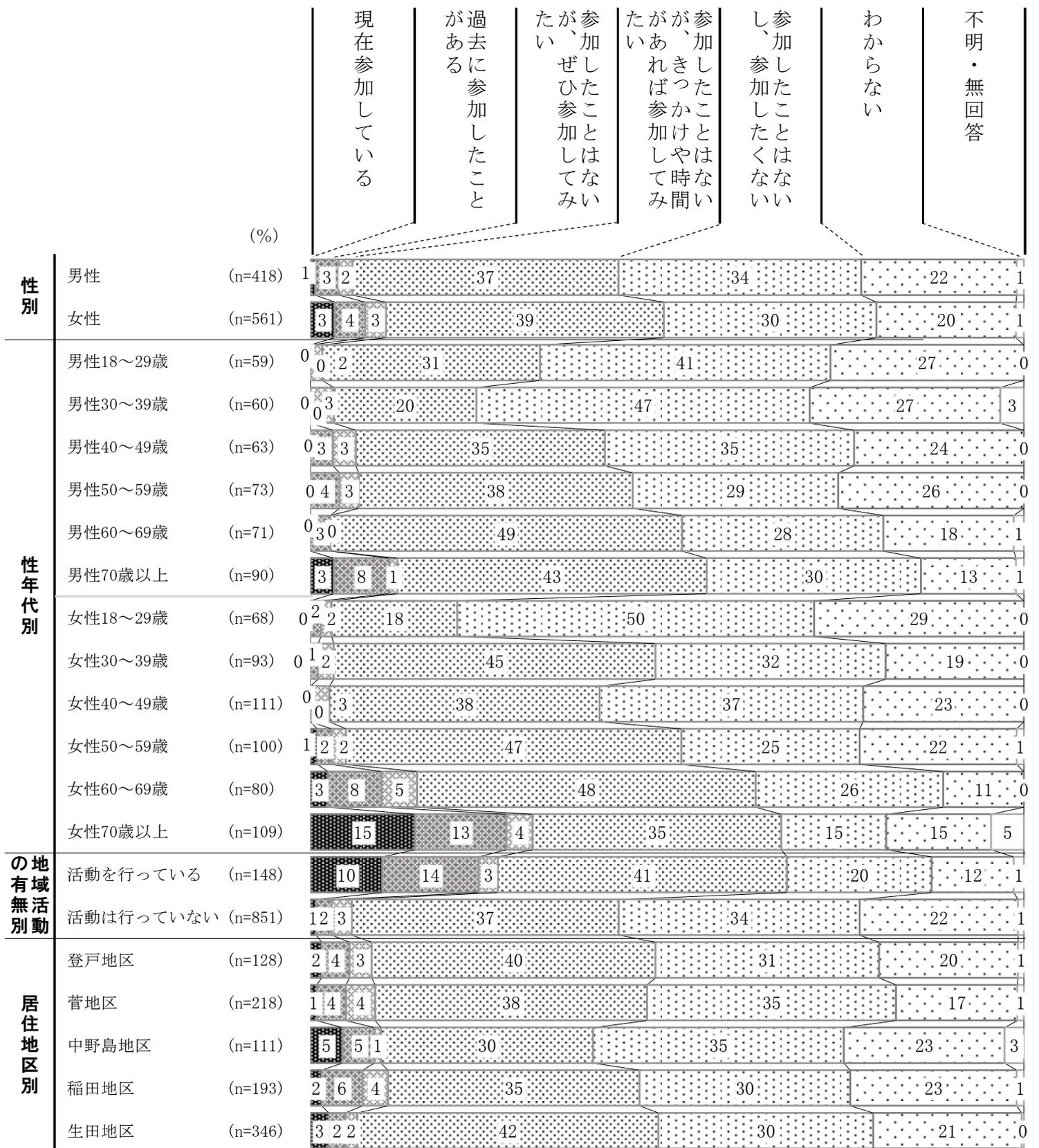
図 30-1 地域の健康づくり活動への参加経験と参加意向



「地域の健康づくり活動への参加経験と参加意向」について聞いたところ、「参加したことはないが、きっかけや時間があれば参加してみたい」(37.8%)が最も高く、次いで「参加したことはないし、参加したくない」(31.5%)、「わからない」(20.7%)の順となった。

「現在参加している」「過去に参加したことがある」を合わせた『参加したことがある計』は6.2%だった。一方、「参加したことはないが、ぜひ参加してみたい」「参加したことはないが、きっかけや時間があれば参加してみたい」を合わせた『参加したい計』は40.6%となった。

図 30-2 地域の健康づくり活動への参加経験と参加意向
(性別・性年代別・地域活動の有無別・居住地区別)

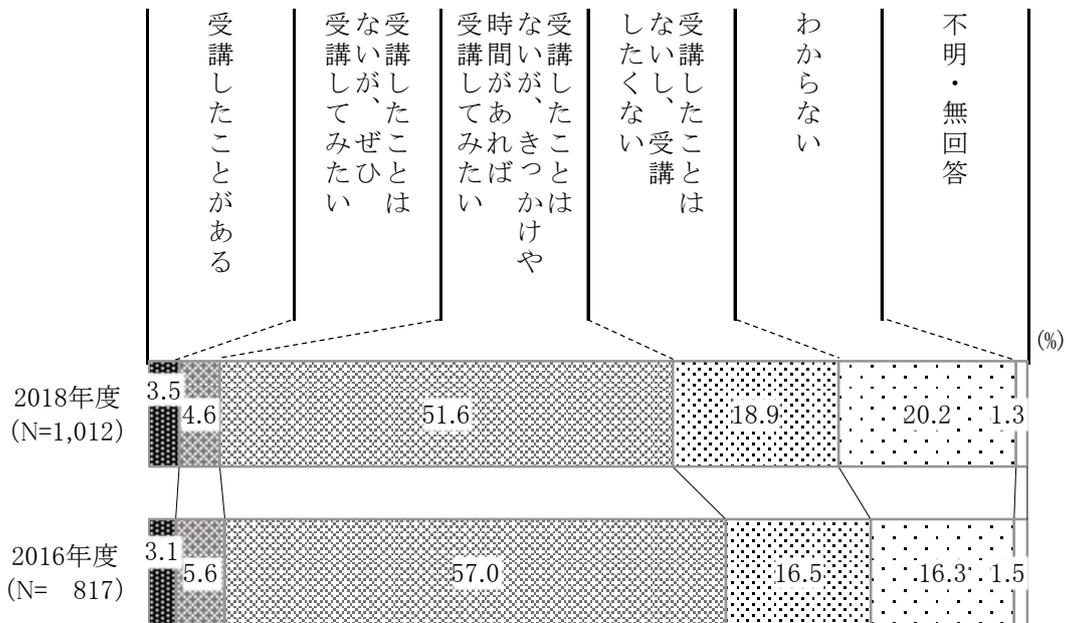


性年代別で見ると、『参加したことがある計』は、男女ともに70歳以上で高くなっている。また、『参加したい計』は、男女ともに60～69歳で高い結果となった。

3 1. 「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向

問23 多摩区役所では、認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を見守るために、認知症サポーター養成講座を行っています。この講座を受講したことがありますか。また、受講したいと思いませんか。(○は1つだけ)

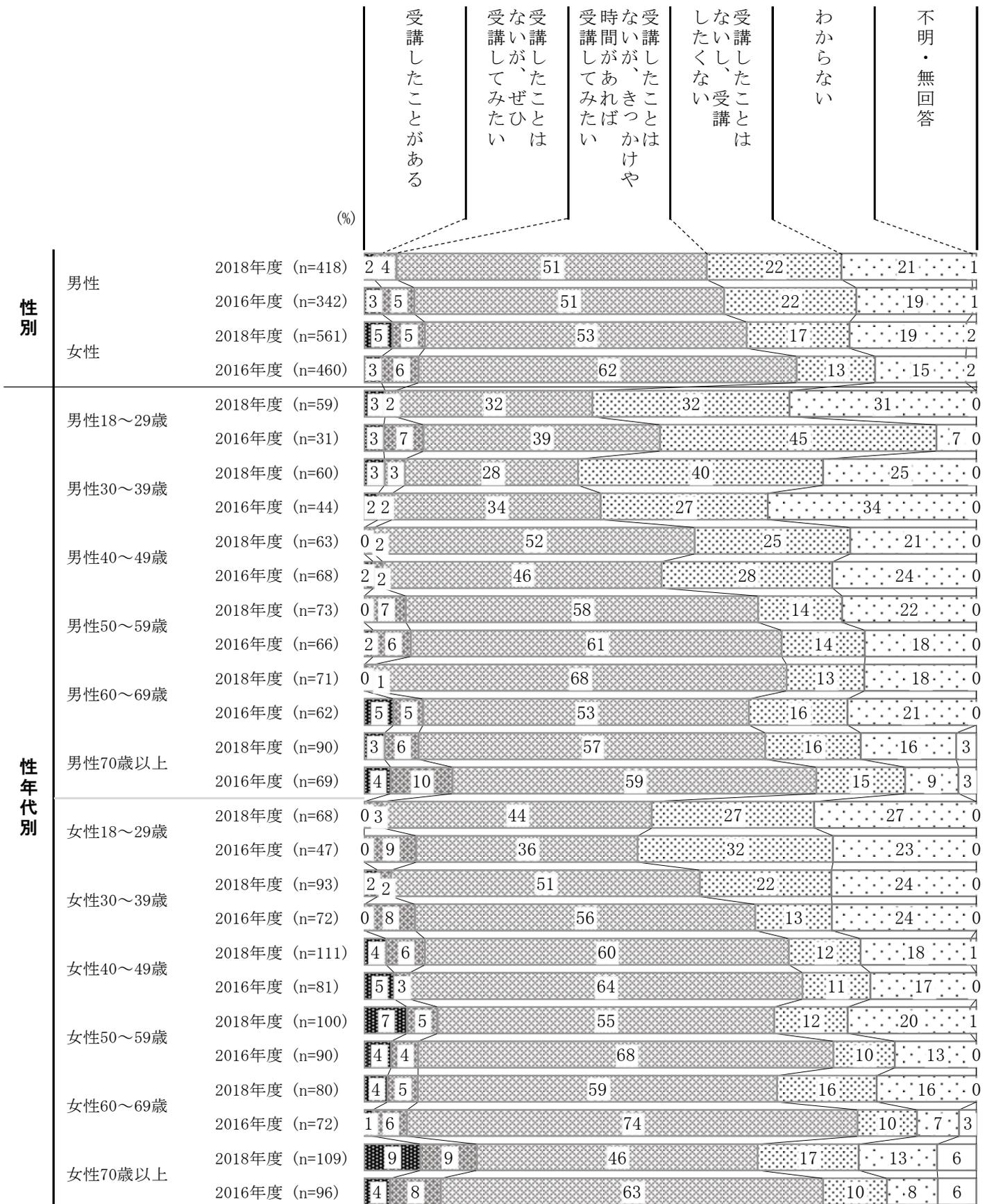
図 3 1 - 1 「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向



「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向について聞いたところ、「受講したことはないが、きっかけや時間があれば受講してみたい」(51.6%)が最も高く、次いで「わからない」(20.2%)、「受講したことはないし、受講したくない」(18.9%)の順となった。

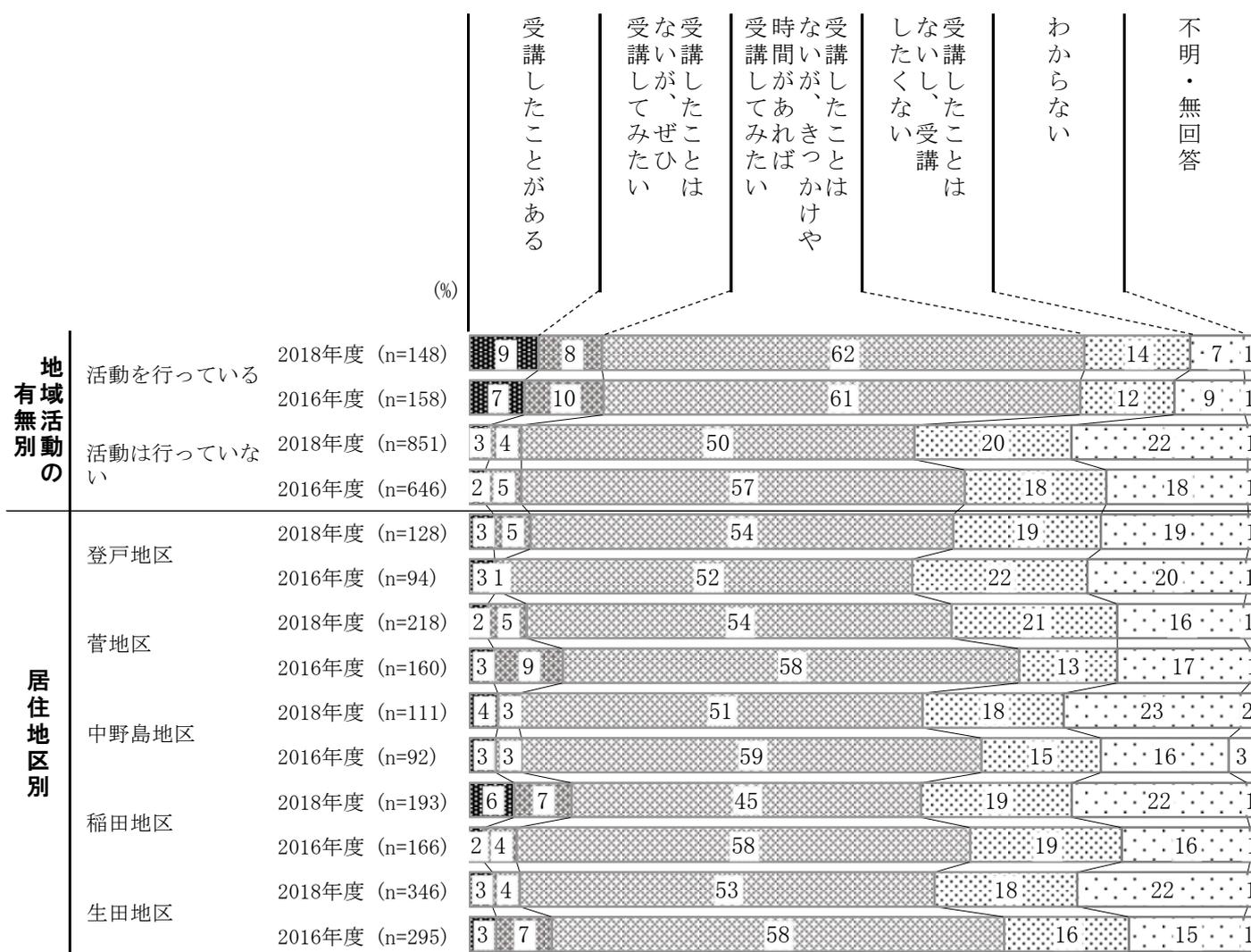
2016年度も、「受講したことはないが、きっかけや時間があれば受講してみたい」(57.0%)が最も多いが、比較すると5.4ポイント減少する結果となった。また、「受講したことはないが、ぜひ受講してみたい」「受講したことはないが、きっかけや時間があれば受講してみたい」を合わせた『受講したい計』を比較すると、6ポイント減少する結果となった。

図 31-2 「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向
(性別・性年代別)



性別で見ると、『受講したい計』は、男性よりも女性のほうが3ポイント高い結果となった。また2016年度と比較すると、女性は10ポイント減少する結果となった。

図 31-3 「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向
(地域活動の有無別・居住地区別)



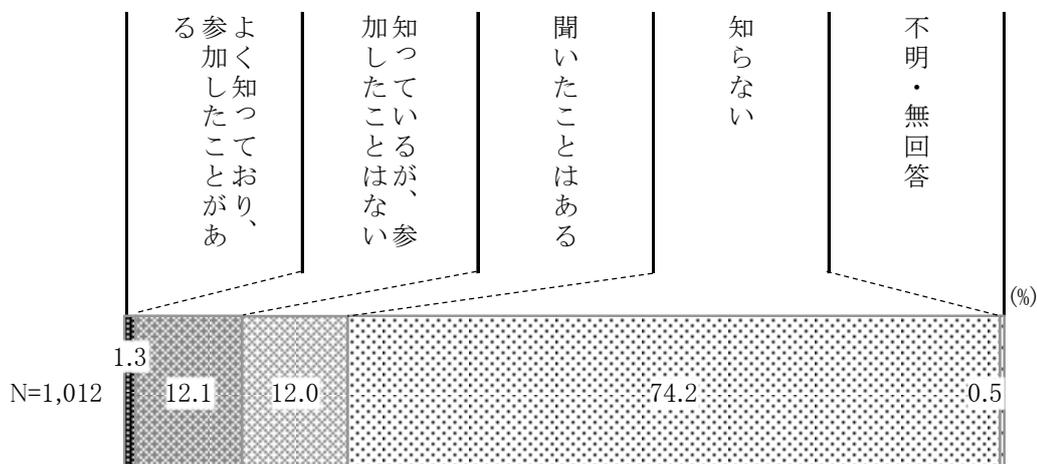
地域活動の有無別で見ると、『受講したい計』は、「地域活動を行っている」ほうが「活動を行っていない」よりも、16ポイント高くなっている。

また、居住地区別で見ると、『受講したい計』は、菅地区で2016年度よりも8ポイント減少している。

3 2. 認知症カフェやコミュニティカフェの認知度と参加経験

問24 地域で認知症カフェやコミュニティカフェが開催されていることを知っていますか。また、参加したことはありますか。(○は1つだけ)

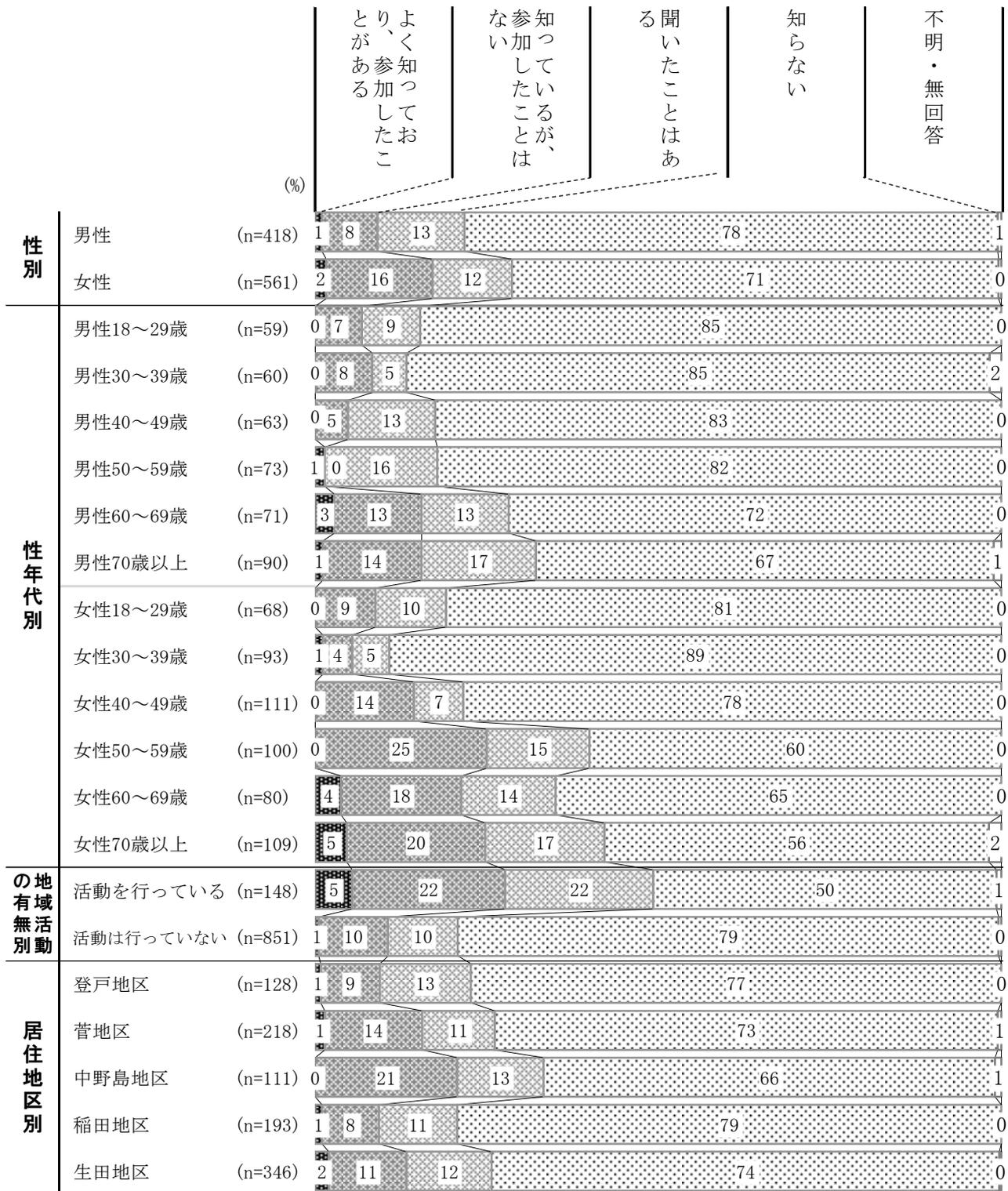
図 3 2 - 1 認知症カフェやコミュニティカフェの認知度と参加経験



「認知症カフェやコミュニティカフェ」の認知度と参加経験について聞いたところ、「知らない」(74.2%)が最も高く、次いで「知っているが、参加したことはない」(12.1%)「聞いたことはある」(12.0%)の順となった。

「よく知っており、参加したことがある」と「知っているが、参加したことはない」を合わせた『知っている計』は13.4%となった。

図 3 2 - 2 認知症カフェやコミュニティカフェの認知度と参加経験
(性別・性年代別・地域活動の有無別・居住地区別)

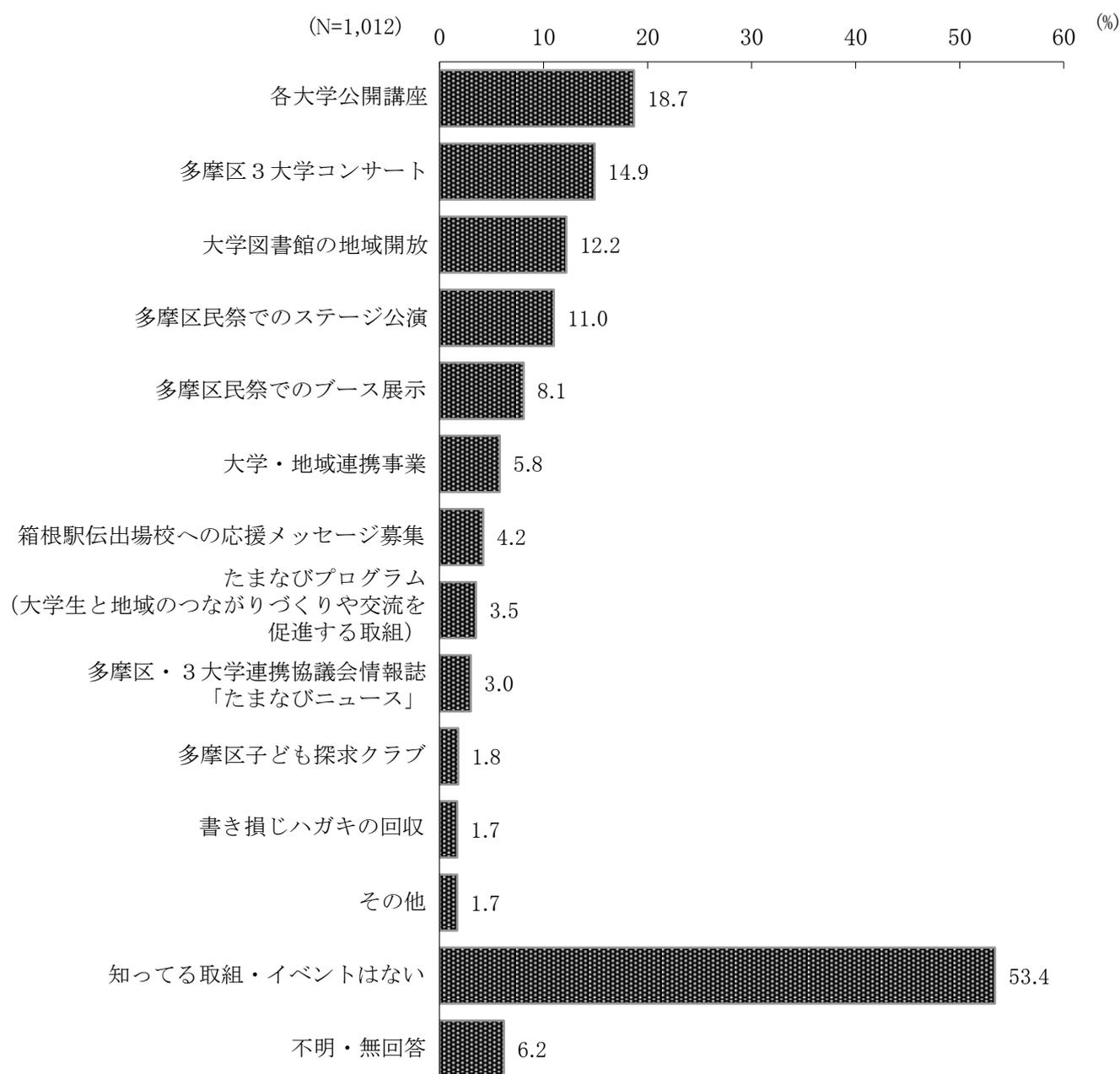


性別で見ると、『知っている計』は、男性よりも女性の方が8ポイント高い結果となった。また、性年代別で見ると、男性は60歳代以上で、女性では50歳代以上で他の性年代より高くなっている。

3.3. 知っている3大学関連イベント

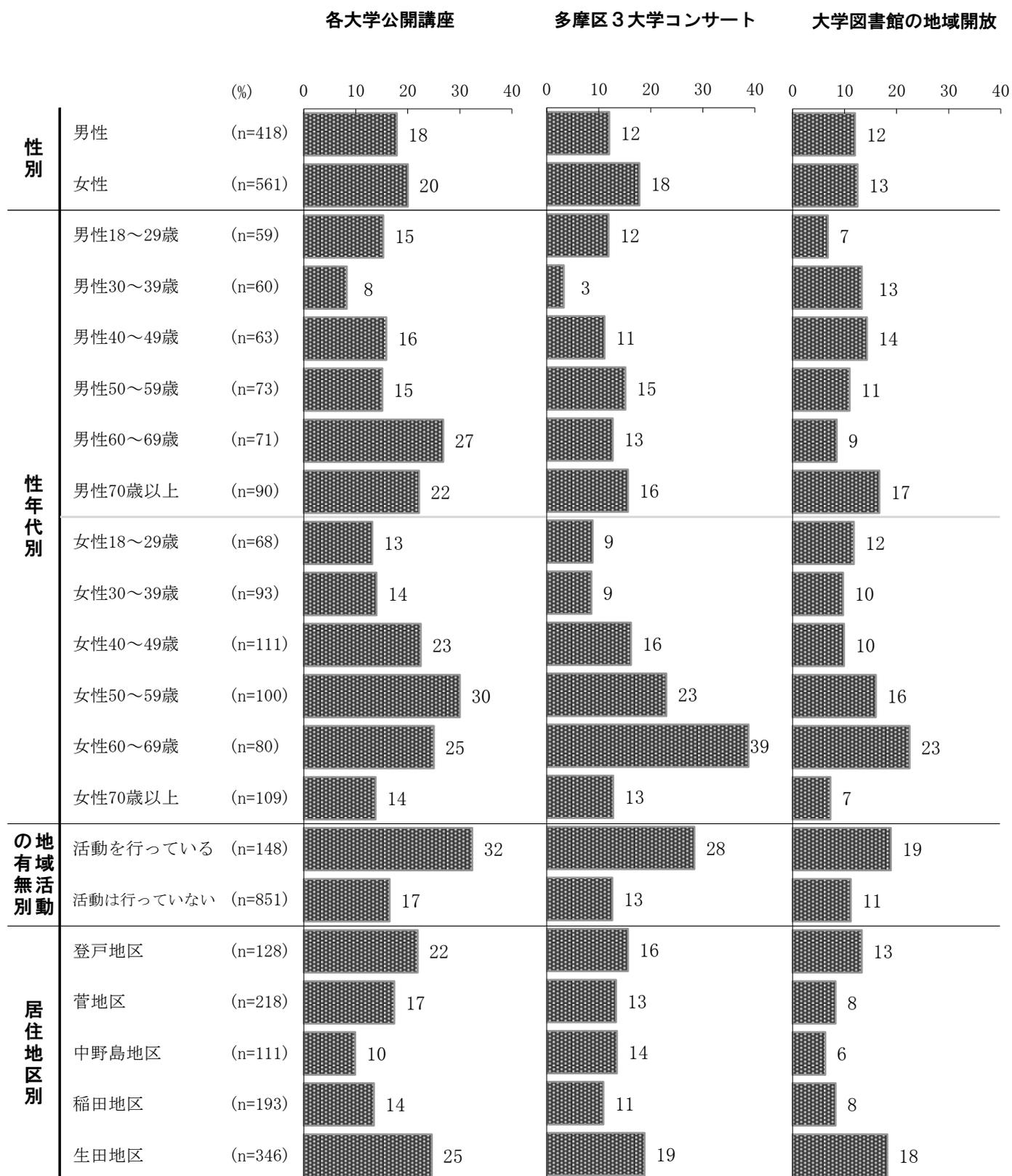
問25 多摩区には、専修、明治、日本女子の3つの大学が立地しています。これまで、さまざまな取組を通して、大学の持つ知的資源や多彩な人材を活用し、大学と地域社会との交流連携を深めてきました。あなたが知っている大学・大学生が関連したイベントや取組などがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

図 3.3-1 知っている3大学関連イベント



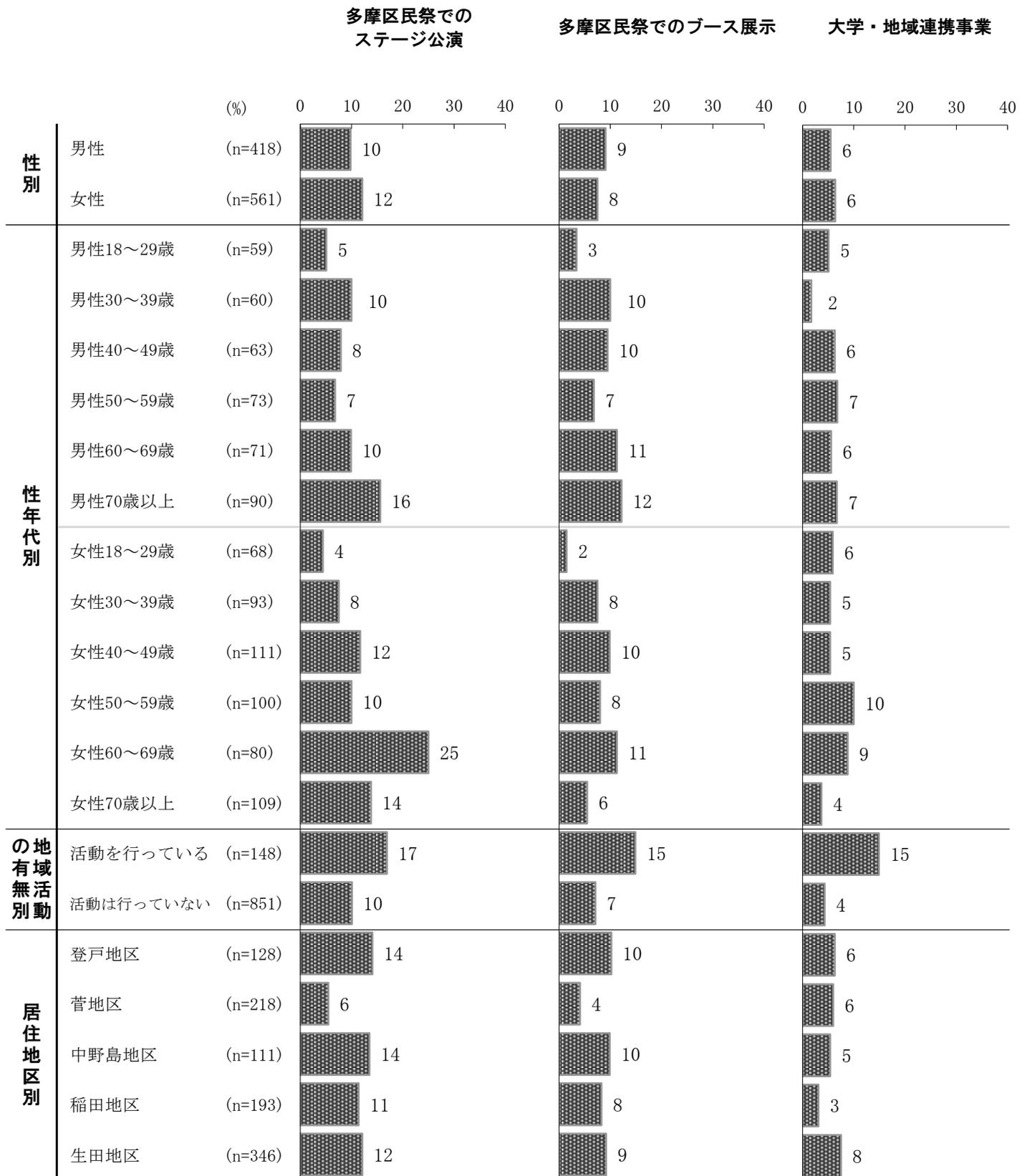
「知っている3大学関連イベント」について聞いたところ、「知ってる取組・イベントはない」が53.4%と最も高い結果となった。次いで「各大学公開講座」(18.7%)、「多摩区3大学コンサート」(14.9%)、「大学図書館の地域開放」(12.2%)の順となった。

図 33-2 知っている3大学関連イベント①
 <上位6項目> (性別・性年代別・地域活動の有無別・居住地区別)



地域活動の有無別で見ると、「各大学公開講座」と「多摩区3大学コンサート」は、「活動を行っている」が「活動を行っていない」より15ポイント高い結果となった。また、居住地区別で見ると、「各大学公開講座」は、生田地区と登戸地区が他地区よりも高い結果となった

図 33-3 知っている3大学関連イベント②
 <上位6項目> (性別・性年代別・地域活動の有無別・居住地区別)



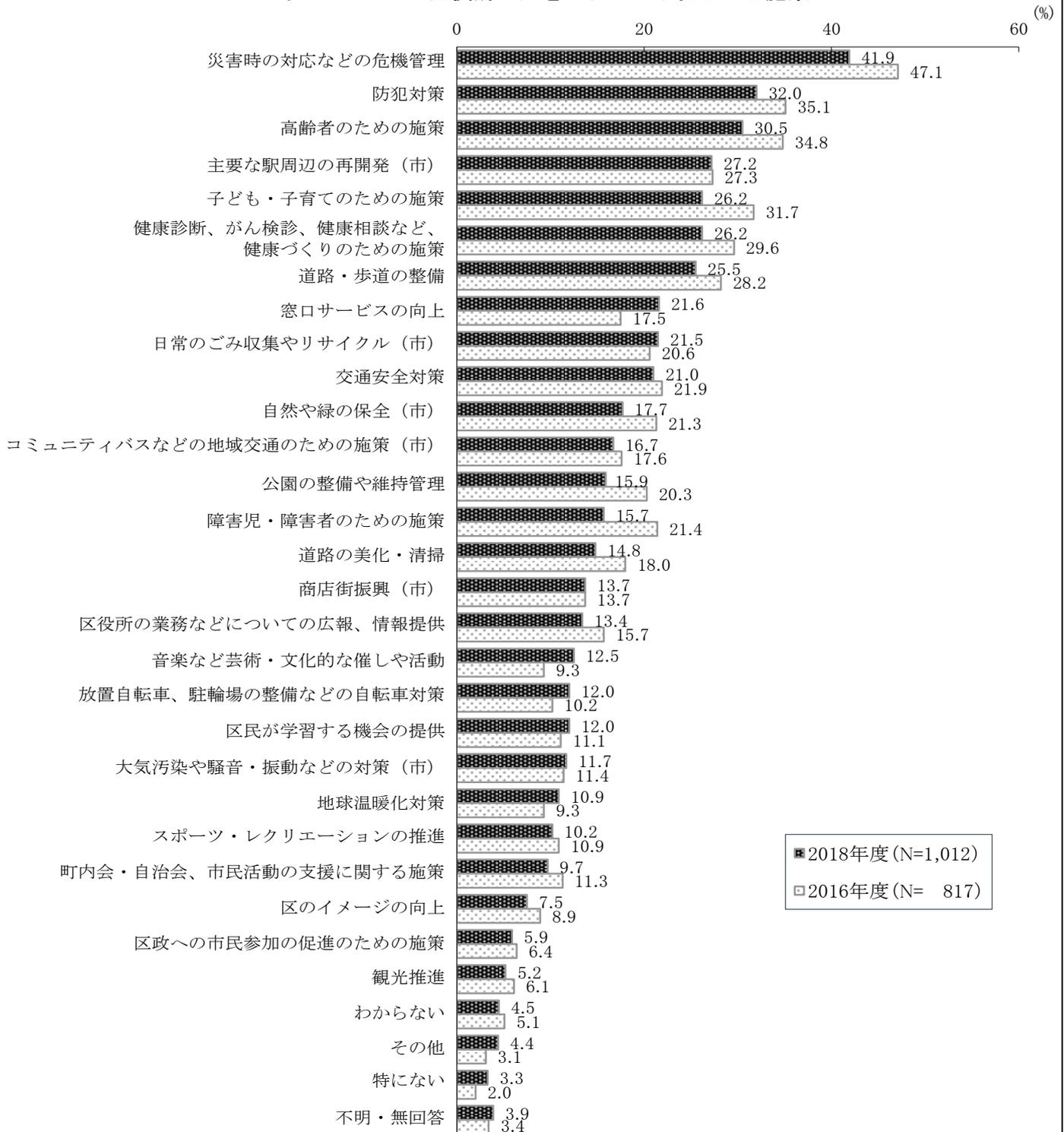
性年代別で見ると、「多摩区民祭でのステージ公演」は、女性60～69歳がほかの性年代に比べて高い結果となった。また、地域活動の有無別に見ると、「活動を行っている」は「活動は行っていない」より7ポイント高い結果となった。

3 4. 区役所が力をいれて取り組むべき施策

問26 川崎市では、地域の課題はできるだけ身近な区役所で解決することができるよう、区役所改革を推進しています。区民に身近な区役所が速やかに力を入れて取り組むべき施策は何であると考えますか。(あてはまるものすべてに○)

※項目の後ろに(市)とあるものは、現時点で主に市役所を中心として進めているもの

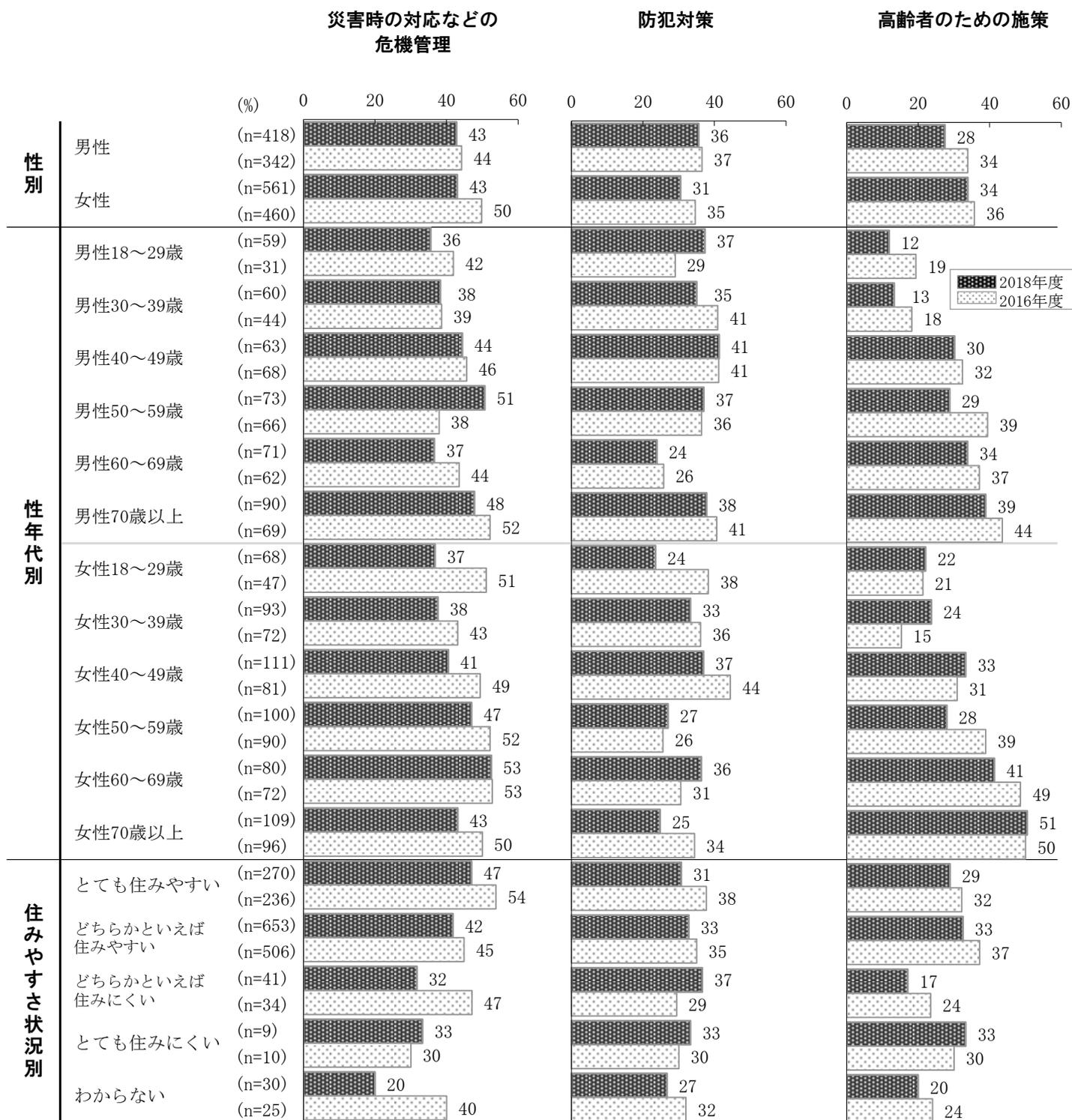
図 3 4 - 1 区役所が力をいれて取り組むべき施策



「区役所が力をいれて取り組むべき施策」について聞いたところ、「災害時の対応などの危機管理」(41.9%)が最も高い結果となり、次いで「防犯対策」(32.0%)、「高齢者のための施策」(30.5%)の順となった。

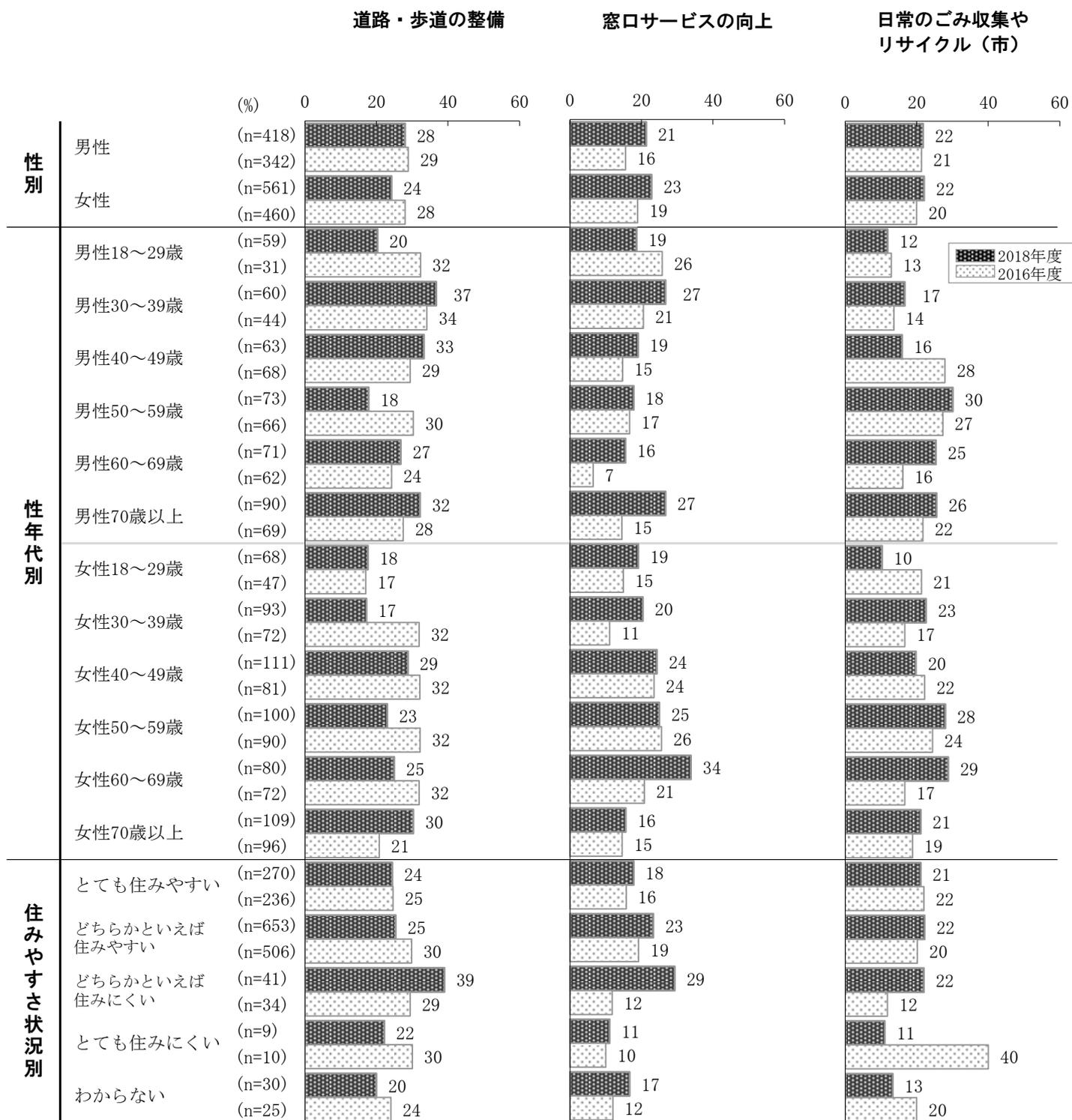
2016年度から上位3項目の順位は変わらず、引き続き高い結果となった。

図 34-2 区役所が力をいれて取り組むべき施策①
 <上位9項目> (性別・性年代別・住みやすさ状況別)



性年代別で見ると、「災害時の対応などの危機管理」は、男性50～59歳と女性60～69歳で半数以上となり高い結果となった。「防犯対策」は、男性18～29歳と40～59歳、女性40～49歳と60～69歳で高い結果となった。「高齢者のための施策」は、男女ともに年代が上がるにつれておおむね高くなる傾向があり、特に女性70歳以上で50%を超える結果となった。

図 34-4 区役所が力をいれて取り組むべき施策③
 <上位9項目> (性別・性年代別・住みやすさ状況別)



住みやすさ状況別で見ると、「道路・歩道の整備」は「どちらかといえば住みにくい」で最も高い結果となった。また、性年代別で見ると、「窓口サービスの向上」は、男性70歳以上、女性60～69歳でそれぞれ10ポイント以上上昇する結果となった。「日常のごみ収集やリサイクル(市)」は、男性50～59歳、女性50～69歳で高い結果となった。

IV. 調查票

多摩区区民意識アンケート調査への御協力について（お願い）

日頃から、多摩区の行政に御理解、御協力をいただき誠にありがとうございます。
多摩区役所では、区民の皆様が日頃多摩区について感じていることや、地域でのボランティア活動などに関する意識などについてお聞きし、今後の取組の基礎資料とすることを目的として、区民意識アンケートを実施しております。

今回の調査にあたり、調査対象者として、多摩区内にお住まいの2,000人の皆様を、満18歳以上の方から統計的な方法（外国人を含む住民基本台帳から無作為抽出）で選ばせていただきました。お忙しいところ恐れ入りますが、本調査の趣旨を御理解いただき、可能な限りで構いませんので御協力くださいますようお願いいたします。

- ◆ この調査は、行政上の基礎資料として活用します。他の目的に使用することは決してありません。
- ◆ この調査は無記名調査です。あなたのお名前や御住所を書いていただく必要はありません。
- ◆ この調査の結果は、すべてコンピューターで一括処理を行い、統計的な集計・分析だけに用いられれますので、個々のお答えの調査内容や皆様の個人情報や外部に漏れることは一切ありません。

- ◎あて名の御本人がアンケートにお答えください。
- ◎お答えは、当てはまる答えの番号を○で囲んでいただくか、番号を御記入いただけます。
○の数は、各問の指示に従ってください。「その他」に当てはまる場合は、（ ）内に具体的にその内容を御記入ください。
- ◎各問のお答えについては、あなたが日頃感じていることをありのままにお答えください。
- ◎御記入いただいたアンケートは、**11月28日（水）**までに同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、投函してください。
- ◎アンケートの結果は、多摩区のホームページなどでお知らせいたします。

平成30年10月

多摩区長 石本 孝弘

- ◆本調査について、御不明な点がありましたら、調査担当課までお問い合わせください。
なお、多摩区のホームページにもお知らせを掲載しています。

<http://www.city.kawasaki.jp/tama/>

調査担当課	多摩区役所まちづくり推進部企画課
T 214-8570	川崎市多摩区登戸1775番地1
電話	: 044-935-3147
FAX	: 044-935-3391
メール	: 71kikaku@city.kawasaki.jp

■ 生活環境の満足度について

あなたがお住まいの多摩区について、日頃感じていることなどについてお伺いします。

問1 多摩区の長所・魅力・魅力と思っっているものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 公共交通の利便性がよい
2. 買い物や銀行、病院など日常生活の利便性がよい
3. 教育・文化環境がよい
4. 住環境がよい
5. 治安や風紀がよい
6. 自然環境がよい
7. その他 ()

問2 あなたにとって多摩区はどの程度住みやすいですか。(○は1つだけ)

1. とても住みやすい
2. どちらかといえば住みやすい
3. どちらかといえば住みにくい
4. とても住みにくい
5. わからない

問3 多摩区に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

1. 多摩区内に住み続けたい → 次ページ問4へ
2. 多摩区以外の川崎市内に住みたい → 問3-1へ
3. 川崎市外に転居したい → 問3-1へ
4. わからない → 次ページ問4へ

【問3で「2. 多摩区以外の川崎市内に住みたい」「3. 川崎市外に転居したい」のいずれかに答えた方にお伺いします。】

問3-1 その理由は何か。(あてはまるものすべてに○)

1. 通勤・通学が不便だから
2. 買い物や通学が不便だから
3. 住宅事情がよくないから
(家賃が高い、家が狭いなど)
4. 住環境がよくないから
(日照、騒音、治安など)
5. 医療環境がよくないから
6. 保育環境がよくないから
7. 介護環境がよくないから
8. 子どもの教育のため
9. その他 ()

【全員の方へ】

問4 あなたにとって多摩区は、以下の項目に関してどの程度あてはまりますか。あてはまると感じるものをお選びください。(○は各項目で1つだけ) (「非常に当てはまる」を10、「まったく当てはまらない」を1として10段階)

回答例	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
非常に当てはまる										
まったく当てはまらない										
(ア) 多摩区に愛着を持っている										
非常に当てはまる										
まったく当てはまらない										
(イ) 多摩区の細部まで熟知している										
非常に当てはまる										
まったく当てはまらない										
(ウ) 多摩区に誇りを持っている										
非常に当てはまる										
まったく当てはまらない										
(エ) 多摩区について自慢にしたいことがある										
非常に当てはまる										
まったく当てはまらない										
(オ) 自分は多摩区に貢献している										
非常に当てはまる										
まったく当てはまらない										

問5 多摩区的生活環境についてお伺いします。次にあげる項目についてどの程度満足していますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	満足している	まあ満足している	少し不満である	不満である	わからない
回答例	1	2	3	4	5
(ア) 地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	1	2	3	4	5
(イ) 風紀上・防犯上の安心感	1	2	3	4	5
(ウ) 交通事故・危険物からの安心感	1	2	3	4	5
(エ) 空気や自然のきれいさ	1	2	3	4	5
(オ) 家の周りの静けさ	1	2	3	4	5
(カ) 公園や緑の豊かさ	1	2	3	4	5
(キ) 通勤・通学の便利さ	1	2	3	4	5
(ク) 買い物物の便利さ	1	2	3	4	5
(ケ) 病院や医院までの距離	1	2	3	4	5
(コ) 休日、夜間などの救急医療体制の充実度	1	2	3	4	5
(サ) 市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	1	2	3	4	5
(シ) 市や区の窓口サービス	1	2	3	4	5

問6 市政について総合的にお伺いします。次にあげる仕事の中で、よくやっていると思われるものは、どれですか。(あてはまるものすべてに○)

問7 また、今後特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(あてはまるものすべてに○)

回答例	問6 よくやっている と思うもの	問7 今後特に力を入 れてほしいもの
1. 海外姉妹都市との国際交流事業	1	1
2. 行財政改革	2	2
3. 市や区の仕事などについての情報提供	3	3
4. 市政への市民参加の促進のための施策	4	4
5. 地域の問題が解決できるよう各区役所機能の強化	5	5
6. 防犯対策	6	6
7. 交通安全対策	7	7
8. 美術館、各種ホールなど文化施設の整備	8	8
9. 映画祭、国際会議など文化的な催しや活動	9	9
10. 女性の活躍推進のための施策	10	10
11. 中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	11	11
12. 観光推進、都市イメージの向上(シテイクプロモーション)	12	12
13. 道路、公園、広場の美化・清掃	13	13
14. 公園の整備や維持管理	14	14
15. 自然や緑の保全	15	15
16. 大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	16	16
17. 日常のごみ収集やリサイクル	17	17
18. 子どものための施策	18	18
19. 高齢者のための施策	19	19
20. 障害者のための施策	20	20
21. 病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	21	21
22. 健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	22	22
23. 市営住宅の建設・整備	23	23
24. 主要な駅周辺の再開発	24	24
25. 河川の整備	25	25
26. 下水道の整備	26	26
27. 道路・歩道の整備	27	27
28. 放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	28	28
29. 市民が親しむことのできる港湾の整備	29	29
30. 水道水の安定供給	30	30
31. バスなどの交通網の整備	31	31
32. 消防力の強化や防災体制の整備	32	32
33. 市民が学習する機会や施設の整備	33	33
34. スポーツ・レクリエーションの施設整備	34	34
35. 小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	35	35
36. わからない	36	36
37. 特になし	37	37

問8 川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。(○は1つだけ)

1. 満足している	3. 少し不満である	5. わからない
2. まあ満足している	4. 不満である	

■ 市政への参加、地域でのボランティア活動などについて

町内会・自治会や市民活動団体での取組など、あなたの地域でのボランティア活動などへの参加状況や考え方についてお伺いします。

問9 地域のボランティア活動、サークル活動などを行っていますか。

(○は1つだけ)

1. 活動を行っている → 問9-1へ
 2. 活動は行っていない → 次ページ問9-3へ

【問9で「1. 活動を行っている」と答えた方にお伺いします。】

問9-1 地域で活動している団体（グループや個人の活動も含む）の活動分野をお選びください。（あてはまるものすべてに○）

1. 町内会・自治会に関する活動
2. 乳幼児に関する活動
3. 小中学生に関する活動
4. 青年に関する活動
5. 外国籍市民に関する活動
6. 知識・技能を地域に活かせる活動
7. 教育・生涯学習に関する活動
8. 地域のまちづくりに関係する活動
9. 防犯・防火に関する活動
10. 交通安全に関する活動
11. 介護に関する活動
12. 障害者に関する活動
13. 地域での健康づくりに関する活動
14. 街の美化や緑化、生活環境に関する活動
15. 文化、観光、産業に関する活動
16. スポーツに関する活動
17. 趣味や余暇を活かした活動
18. 環境保全に関する活動
19. その他（ ）

【引き続き、問9で「1. 活動を行っている」と答えた方にお伺いします。】

問9-2 地域で活動する上で支援を受けたいと思えるものはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 一緒に活動する人材の紹介
2. 事務的なサポートをする人材の紹介
3. 活動の打合せができる場所
4. 活動資金
5. 活動の参考になる情報の収集
6. 活動の広報
7. その他（ ）
8. 特にない

→ 8 ページの問10へ

【前ページ問9で「2. 活動は行っていない」と答えた方にお伺いします。】

問9-3 地域でのボランティア活動などを行っていない理由をお選びください。（あてはまるものすべてに○）

1. 仕事や子育て、介護などで忙しく時間が足りない・合わないため
2. 地域で活動するきっかけがないため
3. 地域での活動に関心がないため
4. 地域での付き合いがわずらわしいため
5. 地域での活動に参加する体力がないため
6. その他（ ）

【引き続き、前ページ問9で「2. 活動は行っていない」と答えた方にお伺いします。】

問9-4 地域でのボランティア活動などを始めるきっかけとして、どのような機会や場があることが効果的だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 新しく地域活動を始めきっかけとなるような講座や活動体験会等の開催
2. 地域での活動を紹介するイベントの開催
3. 地域での活動を紹介する資料の閲覧や相談の場
4. インターネット等での地域での活動の情報紹介
5. その他（ ）
6. わからない
7. 特にない

【引き続き、前ページ問9で「2. 活動は行っていない」と答えた方にお伺いします。】

問9-5 地域でのボランティア活動などを行うとした場合、どのようなかたちで地域で活動をしたいですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 自分の住んでいる地域で貢献できる活動をしたい
2. 市民館などの公共施設で生涯学習に関する活動に取り組みたい
3. 区役所が市民と協働で取り組む事業に参加したい
4. その他（ ）
5. 地域でのボランティア活動などには参加したくない

災害に強く安全で安心できるまちづくりについてお伺いします。

問15 大地震などの大規模な災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 3日分以上の食料の用意(備蓄)
2. 3日分以上の飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)
3. 避難所や避難経路の確認
4. 家具の適切な配置や転倒防止対策
5. 窓ガラスの飛散防止対策
6. 懐中電灯など、停電に対する備え
7. 地震ブレーカーの設置(地震の揺れを感知し自動的にブレーカーを遮断する機器)
8. 家族と緊急時における連絡方法の確認
9. ハザードマップや防災マップの確認
10. その他()
11. 特にない

問16 災害に対する日頃からの備えに関する情報が何から提供されたら効果的だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 区(市)のホームページ
2. SNS(ツイッター、フェイスブックなど)
3. 電子メール
4. スマートフォンアプリ
5. 市政だより
6. 町内会・自治会など地域の集まり
7. 町内会・自治会の回覧
8. 地域の防災訓練
9. 防災に関する出前講座や講話
10. 防災フェアなどのイベント
11. チラシやパンフレット、冊子
12. 学校からの便り
13. テレビ・ラジオ
14. DVD等
15. その他()

すこやかに安心して暮らせる地域福祉・健康のまちづくりについてお伺いします。

問17 誰もが住み慣れた地域や場所です心安心して暮らし続けるため、医療、看護、介護、福祉・生活支援が切れ目なく一体的に提供される仕組みと地域づくりの取組である「地域包括ケアシステム」を知っていますか。(○は1つだけ)

1. よく知っている
2. ある程度知っている
3. 聞いたことはある
4. 知らない

問18 あなたの近所付き合いは以下のどれに当てはまりますか。(○は1つだけ)

1. 家族のように親しく付き合い合っている人がいる
2. 家に行き来したり、親しく話をする人がいる
3. 親しく話をする人がいる
4. とまどき話をする程度
5. あいさつをする程度
6. ほとんど付き合い合っていない

問19 困ったとき、近所にちよっとした手助けを頼める人はいいますか。(○は1つだけ)

1. いる
2. いない

問20 近所の人にちよっとした手助けを頼まれた場合に、自分にもできると思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 話し相手
2. 週1回程度の見守り
3. 散歩の付き添い・介助
4. 通院の付き添い・介助
5. 日用品の買い物
6. 庭木の水やり
7. 庭木の剪定、草むしり
8. 園芸相談
9. 日曜大工程度の修理
10. 家具の移動、部屋の模様替え
11. 蛍光灯、電球の交換
12. 繕いもの(ボタン付け等)
13. 犬の散歩
14. ごみ出し
15. パソコン・スマートフォンの操作説明
16. 簡単な書類作成
17. 短時間の子どもの預かり
18. その他()
19. わからない
20. 特にない

市民自治を一層進める地域人材によるまちづくりについてお伺いします。

問25 多摩区には、専修、明治、日本女子の3つの大学が立地しています。これまで、さまざまな取組を通して、大学の持つ知的資源や多彩な人材を活用し、大学と地域社会との交流連携を深めてきました。あなたが知っている大学・大学生が関連したイベントや取組などはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|--|
| 1. 多摩区3大学コンサート | 8. 各大学公開講座 |
| 2. 大学図書館の地域開放 | 9. 多摩区・3大学連携協議会情報誌「たまなびニュース」 |
| 3. 大学・地域連携事業 | 10. たまなびプログラム (大学生と地域のつながりづくりや交流を促進する取組) |
| 4. 書き損じハガキの回収 | 11. 多摩区子ども探求クラブ |
| 5. 多摩区民祭でのブース展示 | 12. その他 () |
| 6. 多摩区民祭でのブース公演 | 13. 知ってる取組・イベントはない |
| 7. 箱根駅伝出場校への応援メッセージ募集 | |

区役所が力を入れて取り組むべき施策について

問26 川崎市では、地域の課題はできるだけ身近な区役所で解決することができるよう、区役所改革を推進しています。区民に身近な区役所が速やかに力を入れて取り組むべき施策は何であると考えますか。(あてはまるものすべてに○)

※項目の後ろに(市)とあるものは、現時点で主に市役所を中心として進めているもの

- | | |
|--------------------------|----------------------------------|
| 1. 区役所の業務などについての広報、情報提供 | 16. 大気汚染や騒音・振動などの対策(市) |
| 2. 区政への市民参加の促進のための施策 | 17. 日常のごみ収集やリサイクル(市) |
| 3. 町内会・自治会、市民活動の支援に関する施策 | 18. 子ども・子育てのための施策 |
| 4. 災害時の対応などの危機管理 | 19. 高齢者のための施策 |
| 5. 防犯対策 | 20. 障害児・障害者のための施策 |
| 6. 交通安全対策 | 21. 健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策 |
| 7. 音楽など芸術・文化的な催しや活動 | 22. 主要な駅周辺の再開発(市) |
| 8. 商店街振興(市) | 23. 道路・歩道の整備 |
| 9. 観光推進 | 24. 放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策 |
| 10. 区のイメージの向上 | 25. コミュニティバスなどの地域交通のための施策(市) |
| 11. 窓口サービスの向上 | 26. 区民が学習する機会の提供 |
| 12. 道路の美化・清掃 | 27. スポーツ・レクリエーションの推進 |
| 13. 公園の整備や維持管理 | 28. わからない |
| 14. 自然や緑の保全(市) | 29. その他() |
| 15. 地球温暖化対策 | 30. 特にない |

問21 日頃の生活で自分と背景が異なる人(世代、暮らしぶりなど)との付き合いが多いですか。(○は1つだけ)

- | |
|-------------------|
| 1. そう思う |
| 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない |
| 5. そう思わない |

問22 多摩区では、健康づくりや仲間づくりを目的に、身近な地域で「みんなの公園体操」・「いきいき体操」・「健康ウォーク」などの活動が行われています。これらの活動に参加したことがありますか、また参加したいと思いませんか。(○は1つだけ)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 現在参加している |
| 2. 過去に参加したことがある |
| 3. 参加したことはないが、ぜひ参加してみたい |
| 4. 参加したことはないが、きっかけや時間があれば参加してみたい |
| 5. 参加したことはないし、参加したくない |
| 6. わからない |

問23 多摩区役所では、認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を見守るために、認知症サポーター養成講座を行っています。この講座を受講したことがありますか。また、受講したいと思いませんか。(○は1つだけ)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 受講したことがある |
| 2. 受講したことはないが、ぜひ受講してみたい |
| 3. 受講したことはないが、きっかけや時間があれば受講してみたい |
| 4. 受講したことはないし、受講したくない |
| 5. わからない |

問24 地域で認知症カフェやコミュニティカフェが開催されていることを知っていますか。また、参加したことはありますか。(○は1つだけ)

- | |
|----------------------|
| 1. よく知っており、参加したことがある |
| 2. 知っているが、参加したことはない |
| 3. 聞いたことはある |
| 4. 知らない |

■ あなた自身のことについて

このアンケートの統計分析に必要なため、次の項目についてお伺いします。

問27 あなたの性別をお聞かせください。(○は1つだけ)

1. 男性 2. 女性

問28 あなたの年齢をお聞かせください。(○は1つだけ)

1. 18～19歳 6. 40～44歳 11. 65～69歳
 2. 20～24歳 7. 45～49歳 12. 70～74歳
 3. 25～29歳 8. 50～54歳 13. 75歳以上
 4. 30～34歳 9. 55～59歳
 5. 35～39歳 10. 60～64歳

問29 あなたの現在の職業をお聞かせください。(○は1つだけ)

- | | |
|---|---|
| 1. 自営業
2. 家族従業 (家業手伝い)
3. 勤め (全日)
4. 勤め (パートタイム) | 5. 内職
6. 主婦・主夫 (家事専業)
7. 学生
8. 無職 (収入が年金のみの方を含む)
9. その他 ()
↳ 次ページ問30へ |
|---|---|

【問29で「1. 自営業」「2. 家族従業 (家業手伝い)」「3. 勤め (全日)」「4. 勤め (パートタイム)」のいずれかに答えた方にお伺いします。】

問29-1 お仕事の内容を具体的に聞かせください。(○は1つだけ)

- | | |
|---|--|
| 自営業、家族従業の方
(1～3の中からお選びください)
1. 農林漁業
2. 商工サービス業
3. 自由業 | 勤め (全日/パートタイム)の方
(4～8の中からお選びください)
4. 経営・管理職
5. 専門・技術職
6. 事務職
7. 技能・労務職
8. 販売・サービス職 |
|---|--|

【全員の方へ】

問30 お勤め先あるいは通学先はどちらですか。(○は1つだけ)

1. 川崎市内 (多摩区) 5. 東京都 (23区内)
 2. 川崎市内 (多摩区以外) 6. 東京都 (23区以外)
 3. 横浜市 7. その他 ()
 4. 神奈川県内 (川崎市・横浜以外) 8. 通勤・通学していない

問31 あなたのお住まいをお聞かせください。(○は1つだけ)

1. 生田1～3丁目 10. 菅1～6丁目 19. 東三田2丁目
 2. 生田4～8丁目 11. 堰1～3丁目 20. 布田
 3. 宿河原1～7丁目 12. 中野島 21. 桁形1～7丁目
 4. 菅稲田堤1～3丁目 13. 中野島1～6丁目 22. 栗谷1～4丁目
 5. 菅北浦1～5丁目 14. 長尾1～7丁目 23. 寺尾台1～2丁目
 6. 菅城下 15. 登戸 24. 長沢1～4丁目
 7. 菅仙谷1～4丁目 16. 登戸新町 25. 西生田1～5丁目
 8. 菅野戸品 17. 東生田1～4丁目 26. 三田1～5丁目
 9. 菅馬場1～4丁目 18. 東三田1、3丁目 27. 南生田1～8丁目

問32 あなたのお住まい (住居) は次のどれに当たりますか。(○は1つだけ)

1. 持ち家 (一戸建て) 5. 借家 (アパート・間借・下宿)
 2. 持ち家 (マンション・団地) 6. 社宅・寮・公務員社宅
 3. 借家 (一戸建て) 7. その他 ()
 4. 借家 (マンション・団地・公営住宅)

問33 あなたの世帯は何人家族ですか。御自分を含めた人数を () 内に御記入ください。また、ひとり暮らし以外の方は、同居している家族すべてに○をつけてください。あなたからみた続柄でお答えください。

- あなたの世帯の人数 (御自分を含む)・・・ () 人
- | | | |
|----------------------|-----------|---------------|
| 同居家族
(ひとり暮らし以外の方) | 1. 夫 | 7. 兄弟、姉妹 |
| | 2. 妻 | 8. 孫 |
| | 3. 父 | 9. 父母の親 (祖父母) |
| | 4. 母 | 10. 配偶者の兄弟、姉妹 |
| | 5. 子ども | 11. 配偶者の父母の親 |
| | 6. 配偶者の父母 | 12. その他 () |

問34 お子さんをお持ちの方にお伺いします。どの年代のお子さんがいらっしゃいますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|--------|--------|-----------------|
| 1. 就学前 | 3. 中学生 | 5. 大学生 |
| 2. 小学生 | 4. 高校生 | 6. この年代の子どもはいない |

問35 日頃最寄り駅までどのような交通手段を御利用になりますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------|---------------|---------------|
| 1. 徒歩 | 3. バイク (原付含む) | 5. 自動車 (送迎含む) |
| 2. 自転車 | 4. バス | |

問36 あなたは多摩区に住んで何年になりますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 3年未満 | 3. 10～20年未満 |
| 2. 3～10年未満 | 4. 20年以上 |

問37 多摩区役所からのお知らせや情報をどのような手段で入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1. 市政日より | |
| 2. 区(市)のホームページ | |
| 3. 町内会・自治会の回覧板 | |
| 4. 地域の掲示板 | |
| 5. 新聞記事 | |
| 6. 地域情報紙(タウンニュースなど) | |
| 7. 区役所等公共施設に設置されたポスター・パンフレット類 | |
| 8. 区役所から送られるお知らせ文書 | |
| 9. その他() | |
| 10. 特に多摩区役所からのお知らせや情報は入手していない | |

以上でアンケートは終了です。
御協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、**11月28日(水)**までに御投函ください。

御記入がお済みの調査票は、印のところで三つ折りにして、封筒に入れてください。

※お名前・御住所の御記入は不要です。
※切手は貼らずにそのままポストへ投函してください。

平成31年3月発行

平成30年度 多摩区区民意識アンケート調査 報告書

調査主体 川崎市多摩区役所 まちづくり推進部 企画課
〒214-8570
神奈川県川崎市多摩区登戸1775-1
電話：044-935-3140

調査実施 株式会社 サーベイリサーチセンター
〒116-0013
東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
電話：03-3802-6711

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。
再生紙を使用しています。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

